

大和市 人口ビジョン



健康創造都市やまと

(検討資料)

地方版人口ビジョン



地方版総合戦略と併せて策定するもの



各自治体の2060年の人口展望(理想の見込み)を示すもの

1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

(1). 総人口の状況

(2). 自然増減の状況

(3). 社会増減の状況

イ). 将来人口の推計と分析

ウ). 将来人口の推計と分析

2. 人口の将来展望

ア). 将来展望に向けた地域の調査、分析結果

イ). 目指すべき将来の方向

ウ). 将来の方向を踏まえた人口の見通し

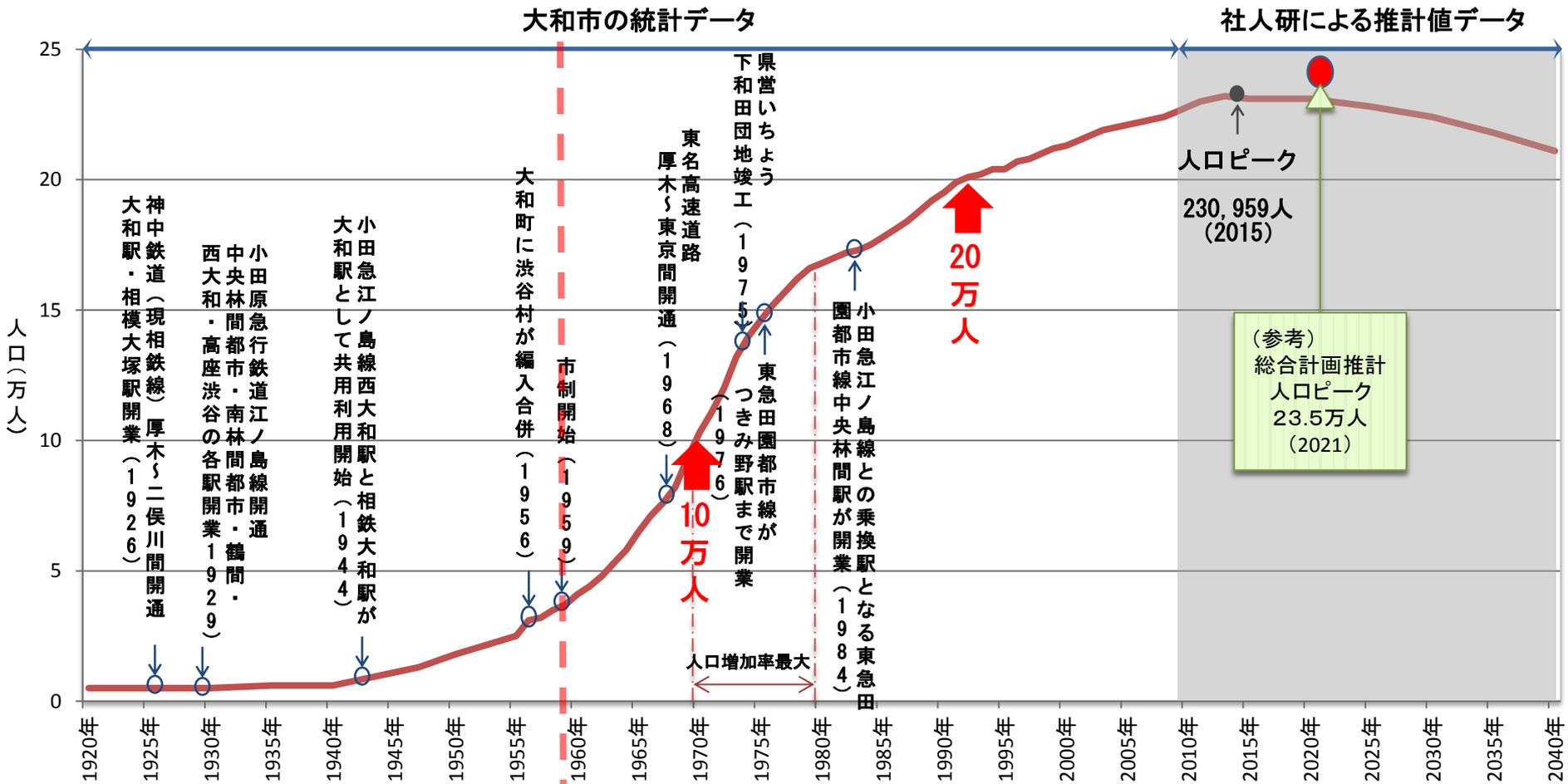
1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

(1) 総人口の動き

① 長期の傾向1920年～2010年

大和市の総人口の推移と関連する出来事



- ・1970年 市の人口が10万人を超える
- ・1992年 市の人口が20万人を超える

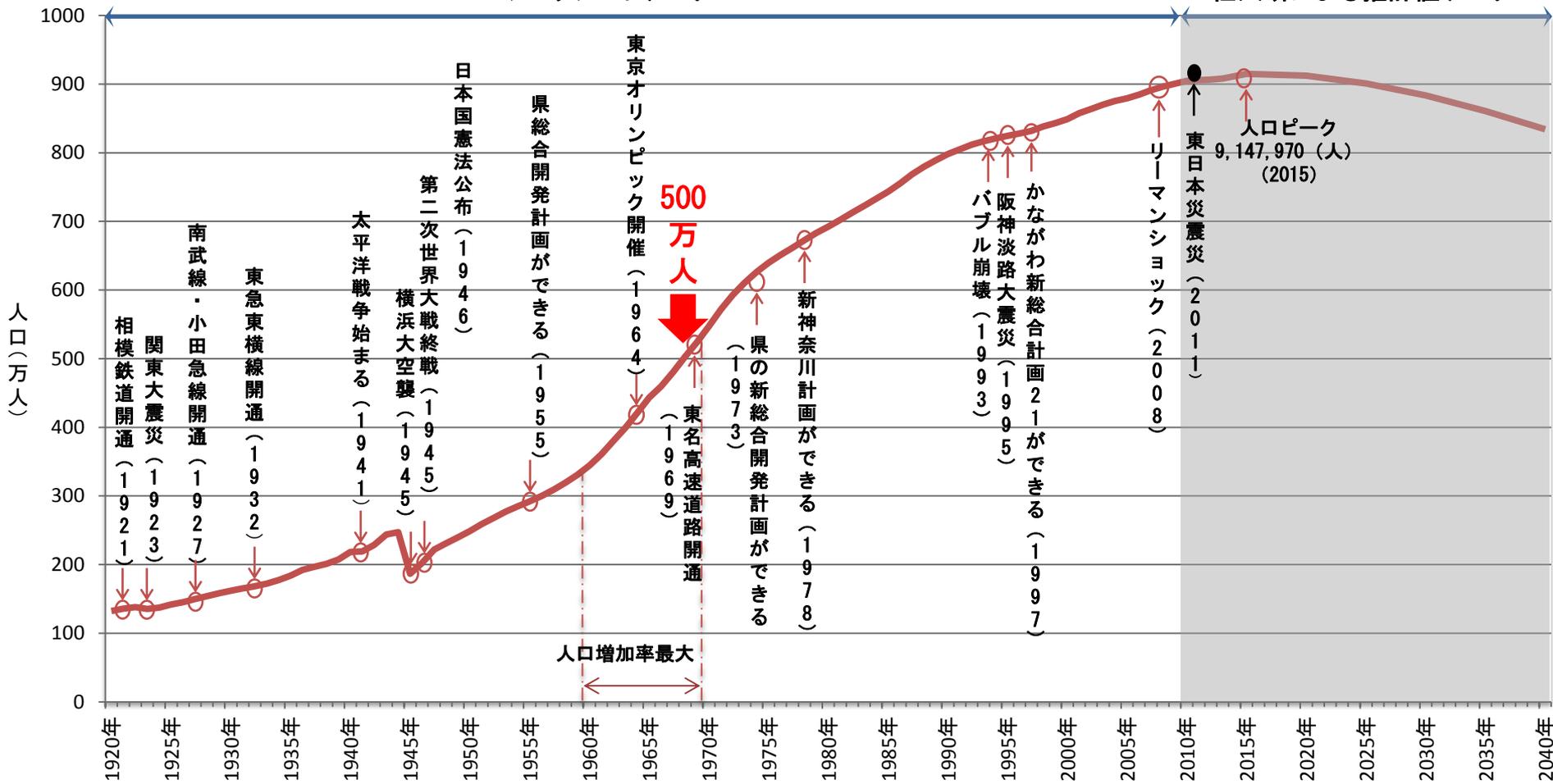
※参考

大和市の直近の人口
233,280人(2015年9月)

(参考) 神奈川県

ワークシートデータ

社人研による推計値データ



大和市と神奈川県の大人口の比較

■大和市と神奈川県の大人口

	国勢調査時の人口		増加した比率	50年間で増加した人口
	1960年(S35)	2010年(H22)		
大和市	40,975人	228,186人	5.57倍	187,211人
神奈川県	3,443,176人	9,048,331人	2.63倍	5,605,155人

(神奈川県HP:国勢調査結果による人口と世帯の推移から作成)

●この50年間の大和市の人口は、県の2倍を上回るペースで増加してきた

(参考)県内各市の状況(市制開始が1960年以前の市)

	国勢調査時の人口		増加した比率	50年間で増加した人口
	1960年(S35)	2010年(H22)		
横浜市	1,375,710人	3,688,773人	2.68倍	2,313,063人
川崎市	632,975人	1,425,512人	2.25倍	792,537人
相模原市	137,114人	717,544人	5.23倍	580,430人
横須賀市	287,309人	418,325人	1.46倍	131,016人
平塚市	108,279人	260,780人	2.41倍	152,501人
鎌倉市	98,617人	174,314人	1.77倍	75,697人
藤沢市	124,601人	409,657人	3.29倍	285,056人
小田原市	124,813人	198,327人	1.59倍	73,514人
茅ヶ崎市	68,054人	235,081人	3.45倍	167,027人
逗子市	39,572人	58,302人	1.47倍	18,730人
三浦市	39,811人	48,352人	1.21倍	8,541人
秦野市	51,285人	170,145人	3.32倍	118,860人
厚木市	46,243人	224,420人	4.85倍	178,177人

(各市のHP公開の統計書等から引用し作成)

1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

(1) 総人口の動き

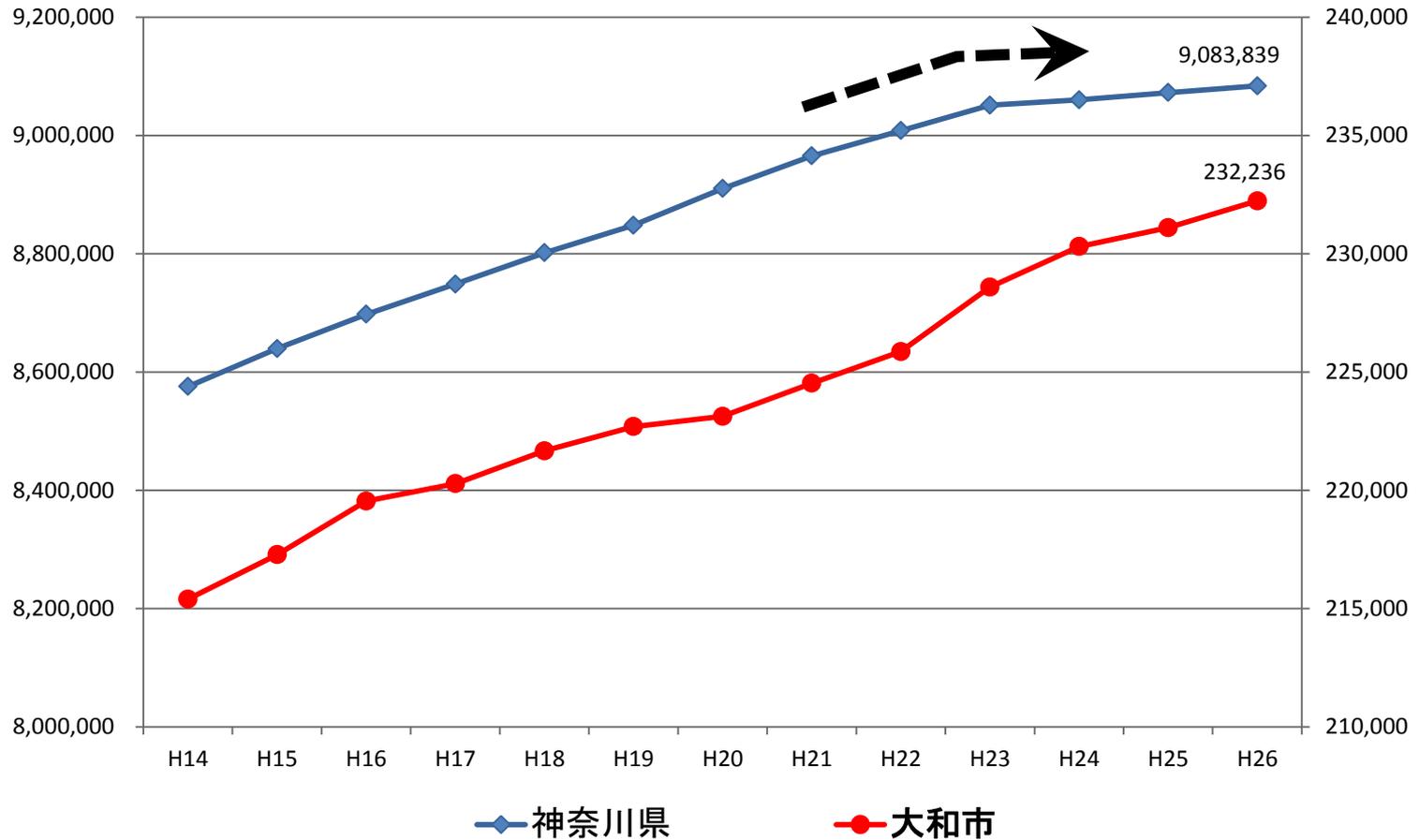
② 近年の傾向2002年～2014年

～神奈川県・大和市の推移～

総人口（神奈川県・大和市）

神奈川県

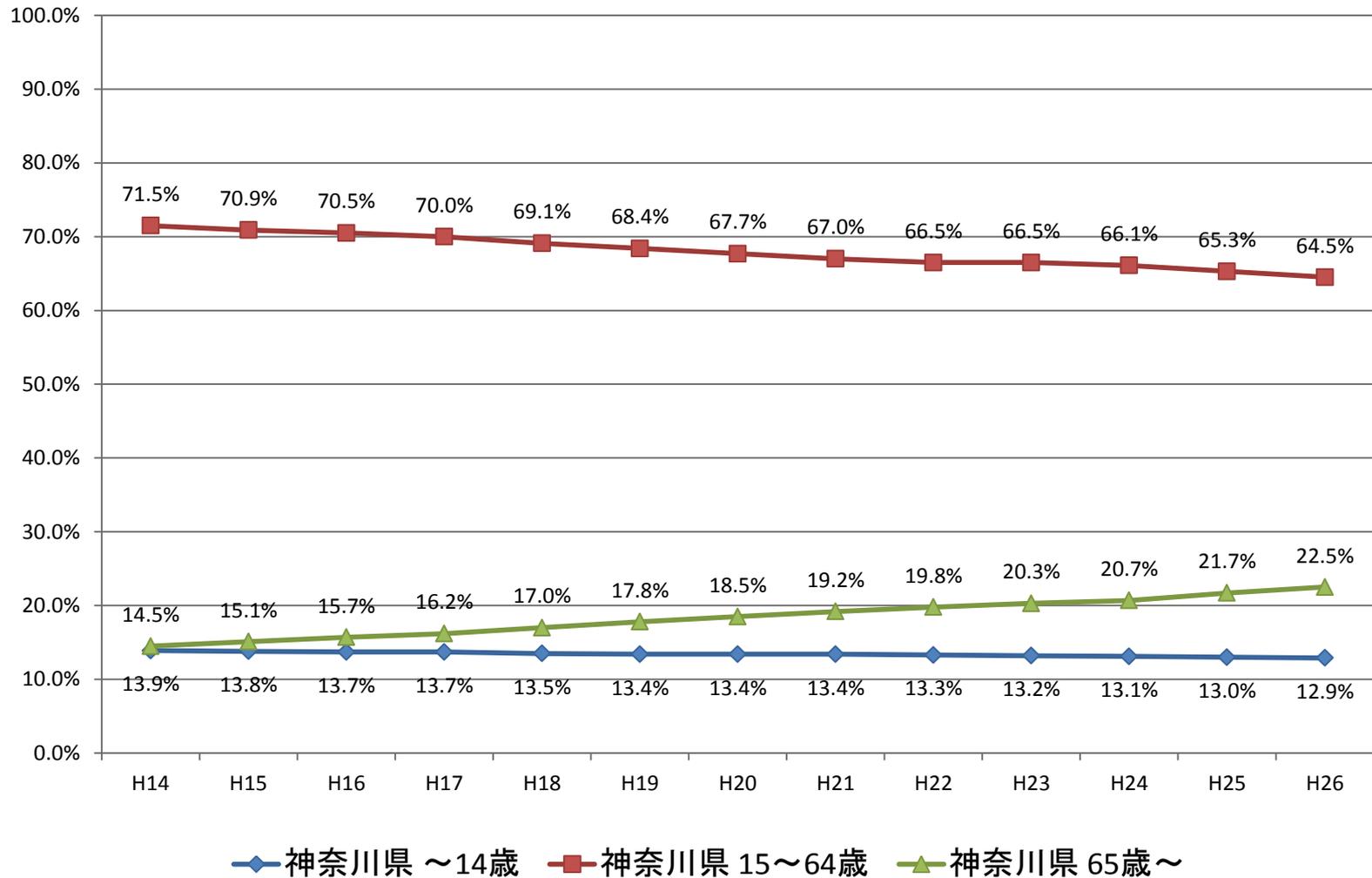
大和市



(神奈川県人口統計調査 市町村別人口と世帯 神奈川県HPより)

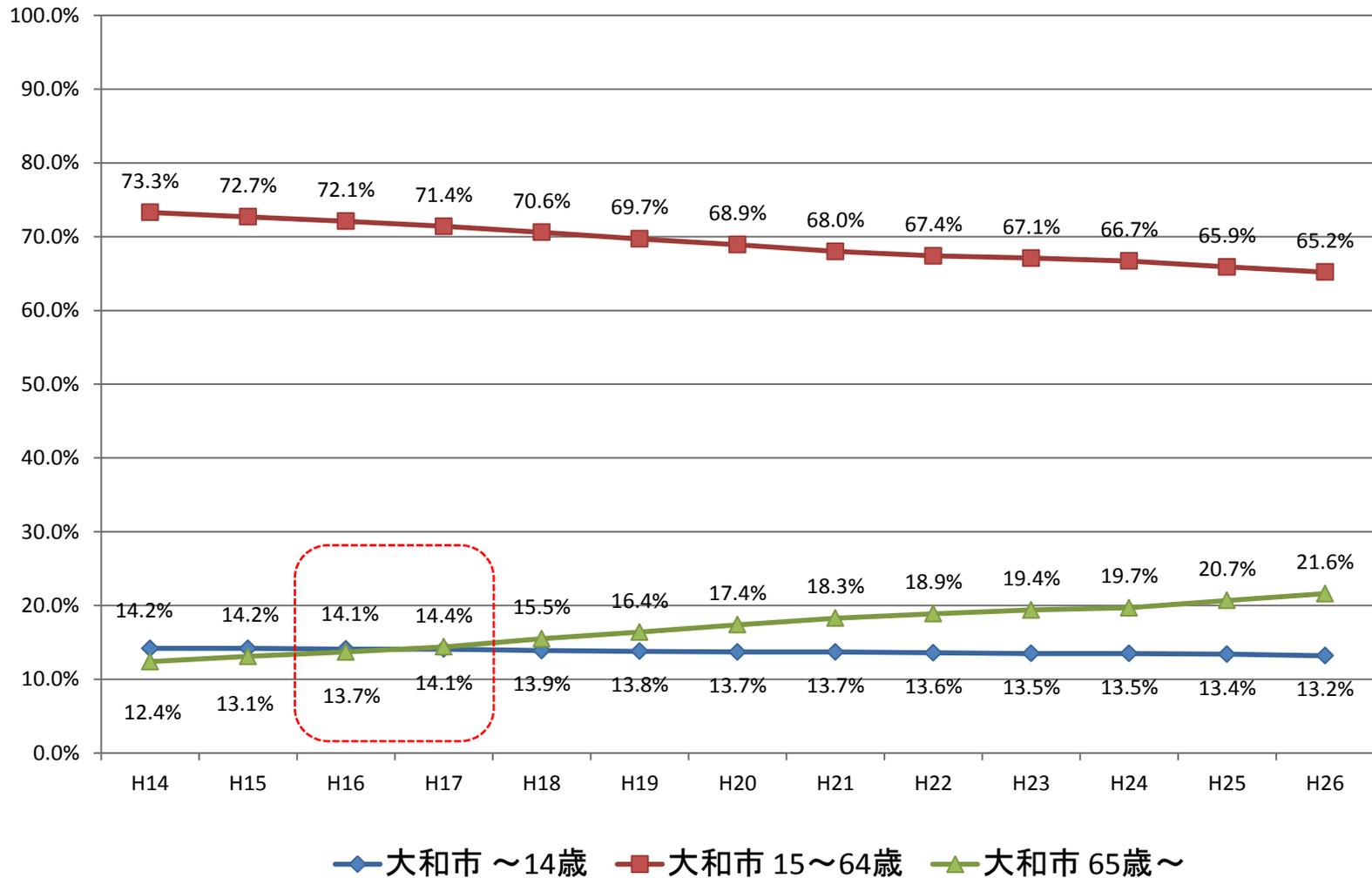
● 神奈川県は人口の上昇カーブが鈍化してきている

年齢3区分別人口の割合(神奈川県)



(神奈川県年齢別人口統計調査 神奈川県HPより)

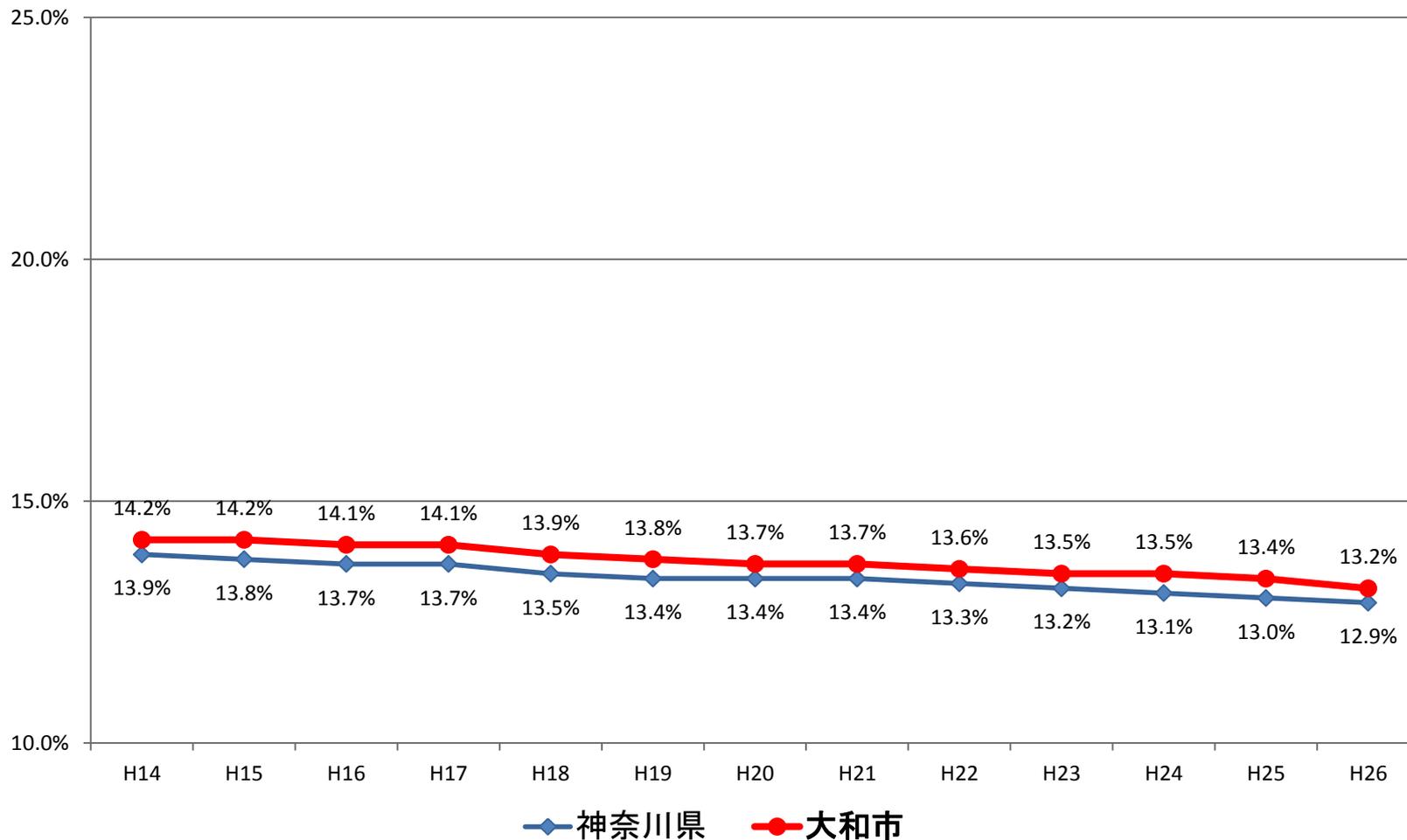
年齢3区分別人口の割合(大和市)



(神奈川県年齢別人口統計調査 神奈川県HPより)

●平成16→17年に高齢者人口の割合が年少人口の割合を上回る

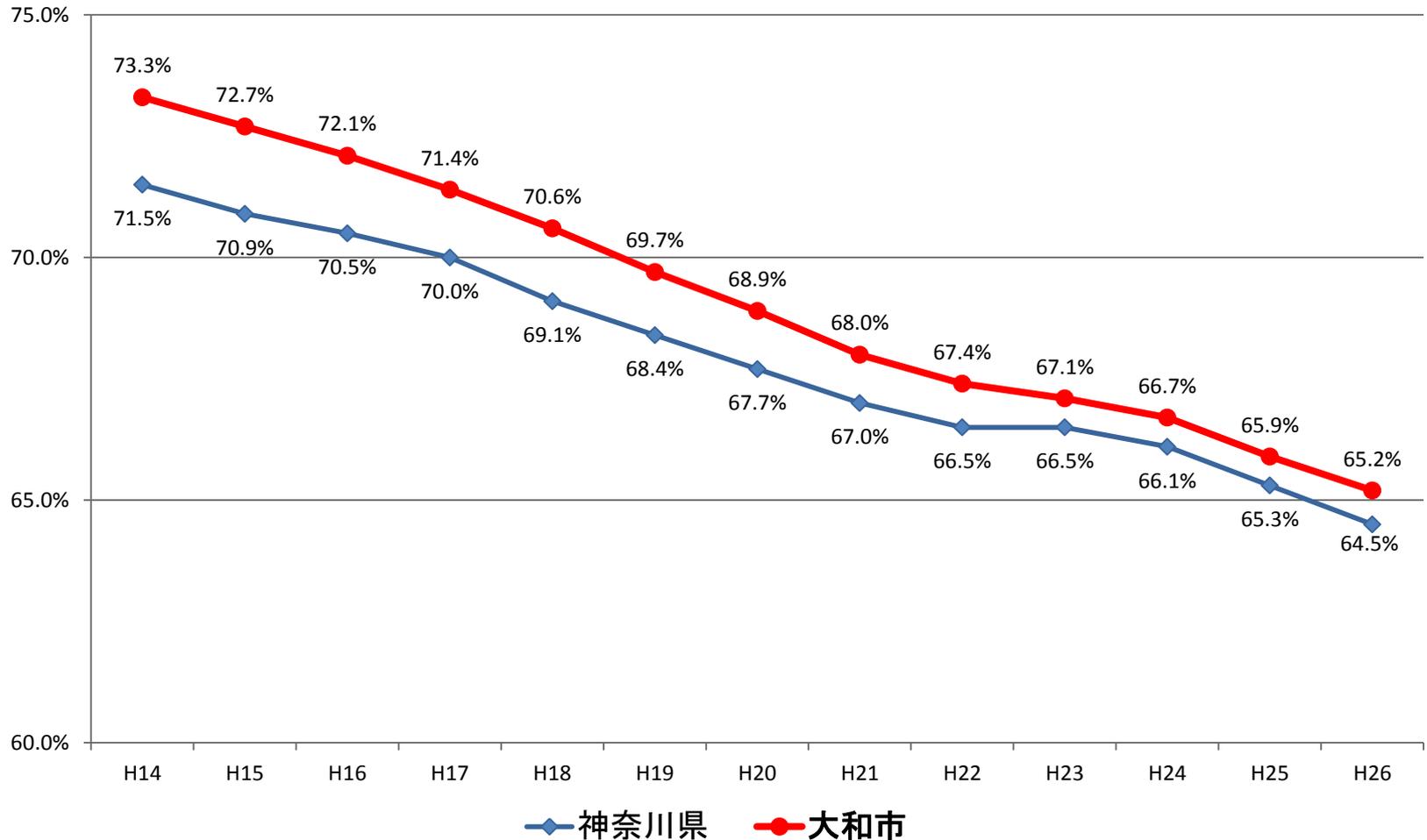
年少人口の構成比(神奈川県・大和市)



(神奈川県年齢別人口統計調査 神奈川県HPより)

●神奈川県、大和市ともに減少傾向

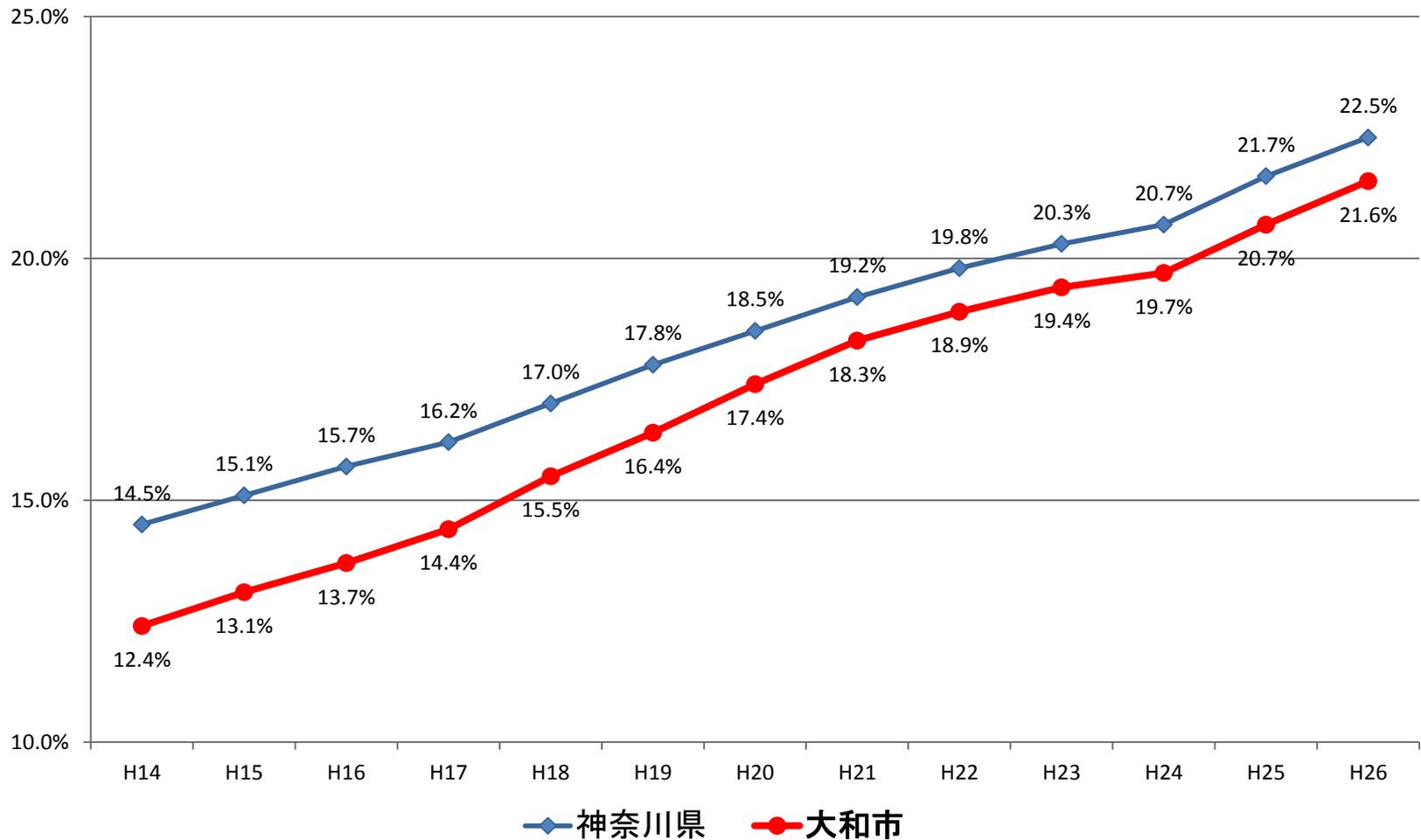
生産年齢人口の構成比(神奈川県・大和市)



(神奈川県年齢別人口統計調査 神奈川県HPより)

●減少傾向が年少人口より強い＝人口規模が大きい(64歳⇒65歳)

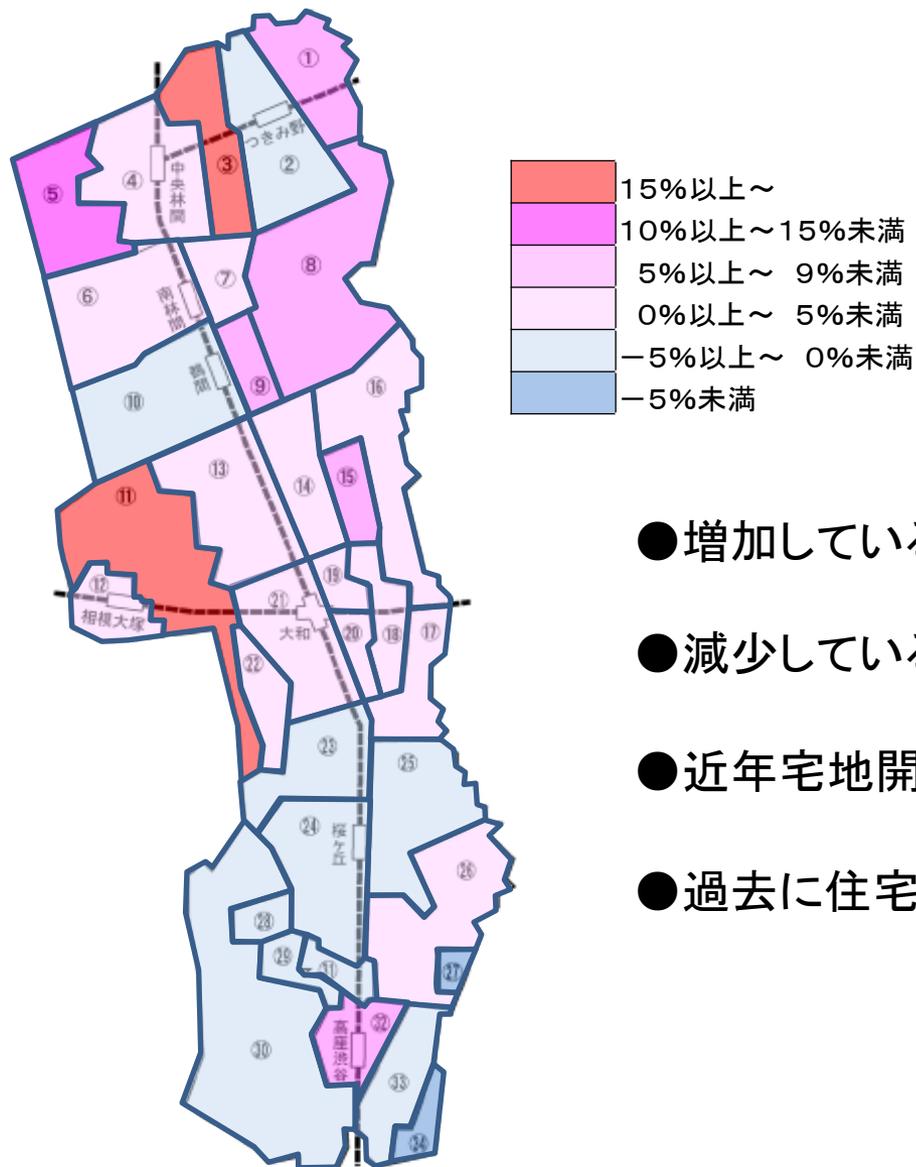
高齢者人口の構成比(神奈川県・大和市)



(神奈川県年齢別人口統計調査 神奈川県HPより)

●生産年齢人口の減少に対して、増加(反比例)している

(参考)市内の人口増減の状況(2010→2014)



- 増加している地域は北部が中心
- 減少している地域は南部が中心
- 近年宅地開発が進められた地域は増加傾向
- 過去に住宅街が形成された地域は減少傾向

1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

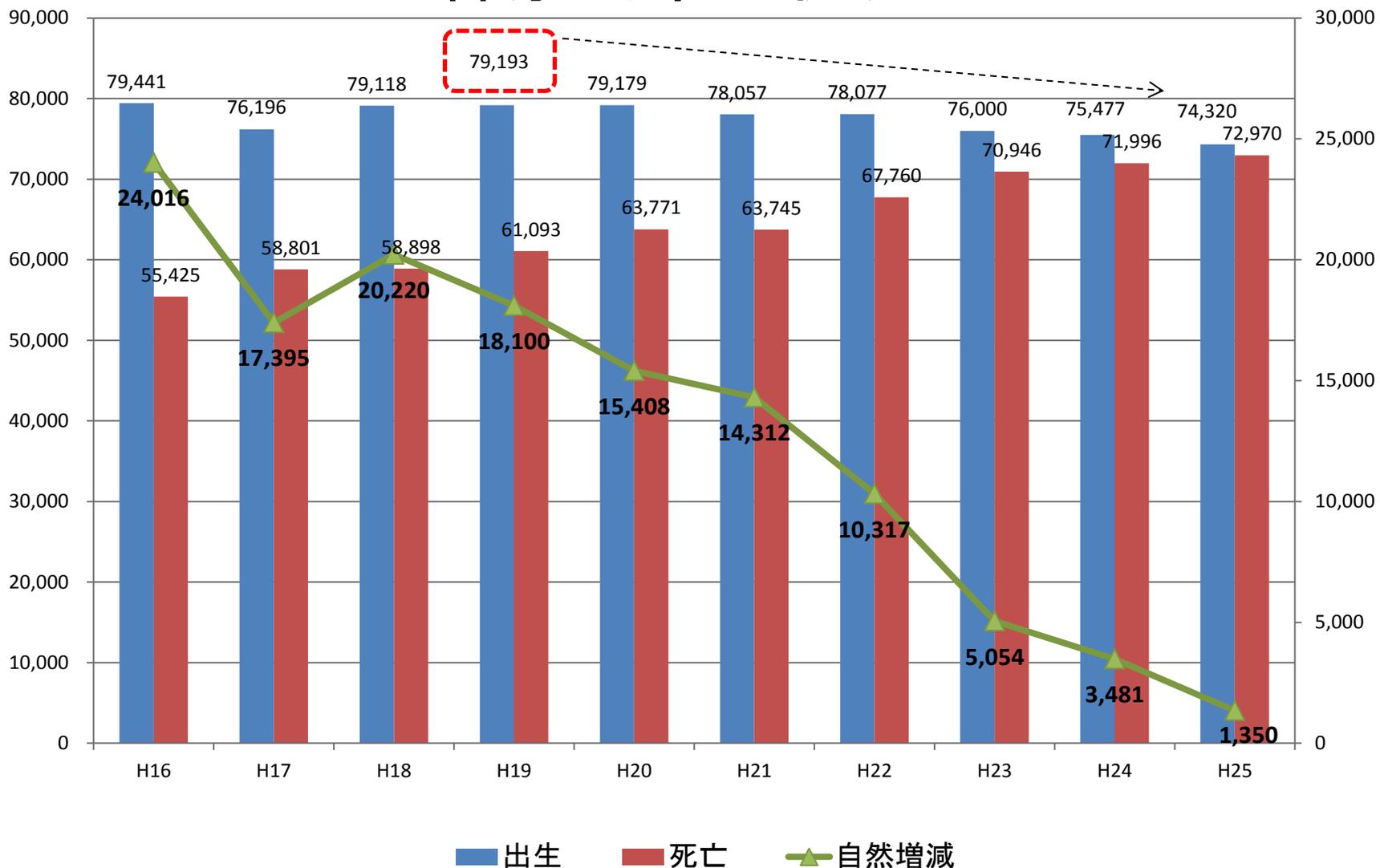
(2) 自然増減の状況

～神奈川県・大和市の推移～
(2004年～2013年)

神奈川県の状況

出生・死亡者数

自然増減数



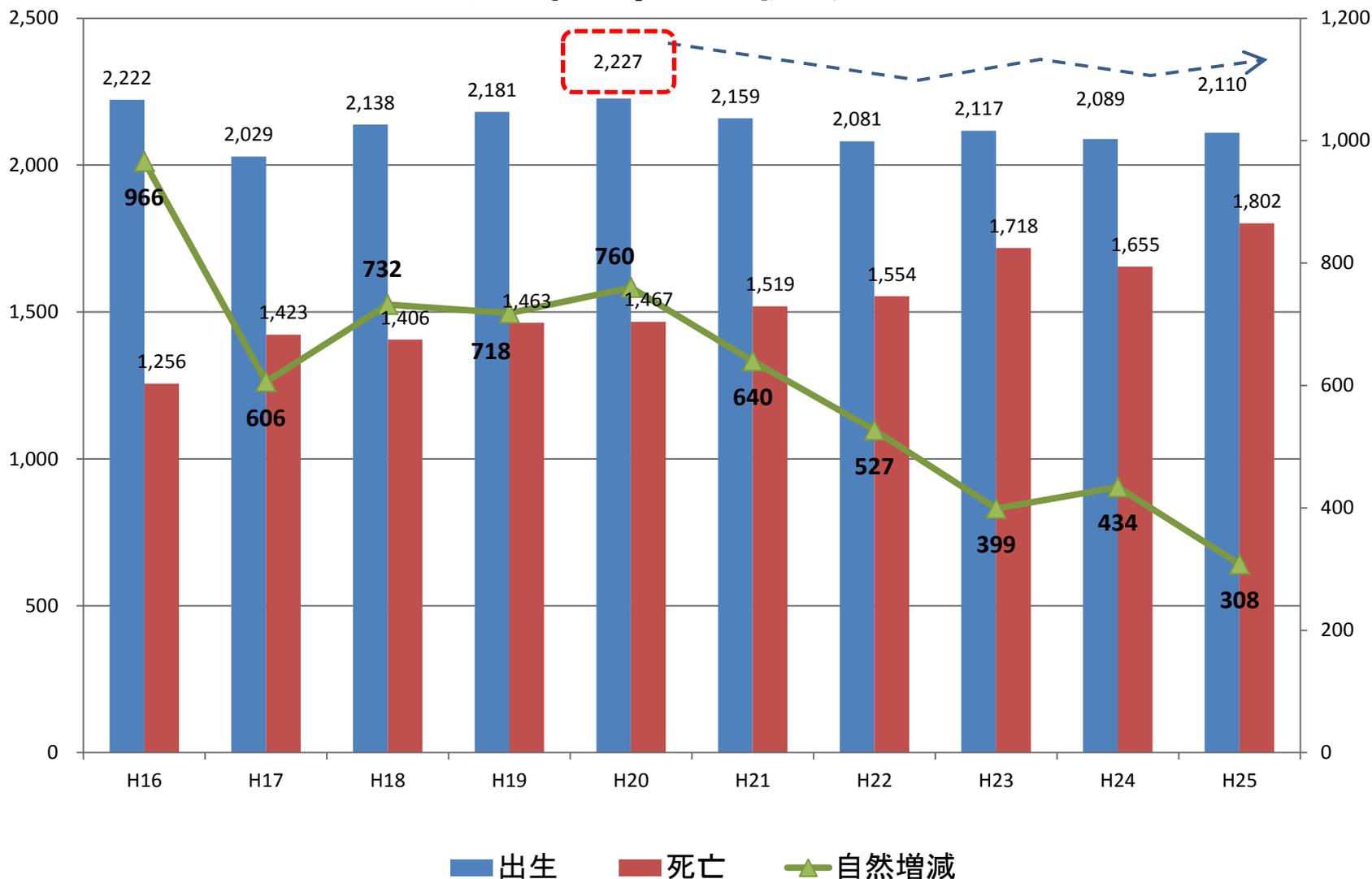
(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

●出生数は平成19年以降減少傾向が続いている。

大和市の状況

出生・死亡者数

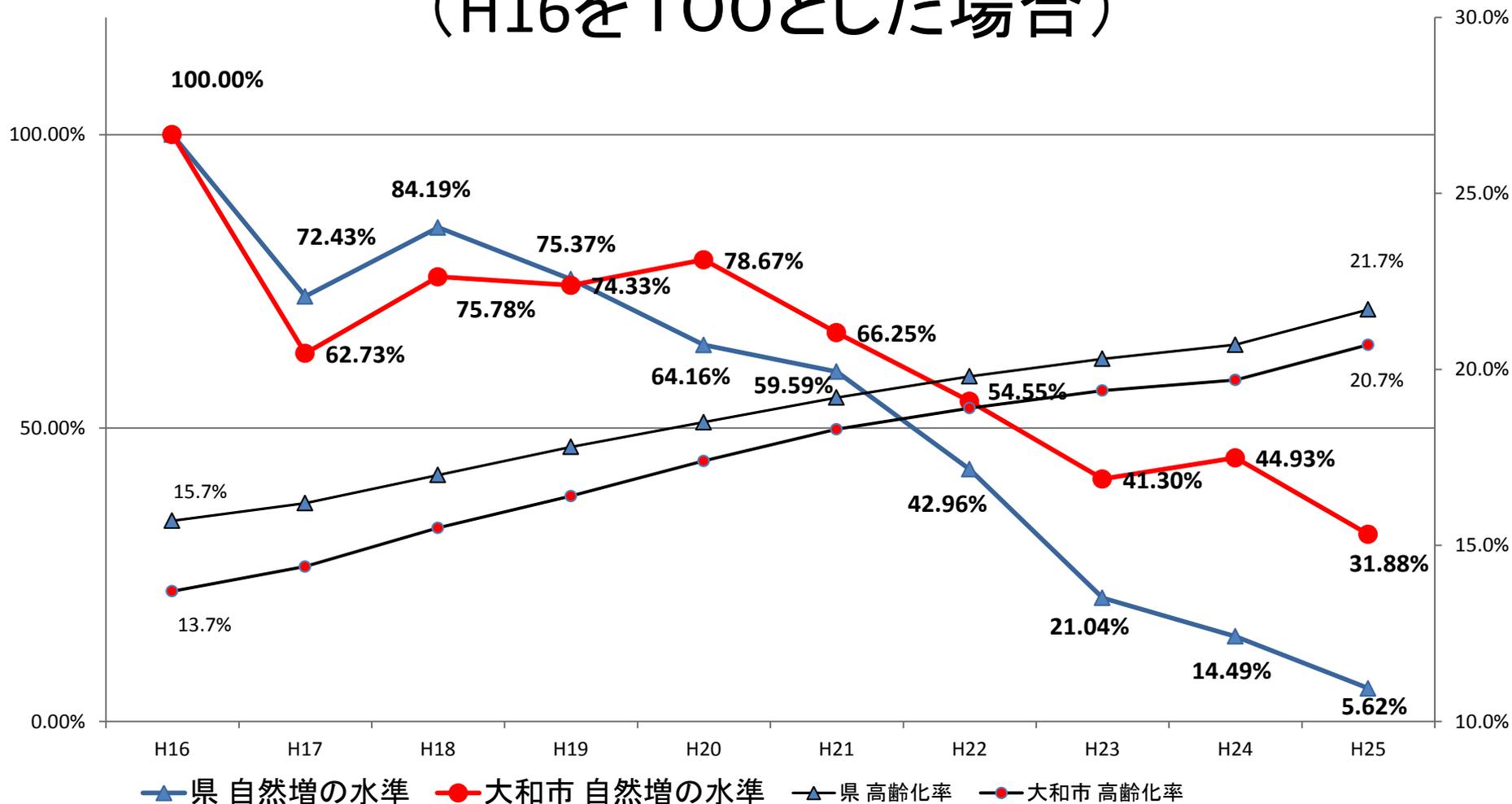
自然増減数



(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

●出生数は、平成20年以降増減を繰り返し、一定の水準を維持している。

神奈川県と大和市の自然増の推移 (H16を100とした場合)



(神奈川県衛生統計年報、神奈川県年齢別人口統計調査 神奈川県HPデータをもとに作成)

● 高齢化に伴う死亡者数の増加によって、自然増が減少傾向にある

1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

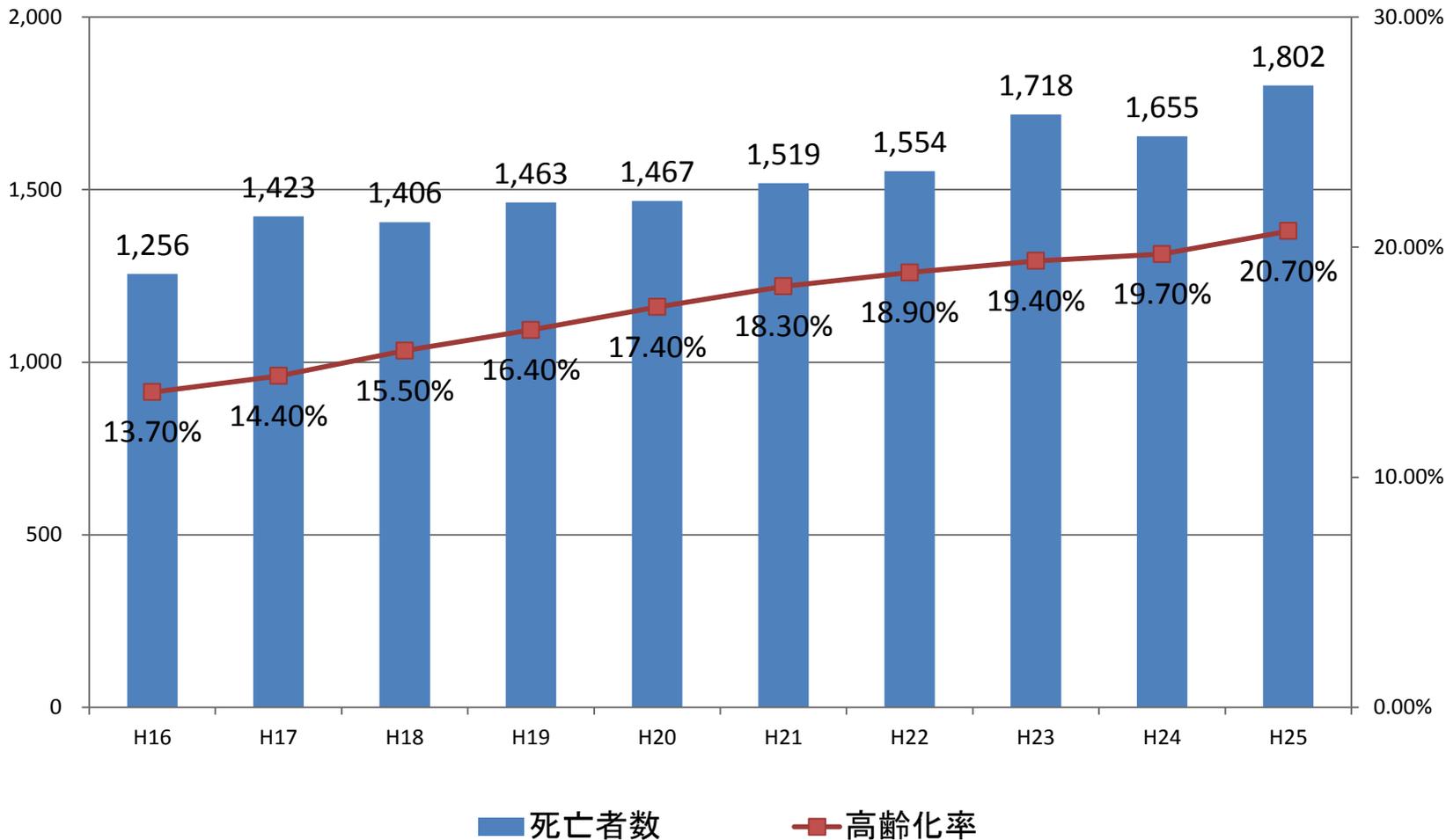
(2) 自然増減の状況

① 死亡の状況

大和市の死亡者数の推移

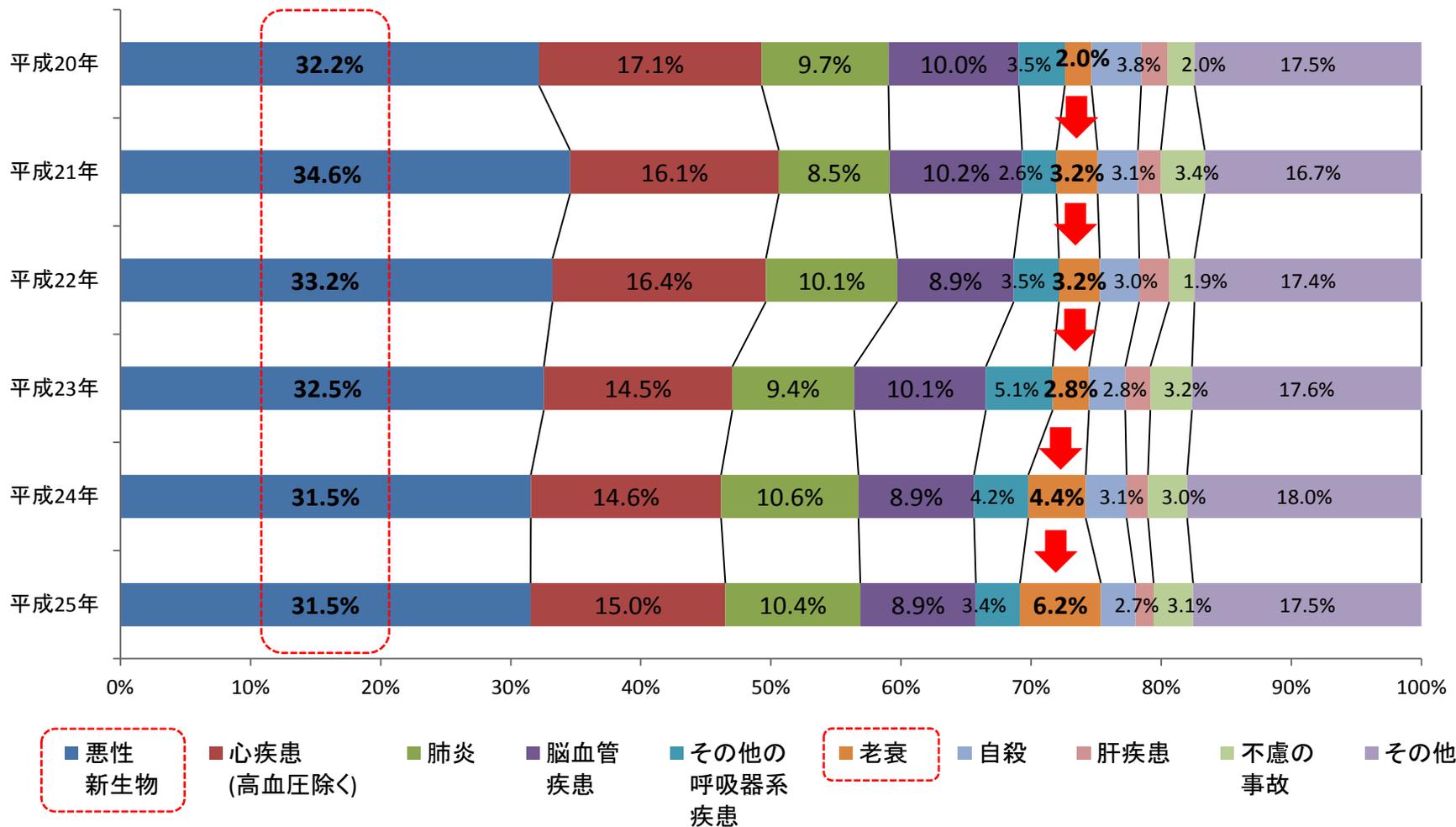
死亡者数

高齢化率



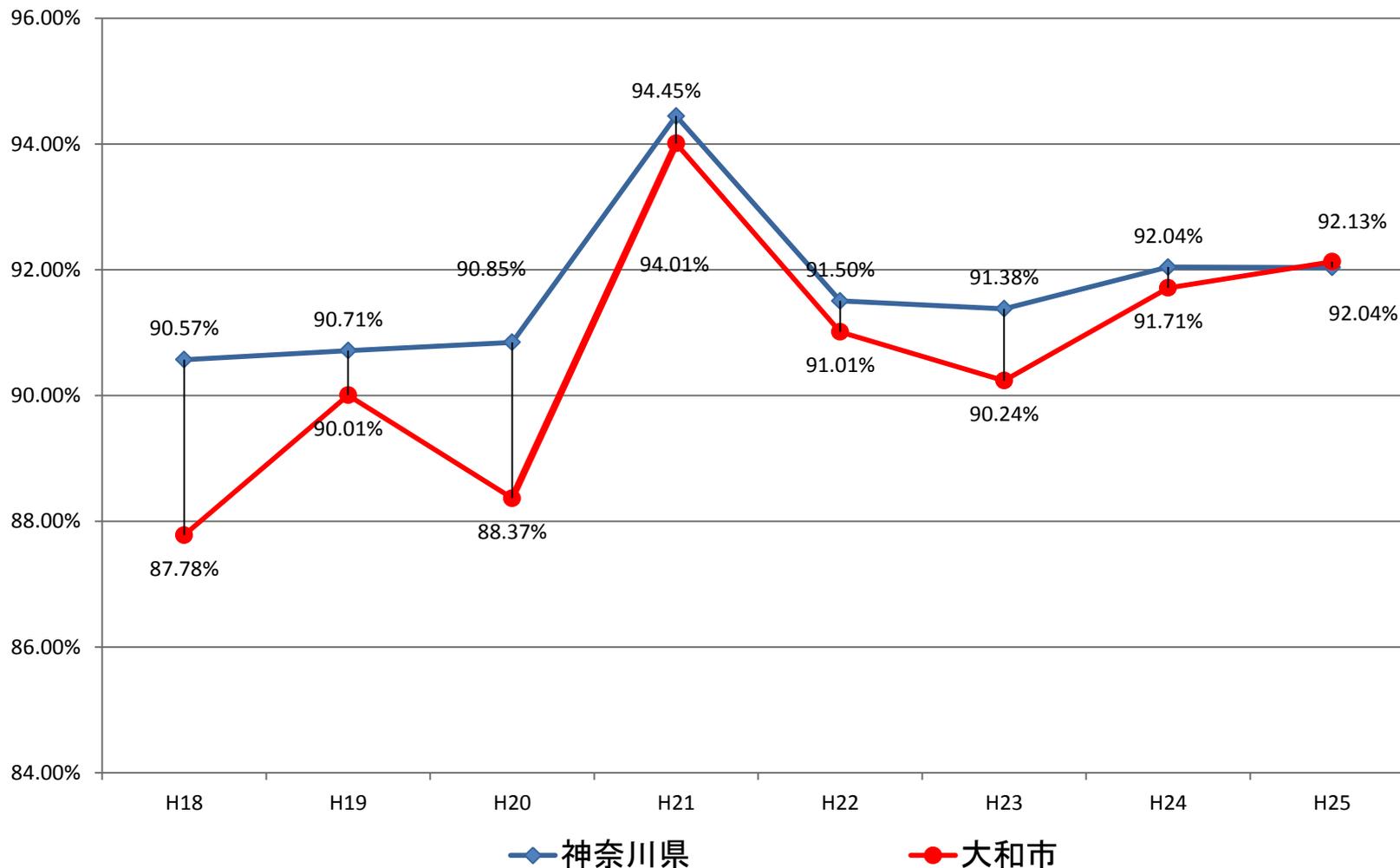
(神奈川県衛生統計年報・年齢別人口統計調査 神奈川県HPデータをもとに作成)

大和市における死因の推移



年齢調整50歳以上死亡割合の推移

(死亡者数に占める50歳以上の割合)



(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

1. 人口の現状分析

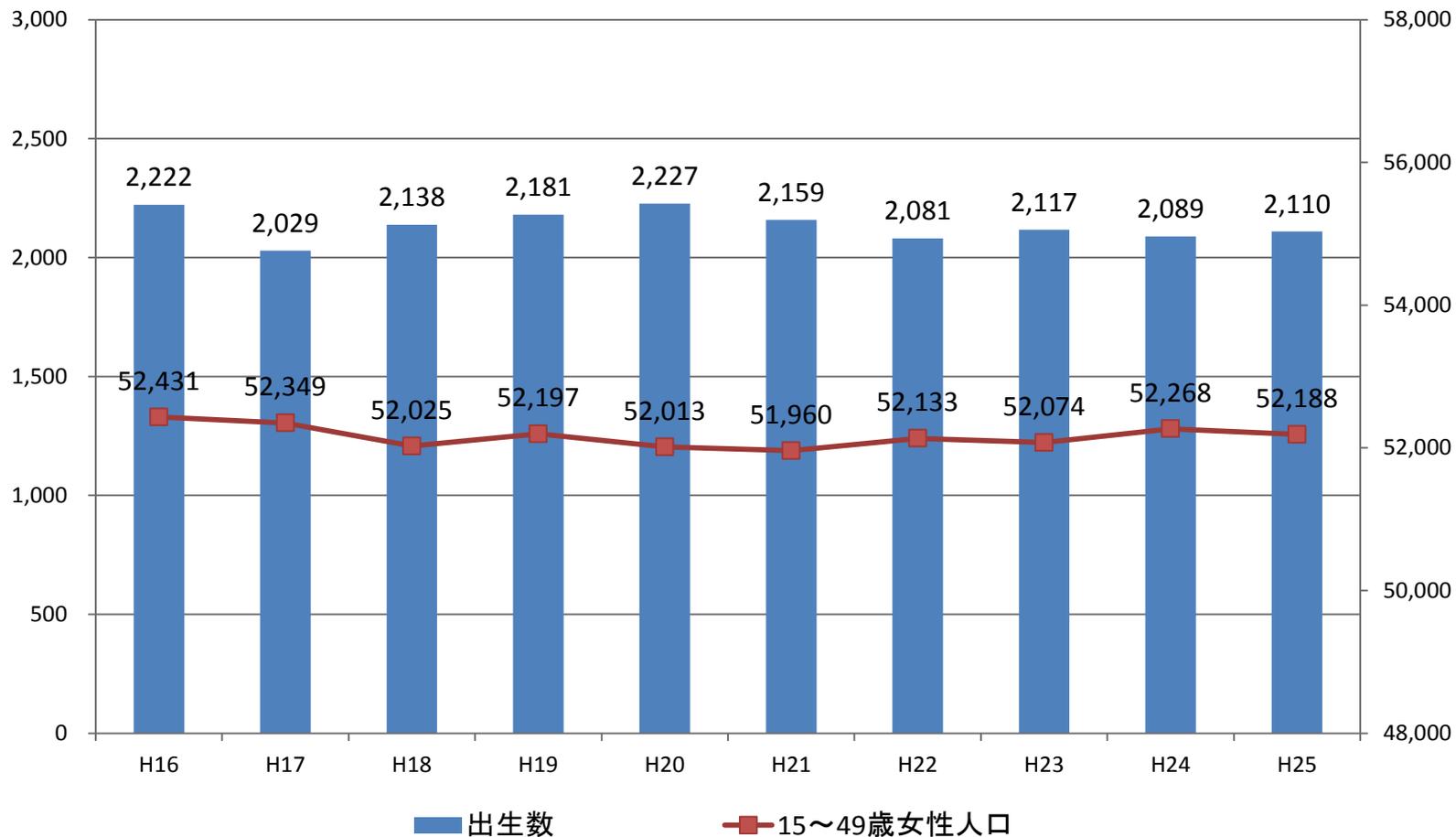
ア). 人口動態の分析

(2) 自然増減の状況

② 出生の状況

・出生数の状況

大和市の出生者数の推移



(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

● 過去10年、一定の水準を維持している。

1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

(2) 自然増減の状況

② 出生の状況

・出生率の状況

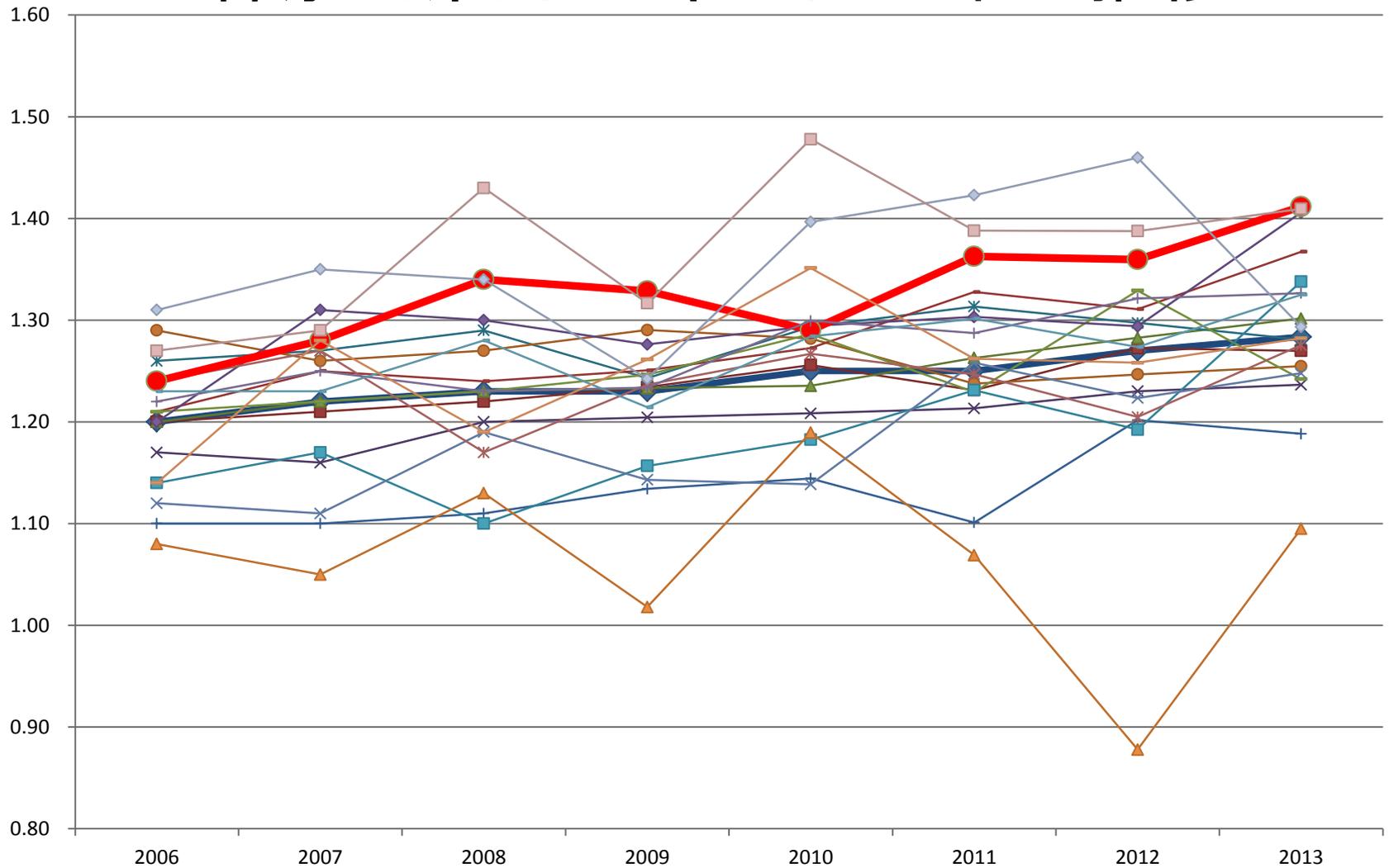
～国・神奈川県・大和市の出生率の推移～ (1999年～2013年)



(厚生労働省人口動態統計、神奈川県衛生統計年報データをもとに作成)

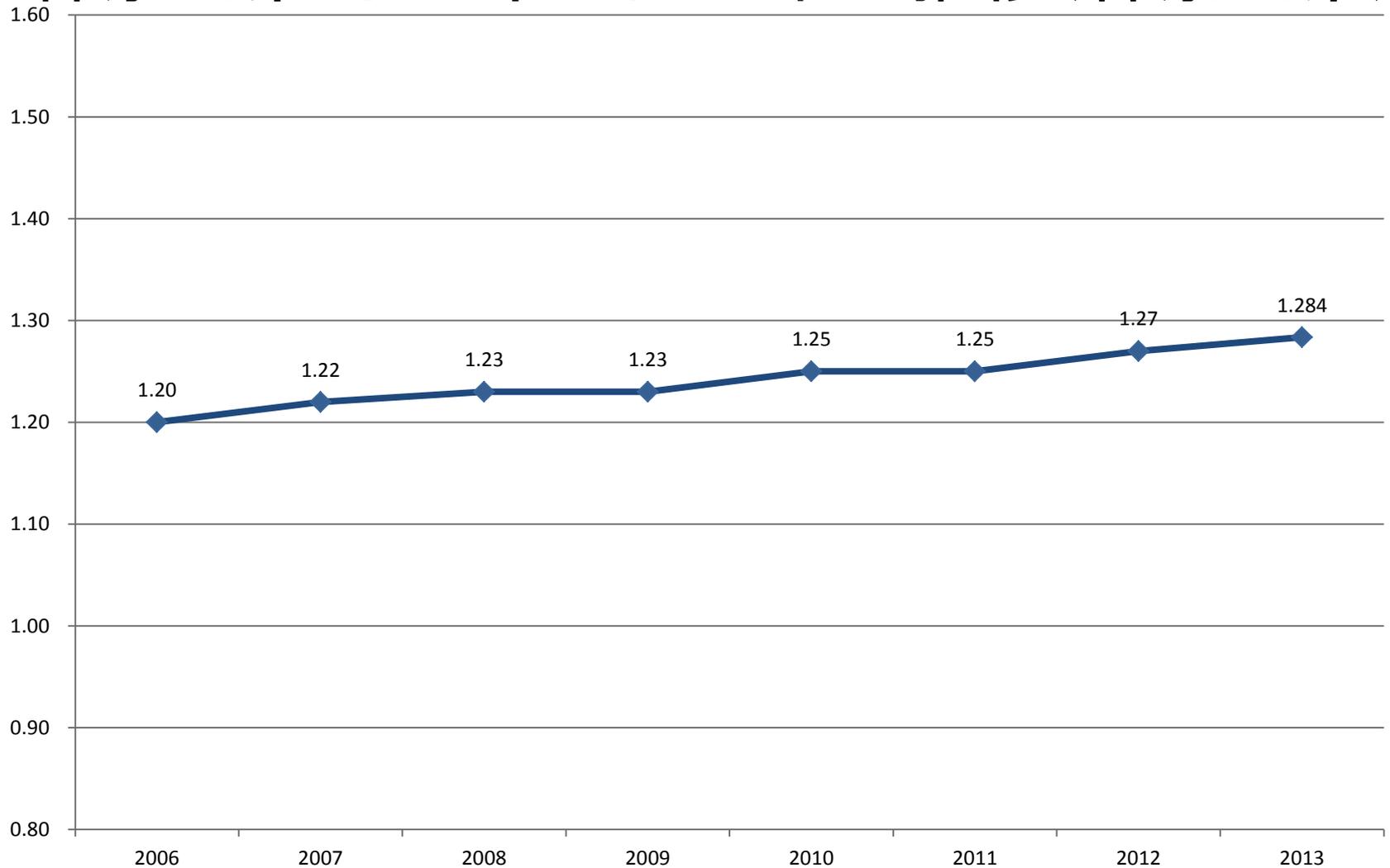
⇒大和市は全国値に近づきつつある。

神奈川県内19市の出生率の推移



(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

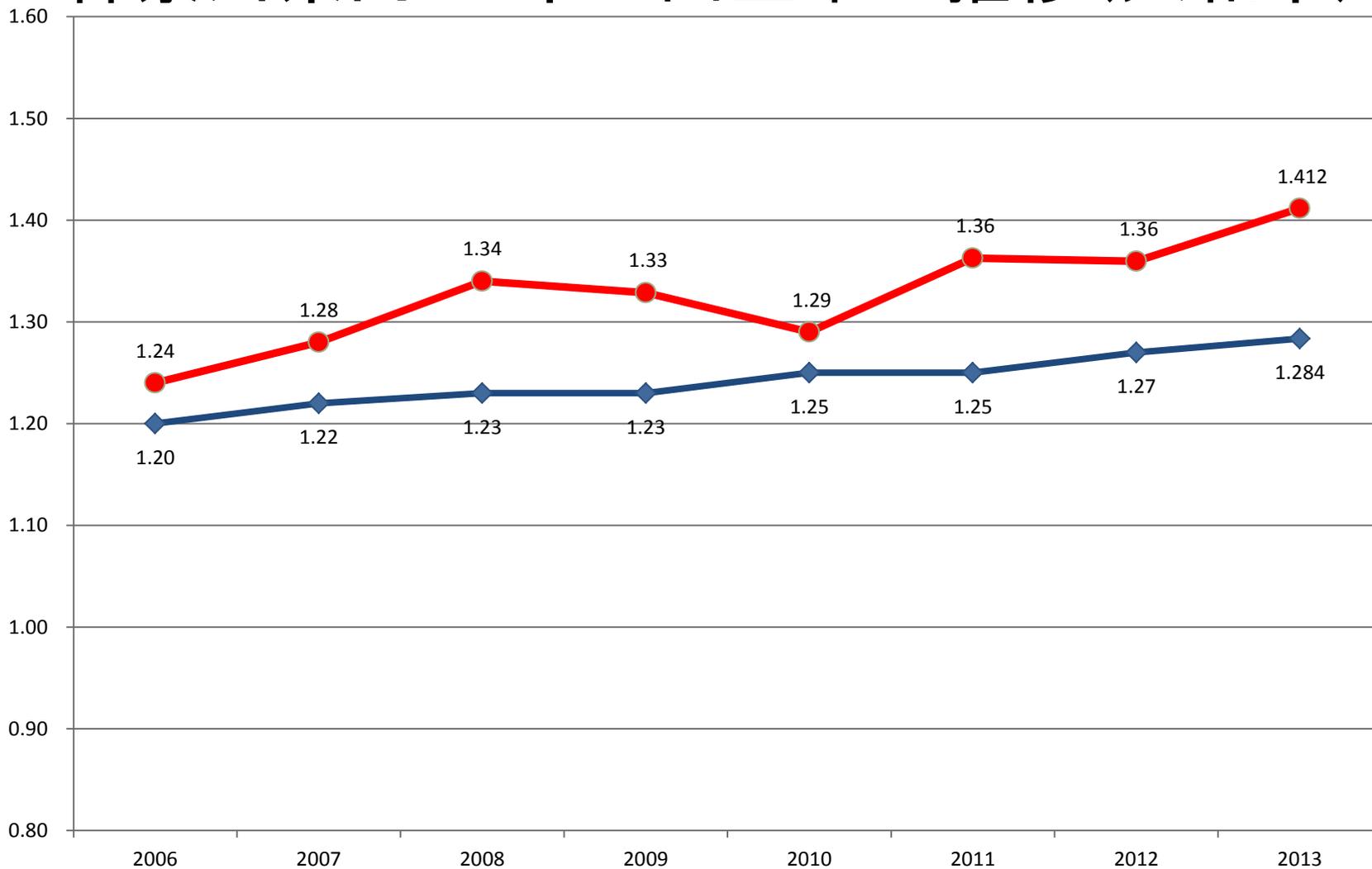
神奈川県内19市の出生率の推移(神奈川県)



◆ 県全体

(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

神奈川県内19市の出生率の推移(大和市)

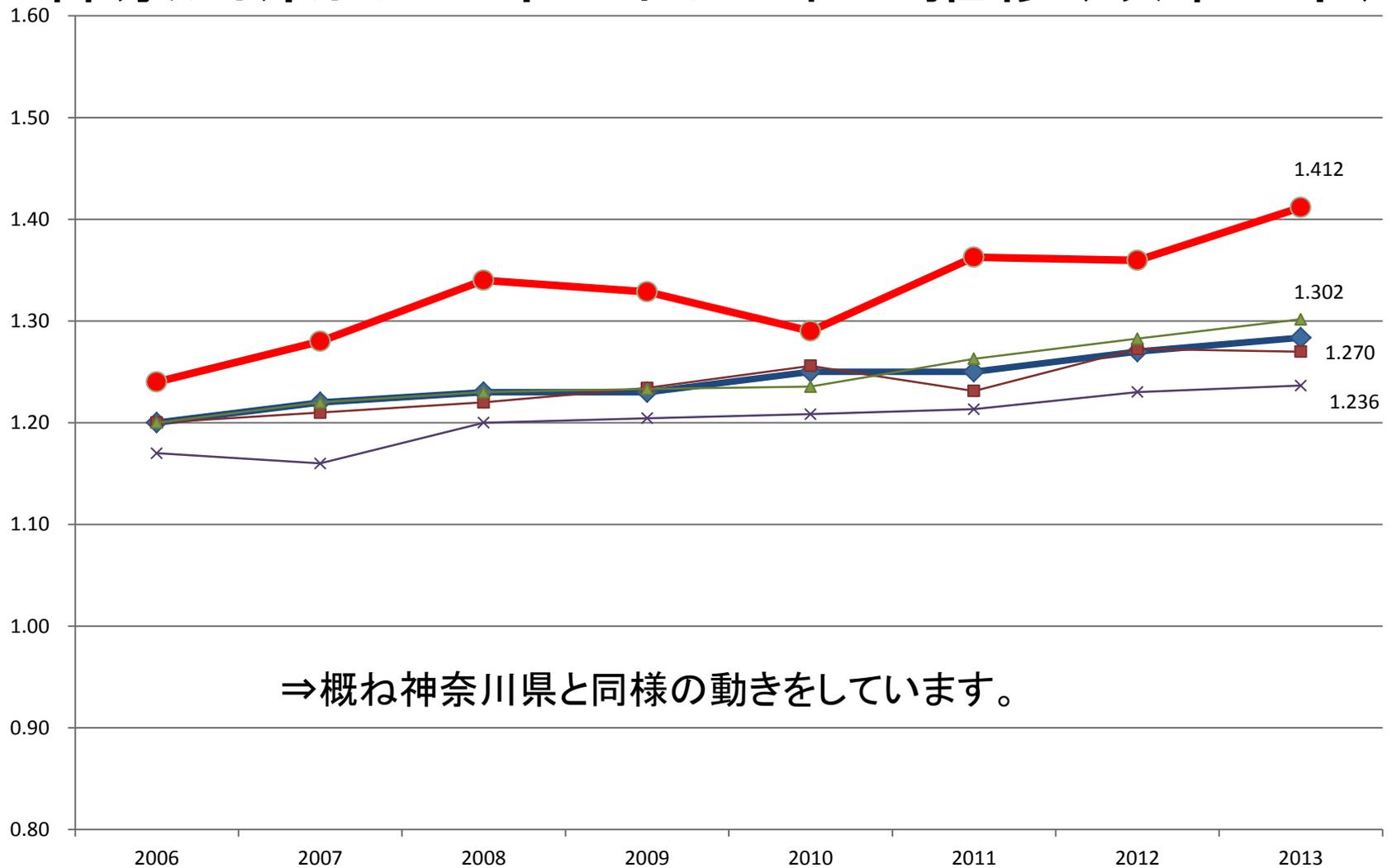


◆ 県全体

● 大和市

(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

神奈川県内19市の出生率の推移(政令3市)



⇒概ね神奈川県と同様の動きをしています。

◆ 県全体

■ 横浜市

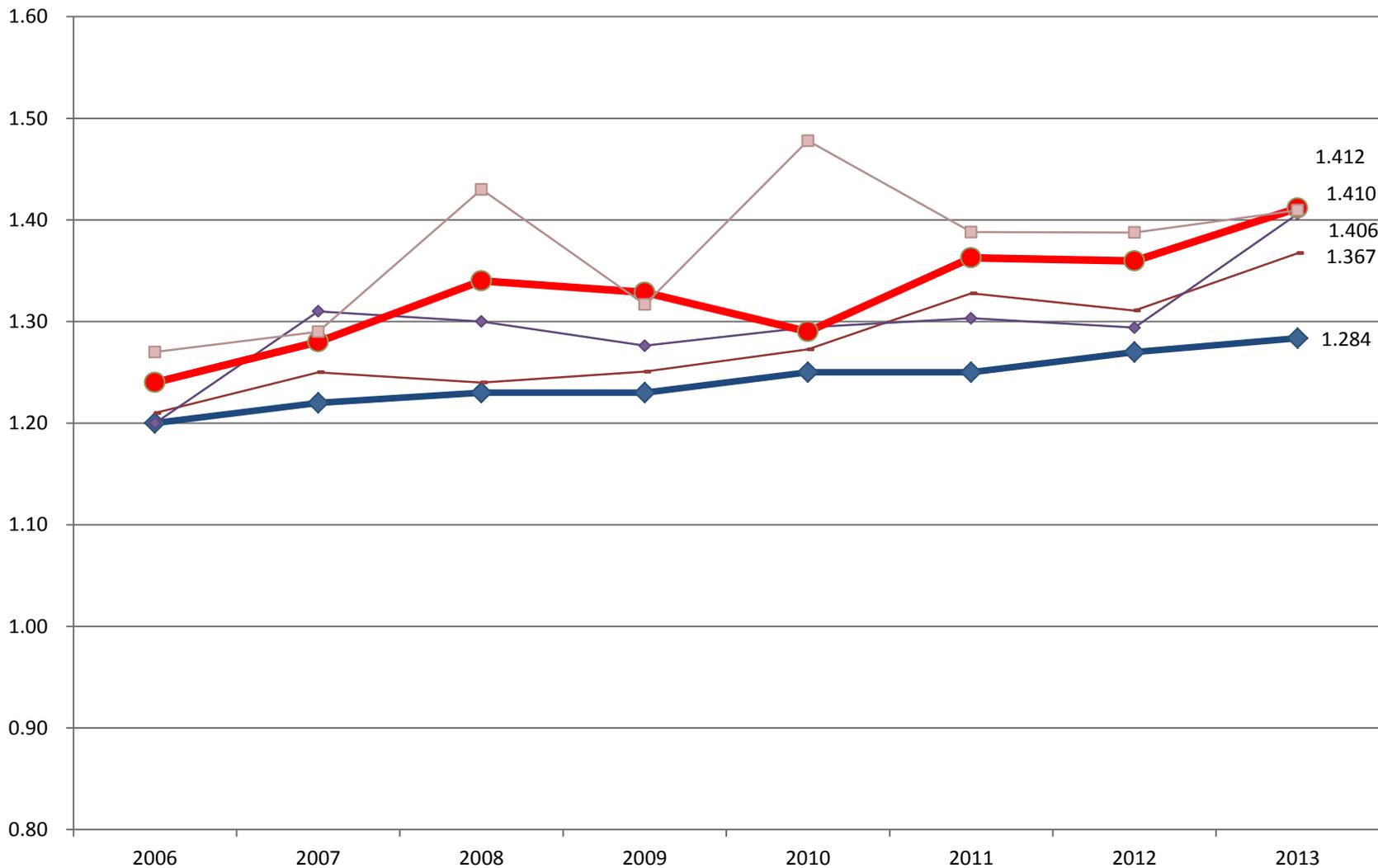
▲ 川崎市

× 相模原市

● 大和市

(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

神奈川県内19市の出生率の推移 ⇒ 県の水準を基本的に上回って推移した自治体



◆ 県全体

— 藤沢市

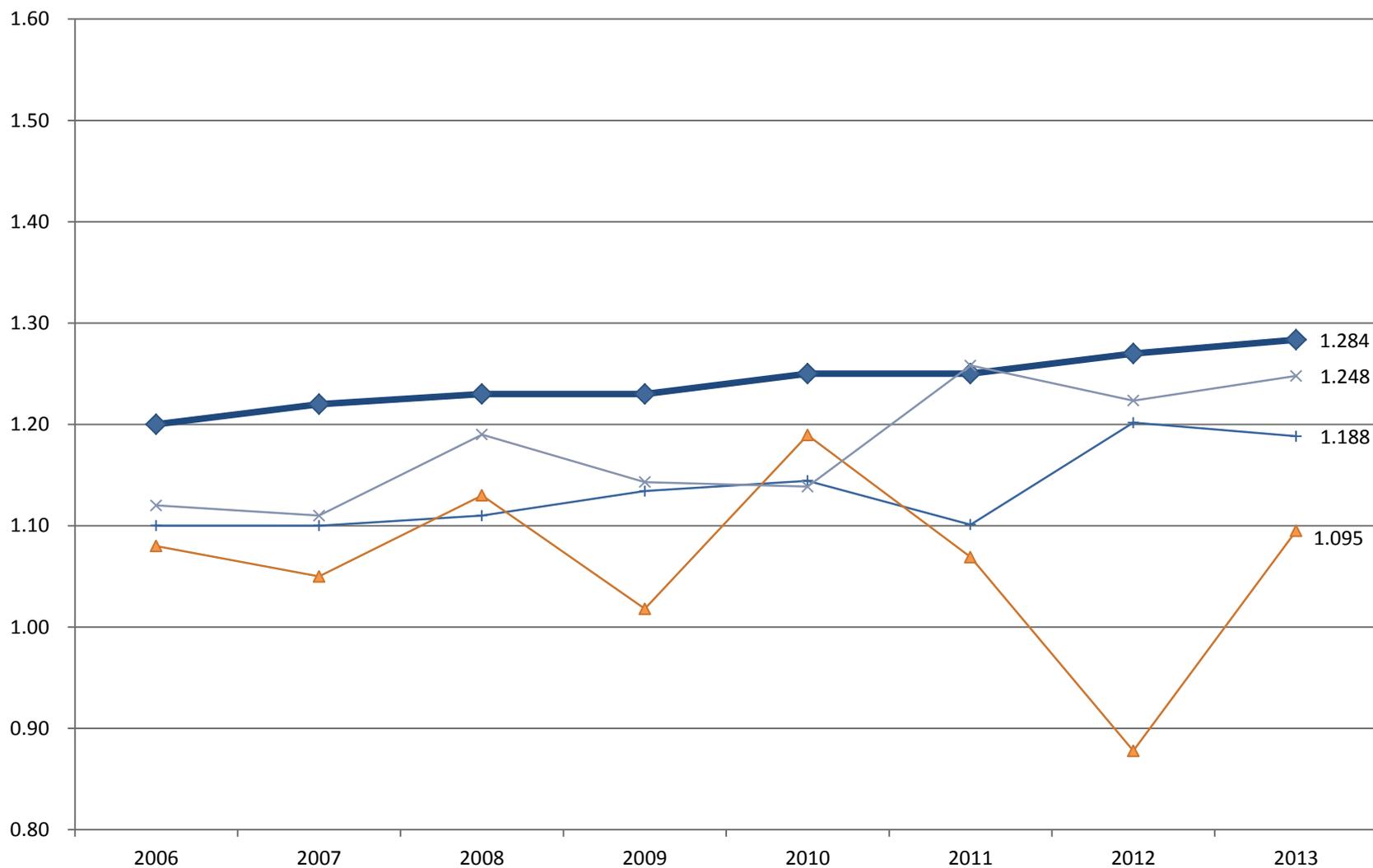
◆ 茅ヶ崎市

● 大和市

— 綾瀬市

(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

神奈川県内19市の出生率の推移 ⇒ 県の水準を基本的に下回って推移した自治体



◆ 県全体

+ 鎌倉市

▲ 三浦市

× 秦野市

(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

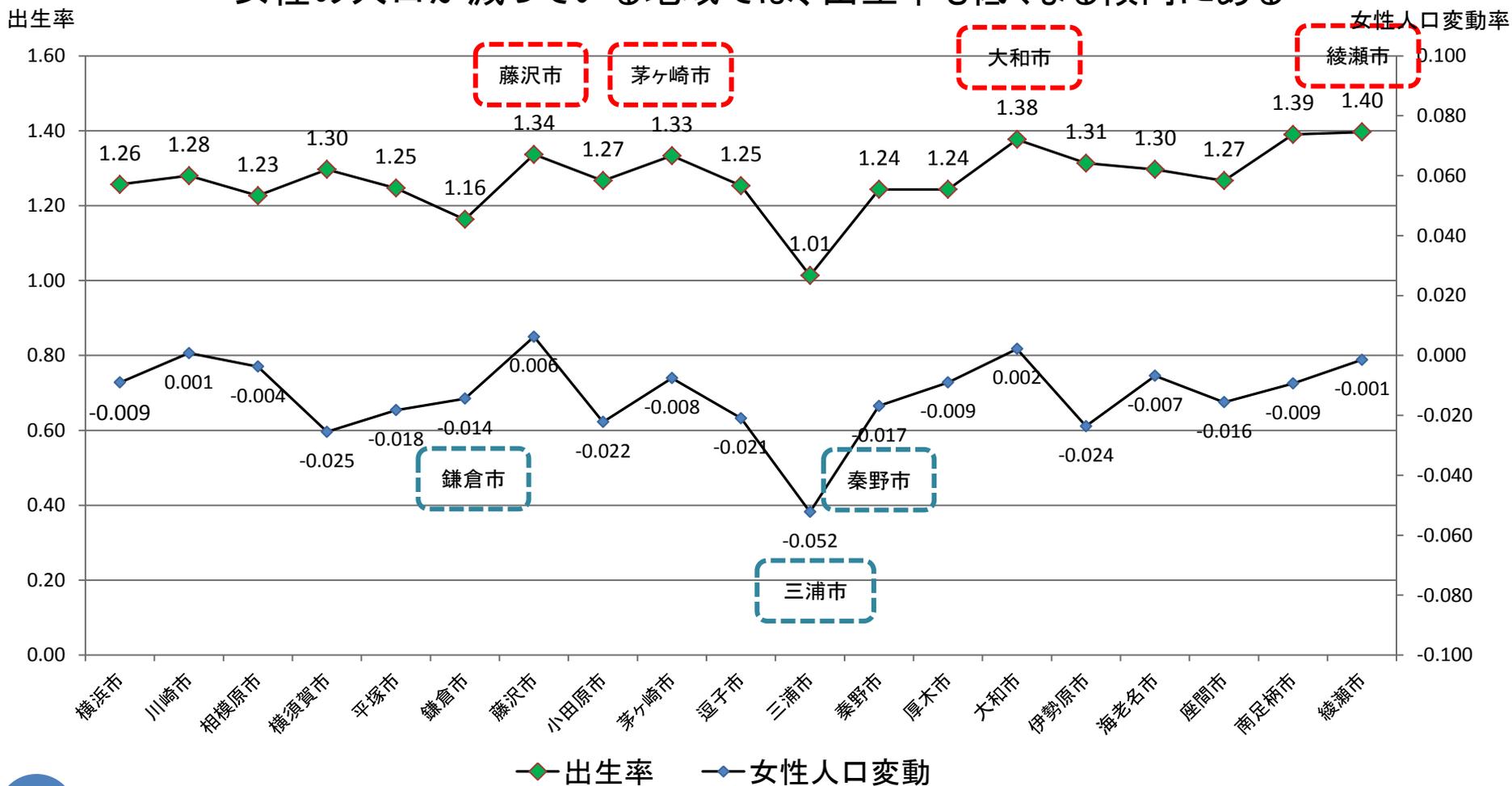
出生率の高低と関係性が想定されること

～県内19市との比較から～

出生率と15歳～49歳の女性人口変動率との関係性(H23～H25年平均)

女性人口の増減と出生率には相関がある

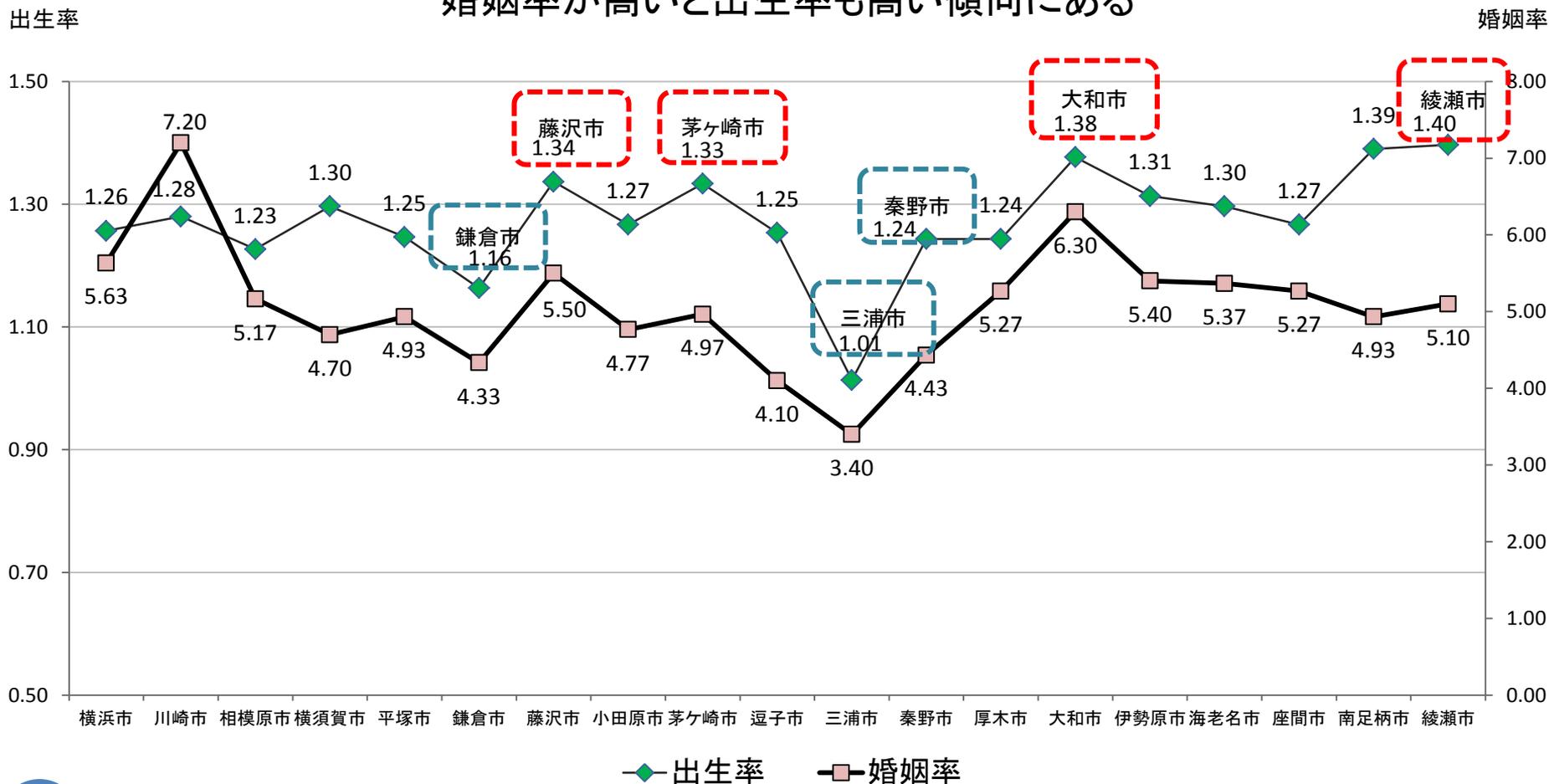
女性の人口が減っている地域では、出生率も低くなる傾向にある



出生率と人口千人当たり**婚姻率**との関係性 (H23~H25年平均)

婚姻率と出生率の高さには相関がある

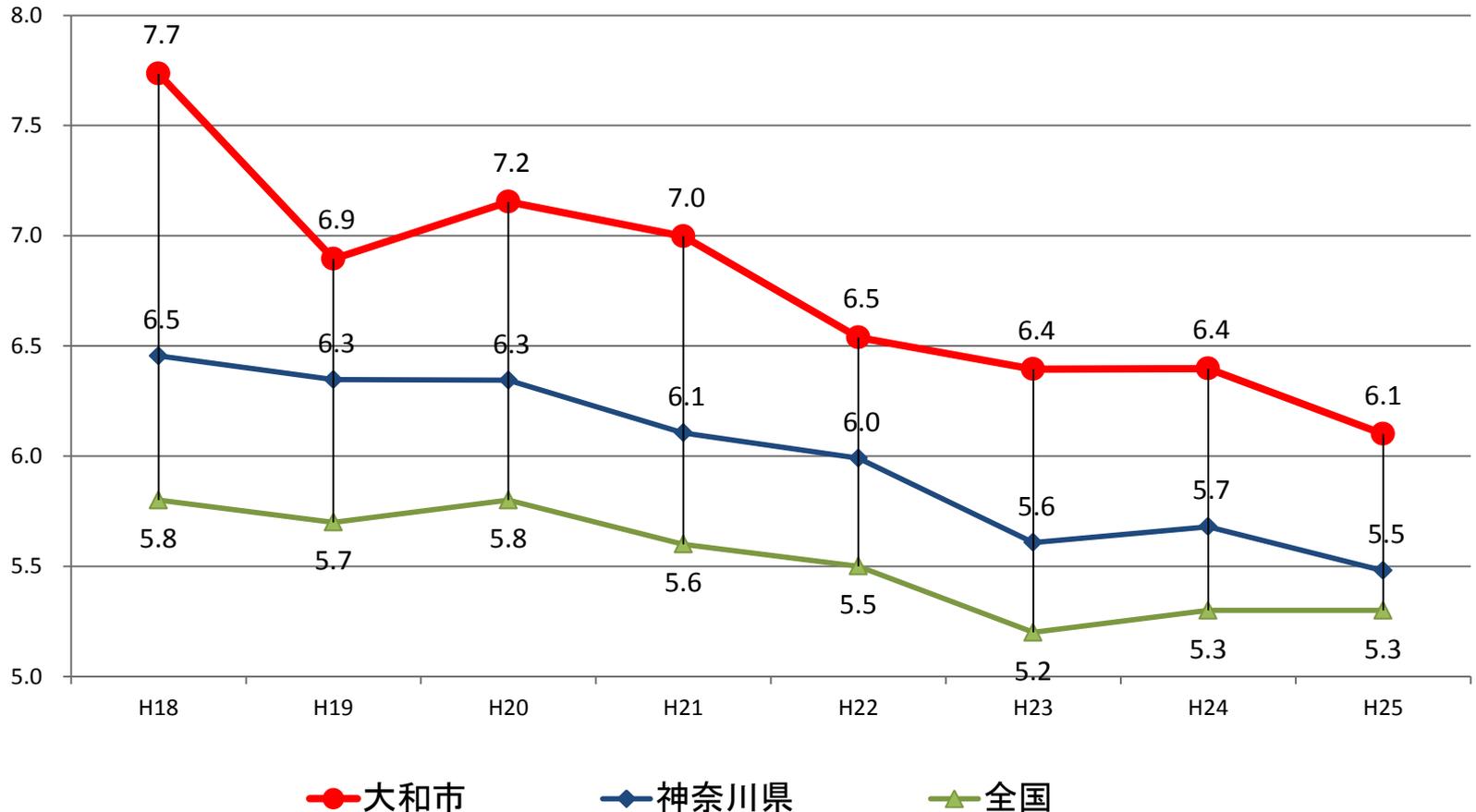
婚姻率が高いと出生率も高い傾向にある



(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

人口千人当たり婚姻率の推移(H18~H25年)

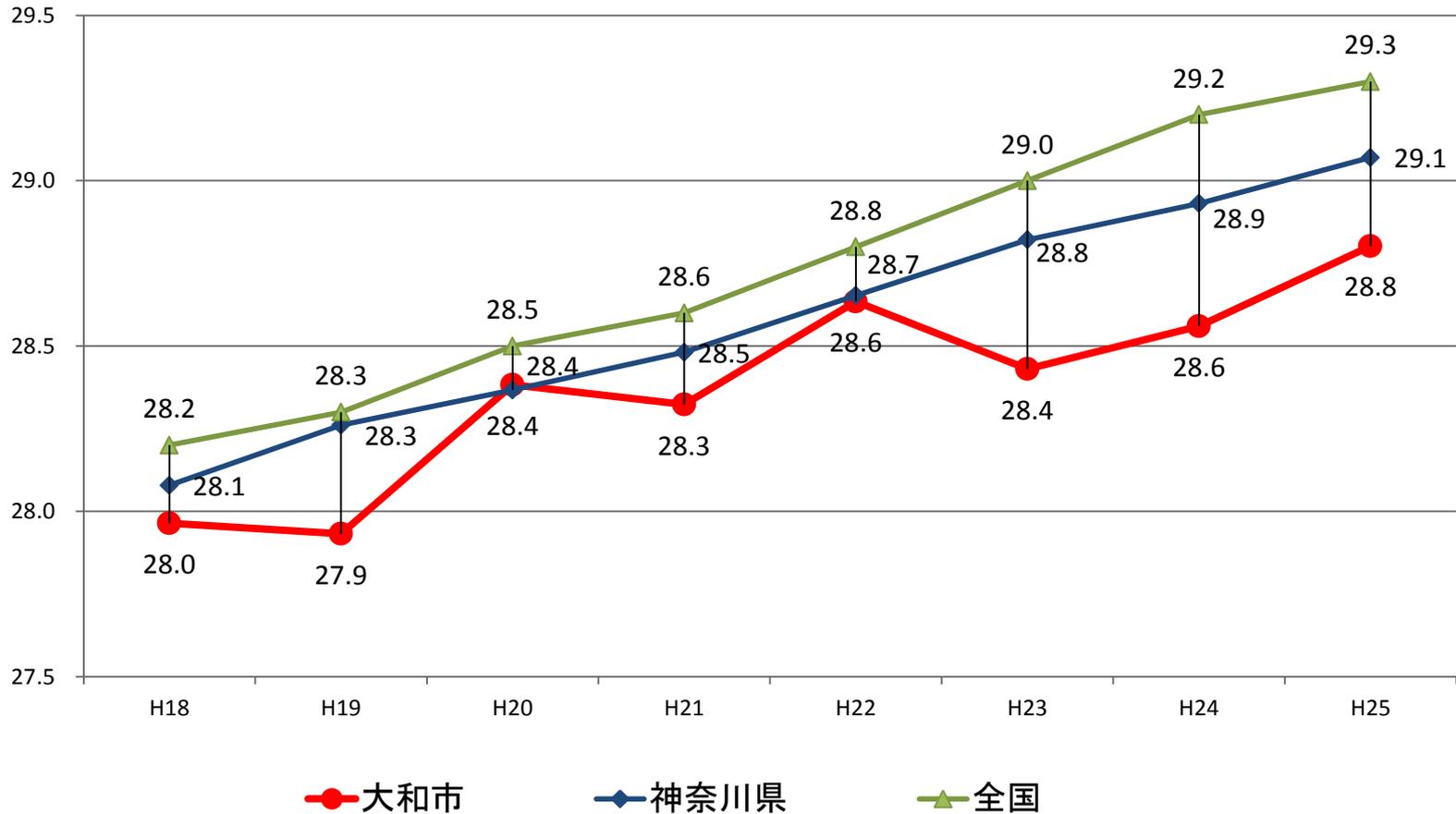
⇒大和市は神奈川県より常に高い水準を維持



(厚生労働省人口動態統計 神奈川県衛生統計年報をもとに作成)

平均初婚年齢(女性)の推移(H18~H25年)

⇒全国的に上昇傾向にあるものの、大和市は神奈川県よりも低い水準を維持



(厚生労働省人口動態統計 神奈川県衛生統計年報をもとに作成)

大和市の婚姻率は高いが、全国と同様、低下傾向にあり、また、平均初婚年齢も上昇傾向にあることから、若い世代を結婚へと結びつけていく支援についても、必要性が高まっているのではないか。



矛盾⇒時系列でみると、婚姻率は低下傾向↘にあるが、大和市の出生率は上昇傾向↗にある



婚姻率だけでは説明がつかない

また、実際に婚姻率が高かったり、女性の人口規模が大きかったりしても、出生率が高くなるとは限らない。

⇒ 横浜市・川崎市

(期間)合計特殊出生率＝

1年間に生まれた子どもの数を15～49歳の女性人口で割ったもの

出生率の比較⇒同じ人口規模での比較

出生率が高いということ



女性人口の多寡や、婚姻率の大小だけでなく・・・

⇒ 居住している人にとって
「子どもを産みたい」、「子どもを産むことができる」
と感じられる環境が整っていると捉えられる



1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

(2) 自然増減の状況

② 出生の状況

・母の年齢別にみる出生数の割合

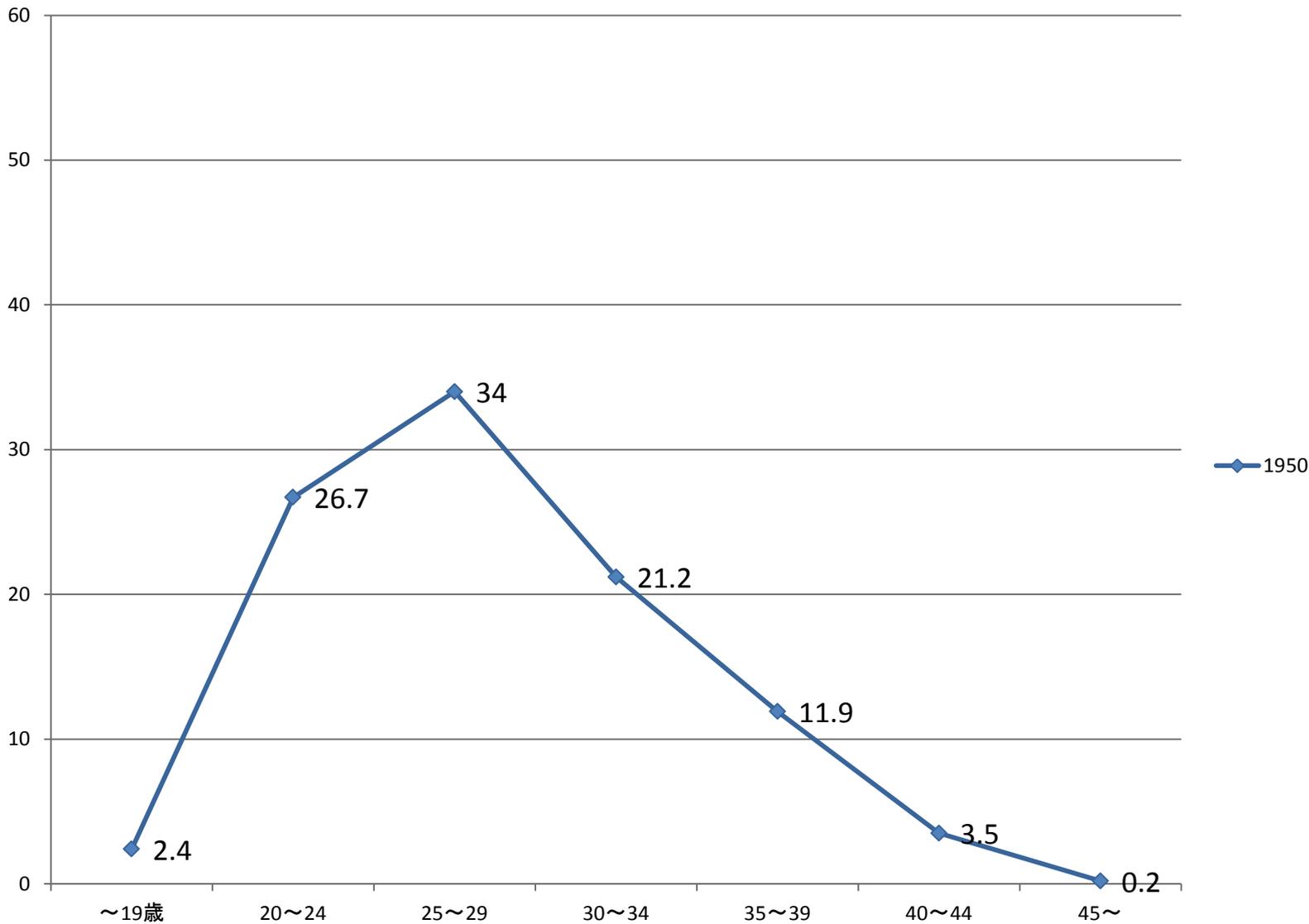
～全国の推移～
(1950年～2013年)

⇒ 母の年齢を5歳ごと、7段階に区分

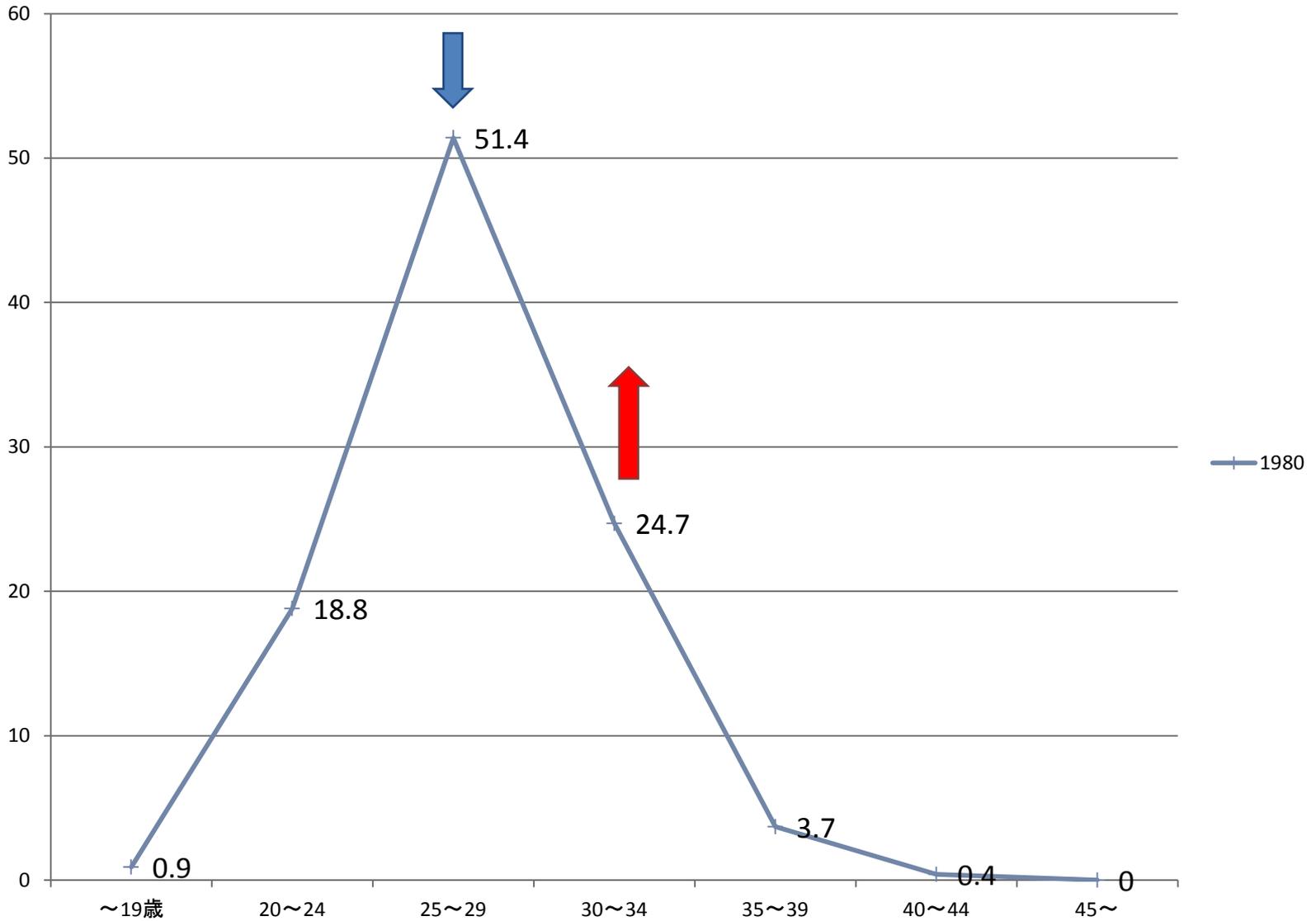
ある年に生まれた子どもの総数が100人だとしたら・・・

- | | | |
|---------|---|----|
| ①15～19歳 | ⇒ | ●人 |
| ②20～24歳 | ⇒ | ●人 |
| ③25～29歳 | ⇒ | ●人 |
| ④30～34歳 | ⇒ | ●人 |
| ⑤35～39歳 | ⇒ | ●人 |
| ⑥40～45歳 | ⇒ | ●人 |
| ⑦45～49歳 | ⇒ | ●人 |

1950

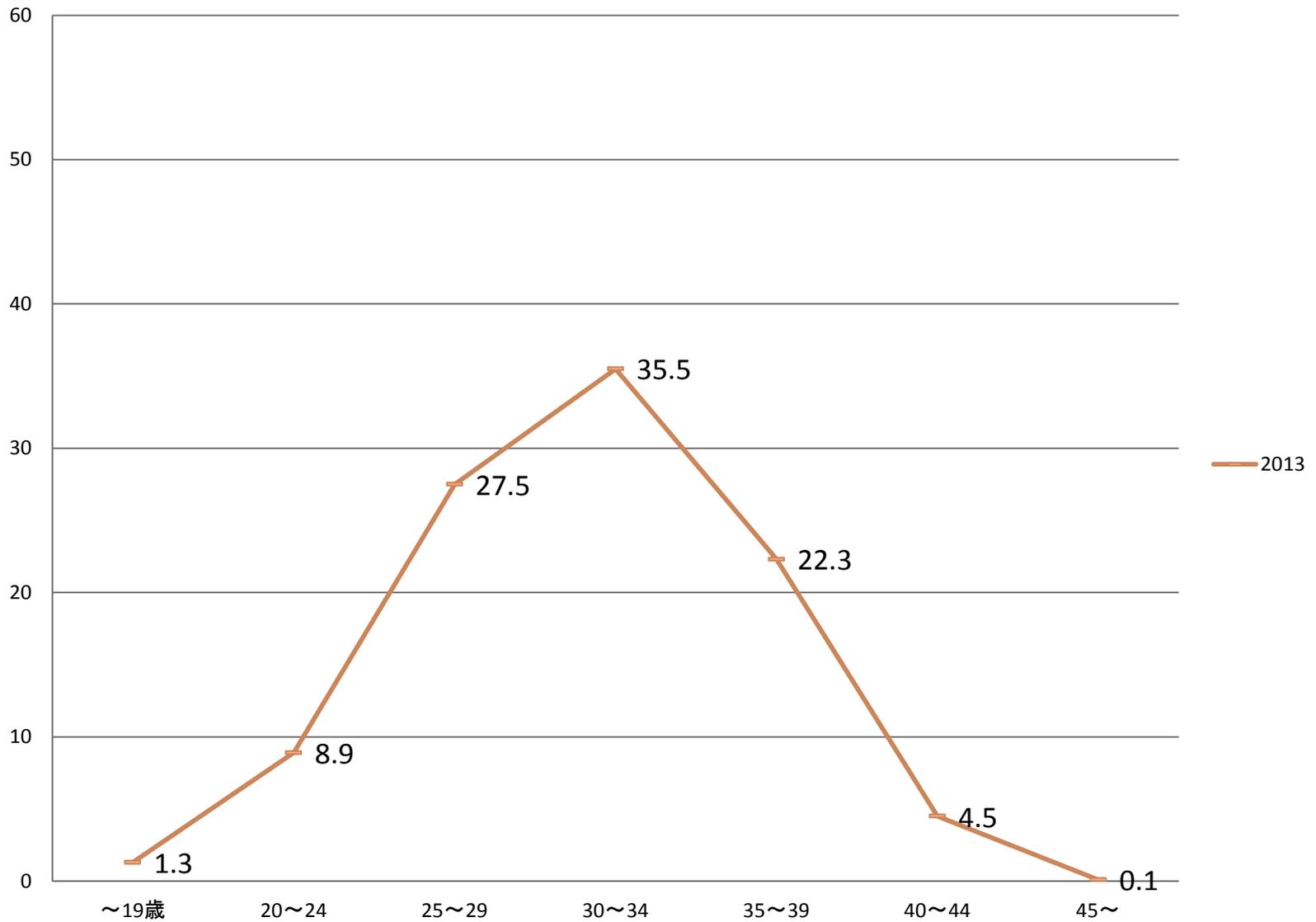


1980

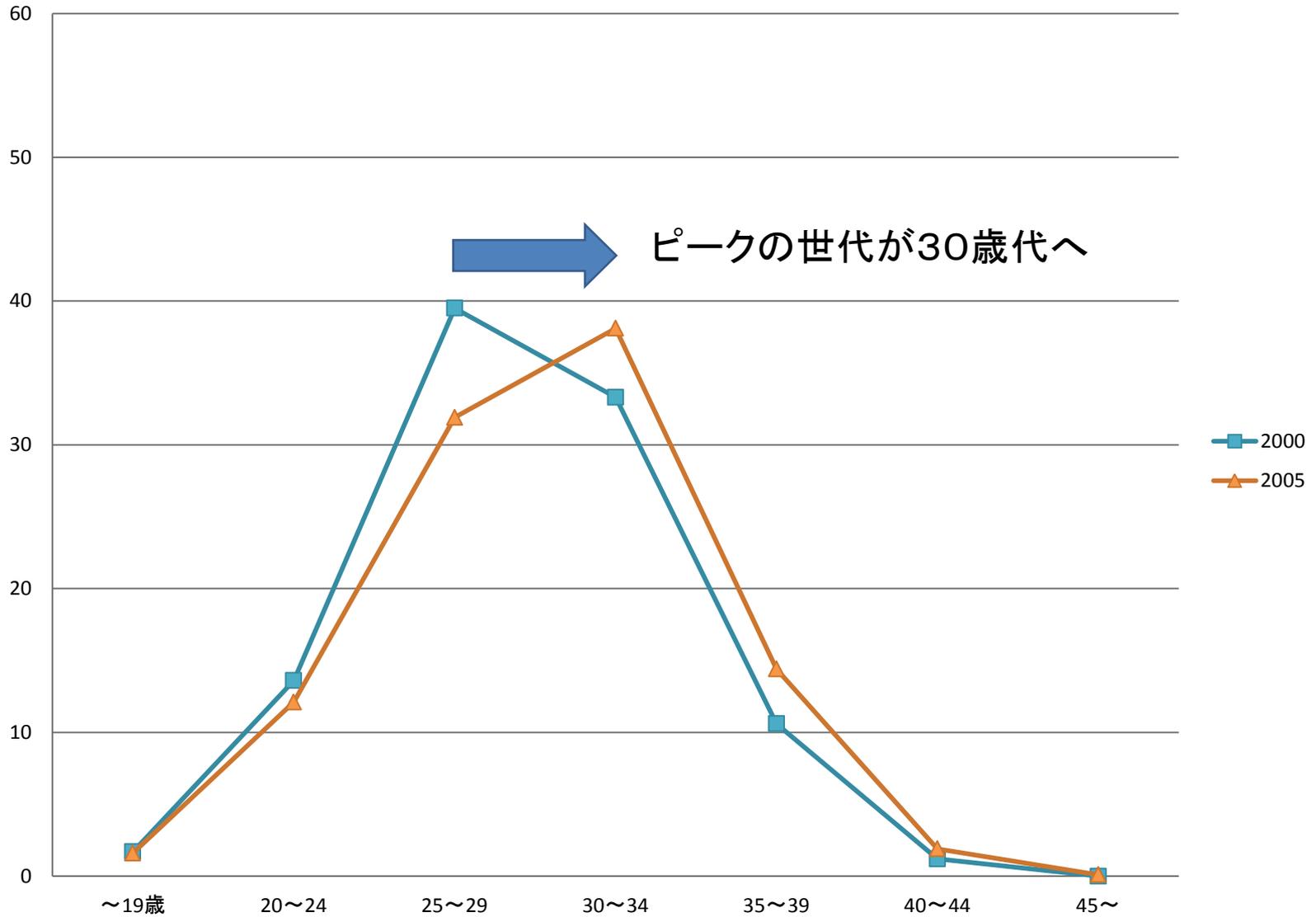


(厚生労働省人口動態統計をもとに作成)

2013

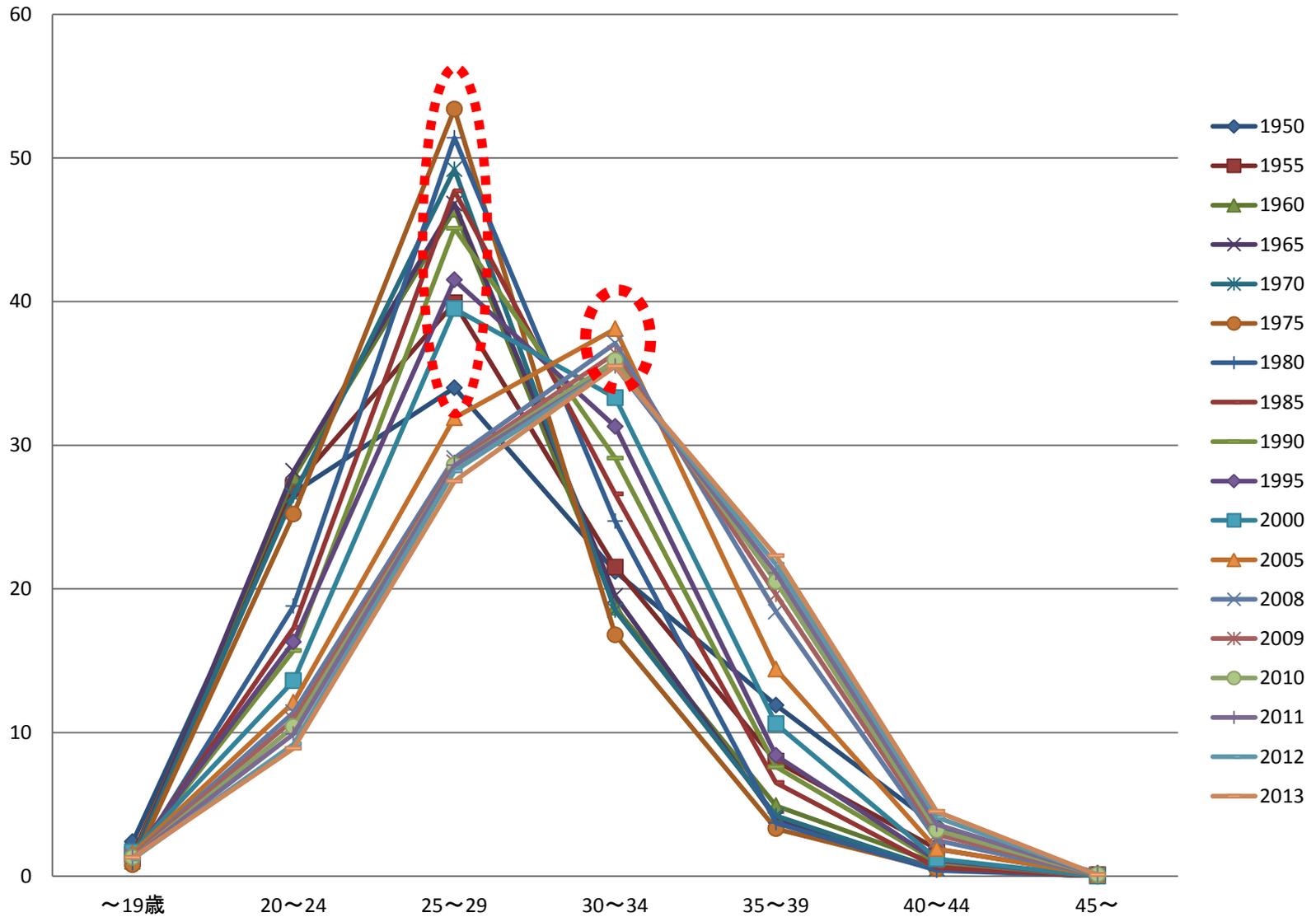


2000～2005



(厚生労働省人口動態統計をもとに作成)

1950~2013



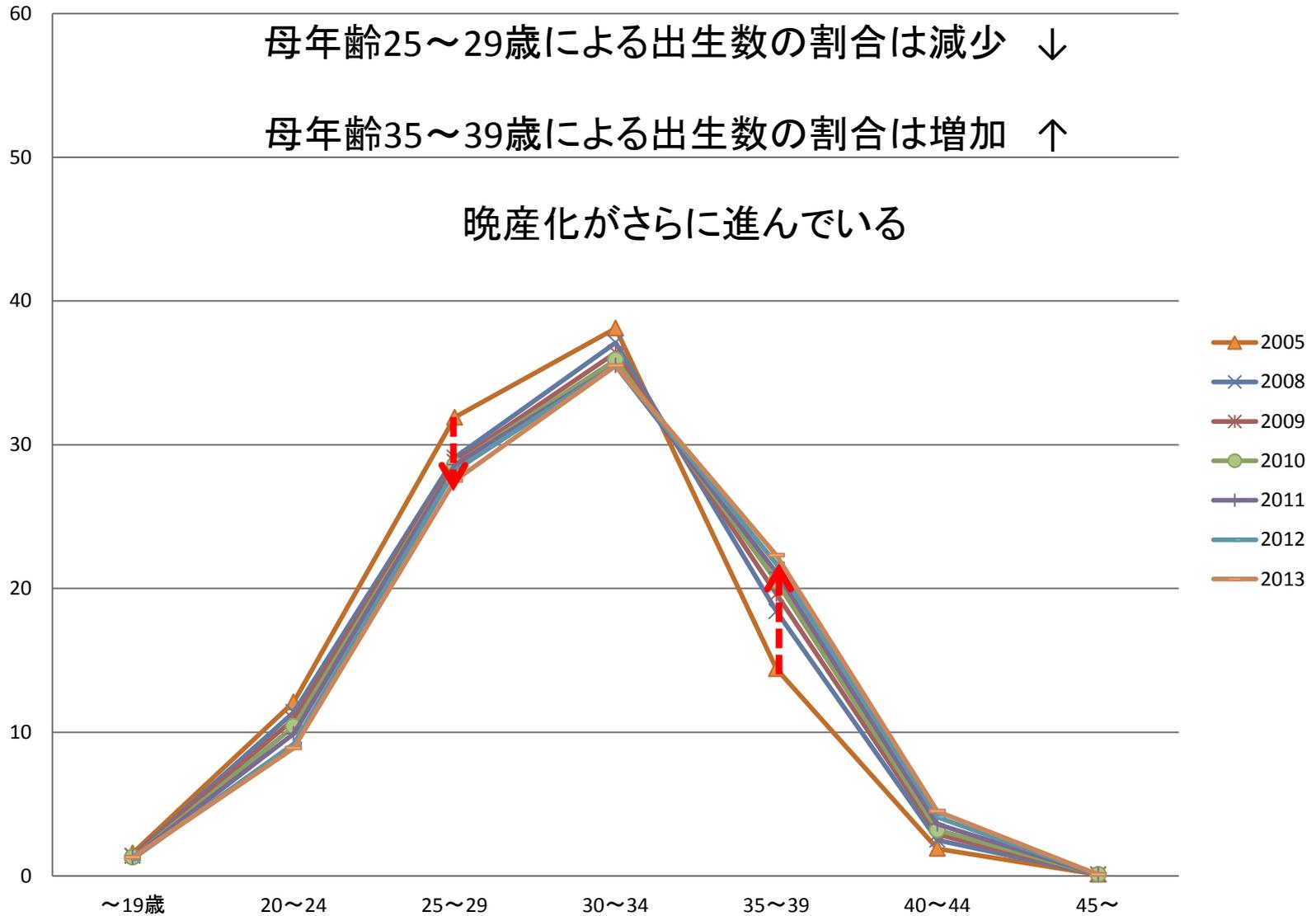
(厚生労働省人口動態統計をもとに作成)

近年(2005~2013)の状況

母年齢25~29歳による出生数の割合は減少 ↓

母年齢35~39歳による出生数の割合は増加 ↑

晩産化がさらに進んでいる



1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

(2) 自然増減の状況

② 出生の状況

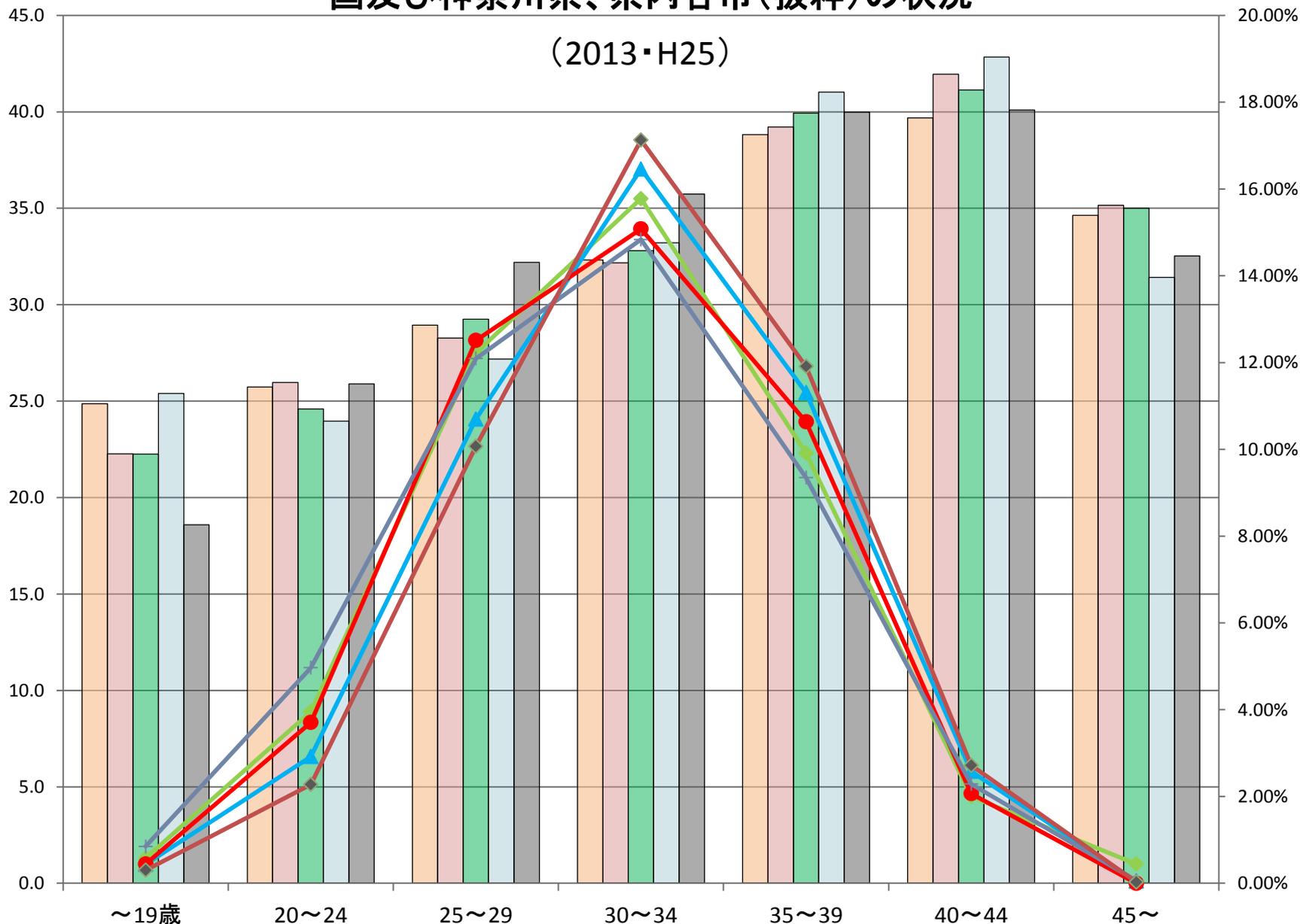
・母の年齢別にみる出生数の割合

～全国・神奈川県・大和市の比較～

(2013・H25)

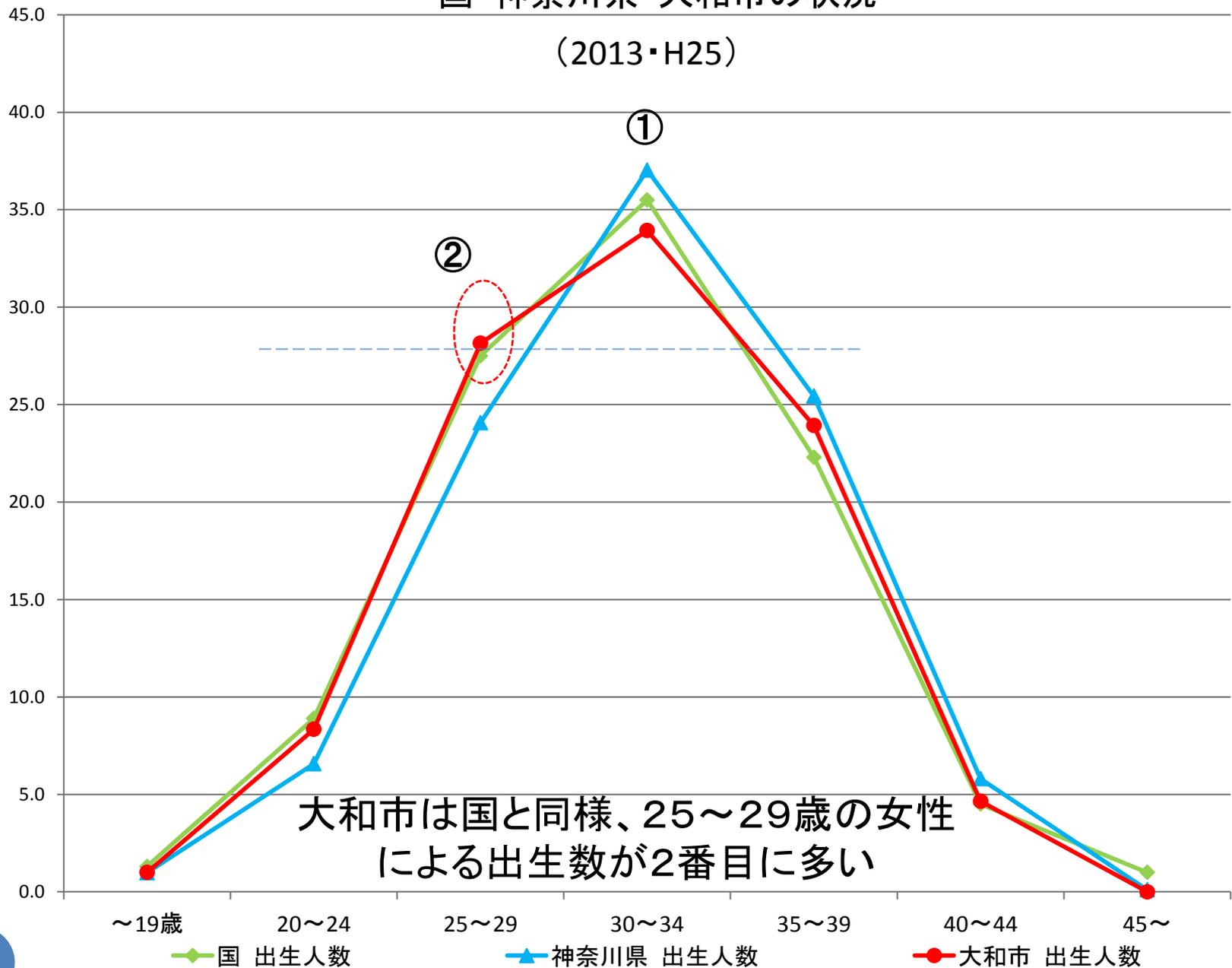
国及び神奈川県、県内各市(抜粋)の状況

(2013・H25)



国・神奈川県・大和市の状況

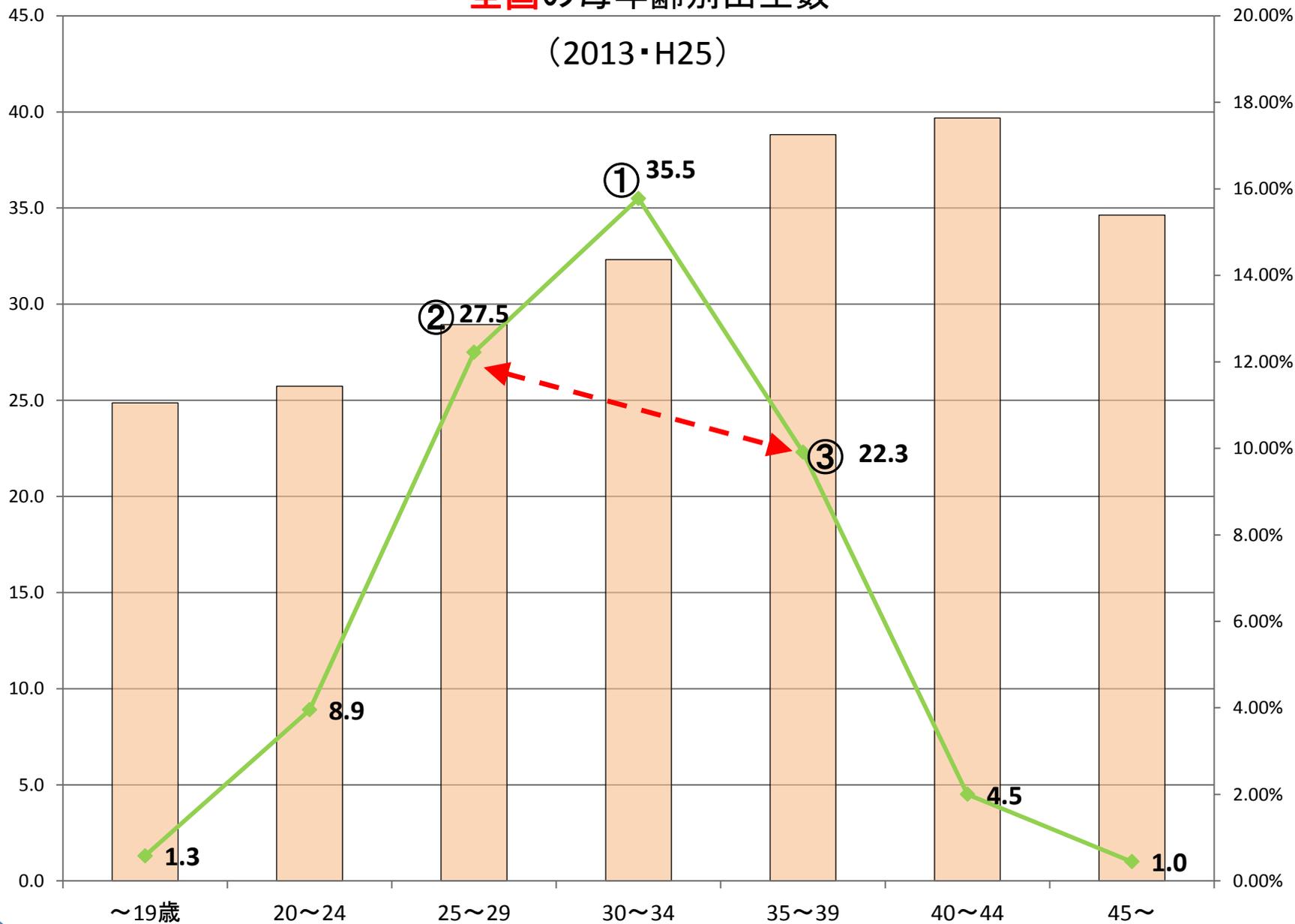
(2013・H25)



(厚生労働省人口動態統計 神奈川県衛生統計年報をもとに作成)

全国の母年齢別出生数

(2013・H25)



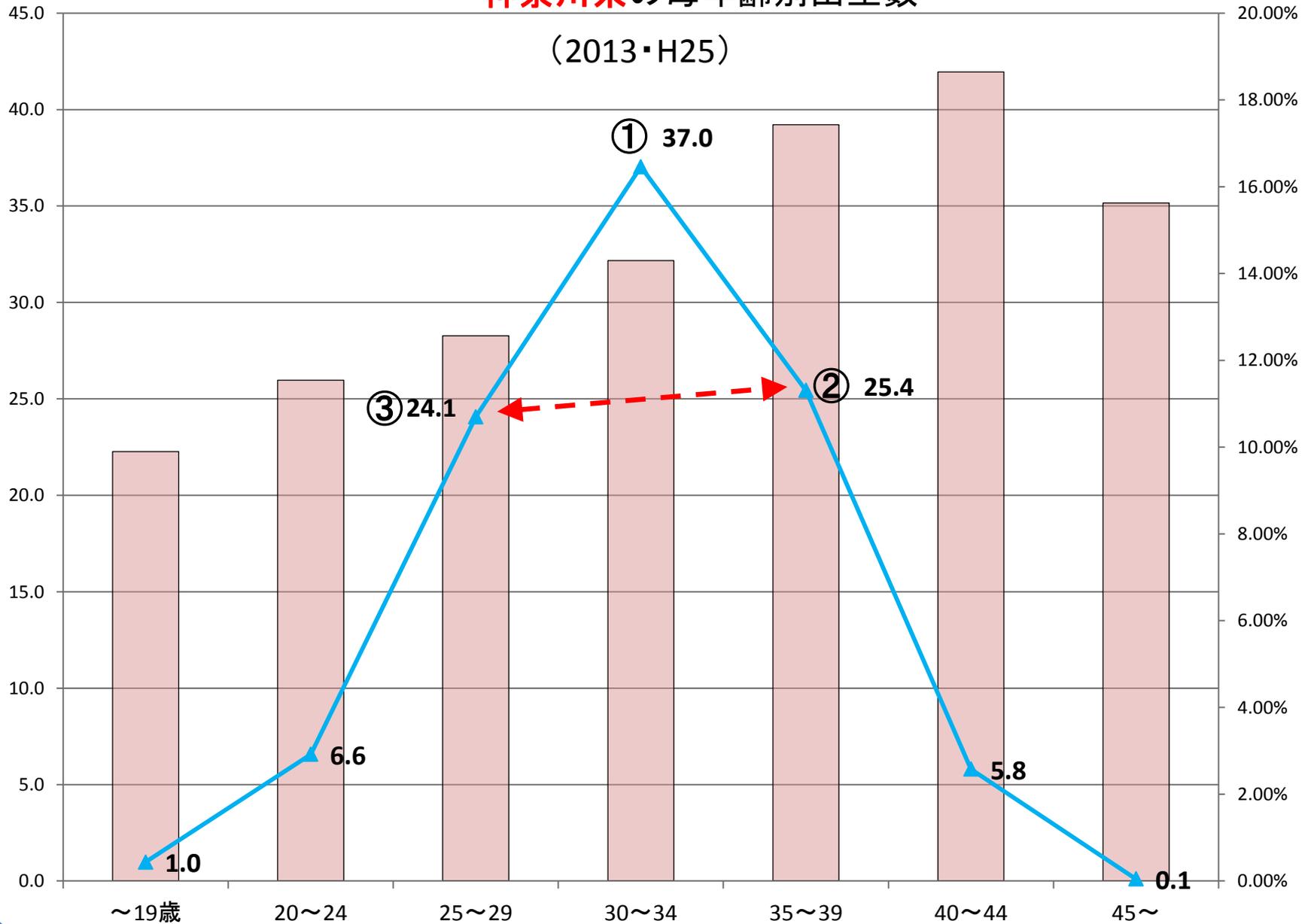
国 女性人口規模

国 出生人数

(厚生労働省人口動態統計をもとに作成)

神奈川県 母年齢別出生数

(2013・H25)



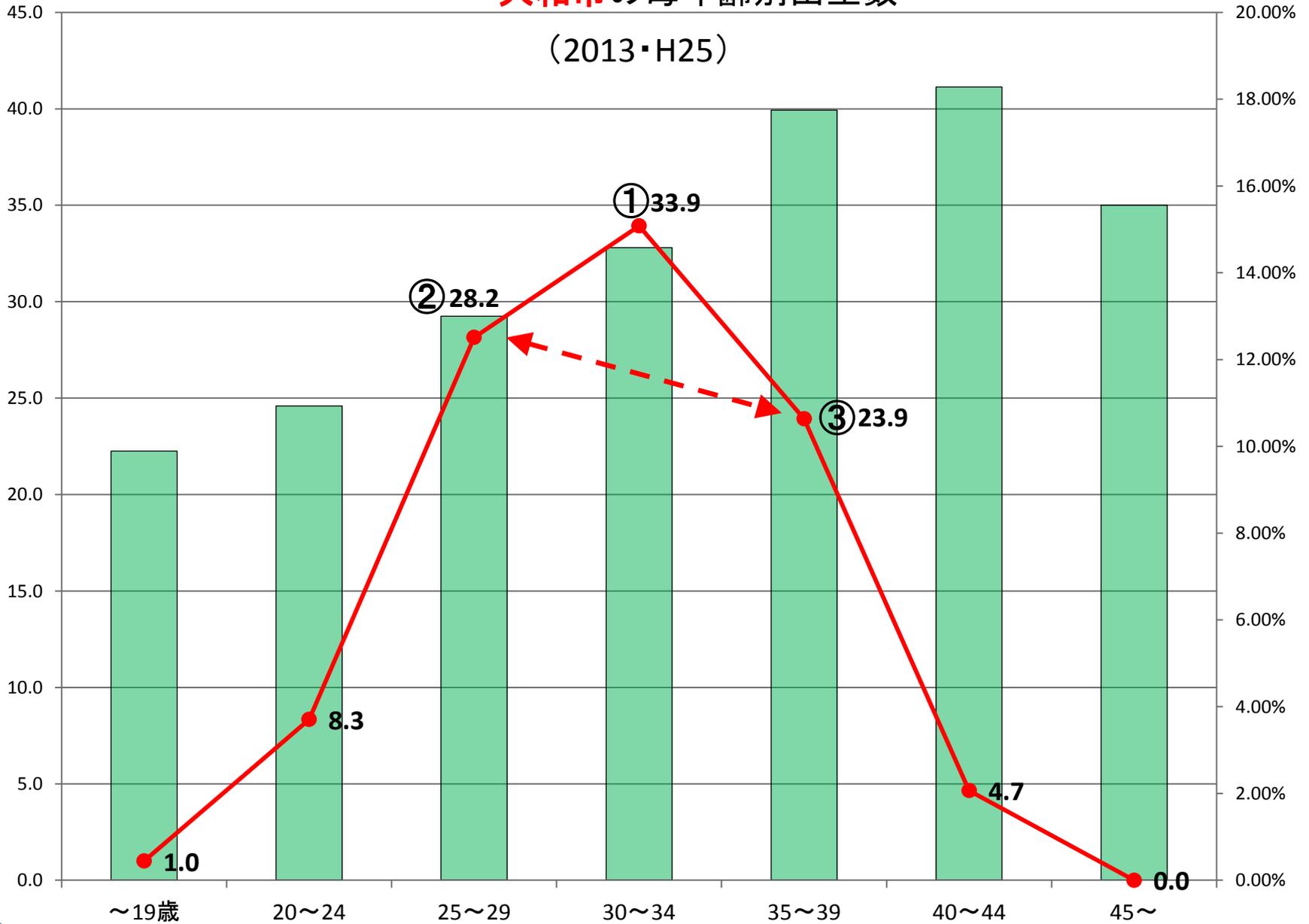
■ 神奈川県 女性人口規模

▲ 神奈川県 出生人数

(神奈川県衛生統計年報をもとに作成)

大和市の母年齢別出生数

(2013・H25)



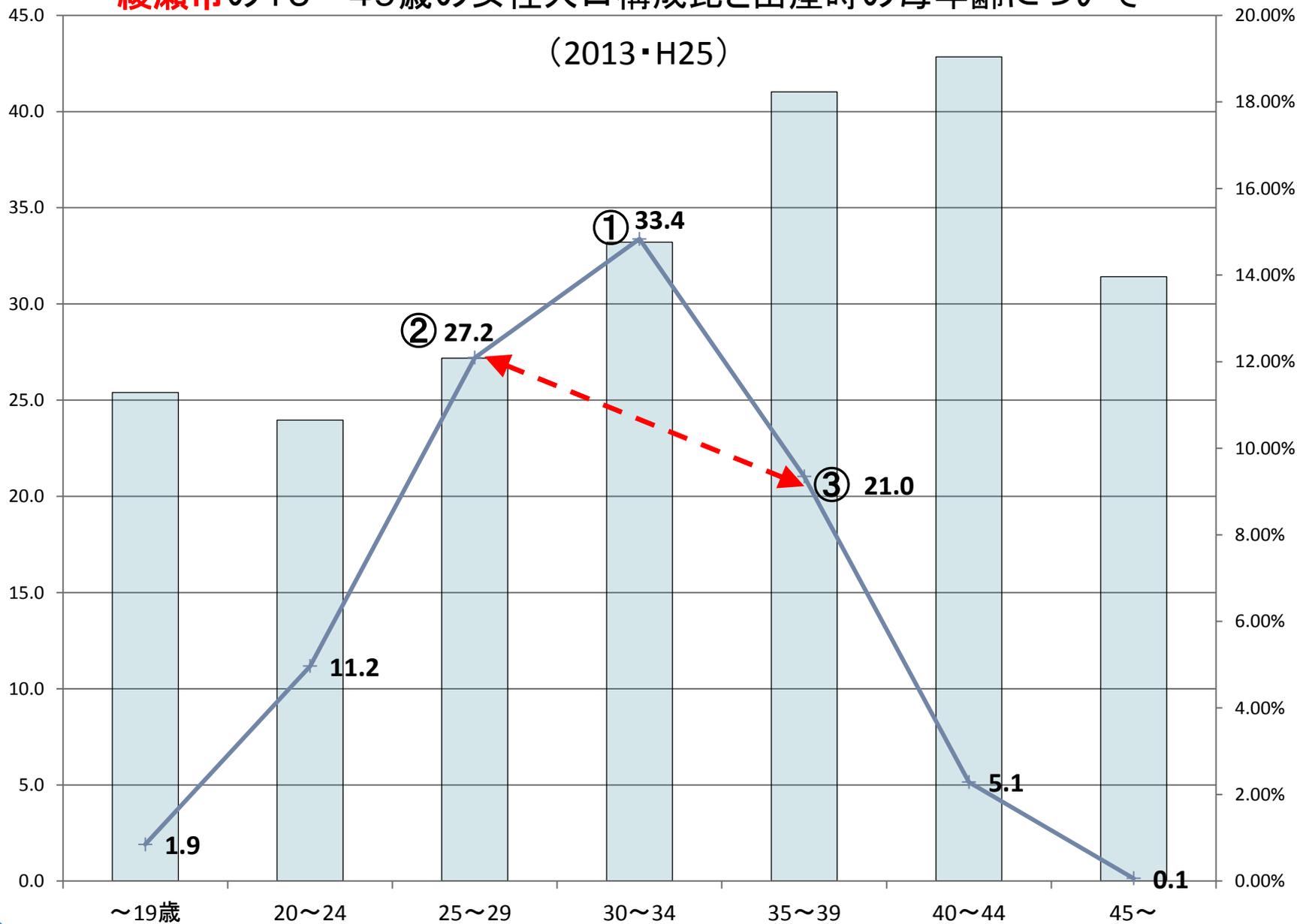
大和市 女性人口規模

大和市 出生人数

(厚生労働省人口動態統計 神奈川県衛生統計年報をもとに作成)

綾瀬市の15～49歳の女性人口構成比と出産時の母年齢について

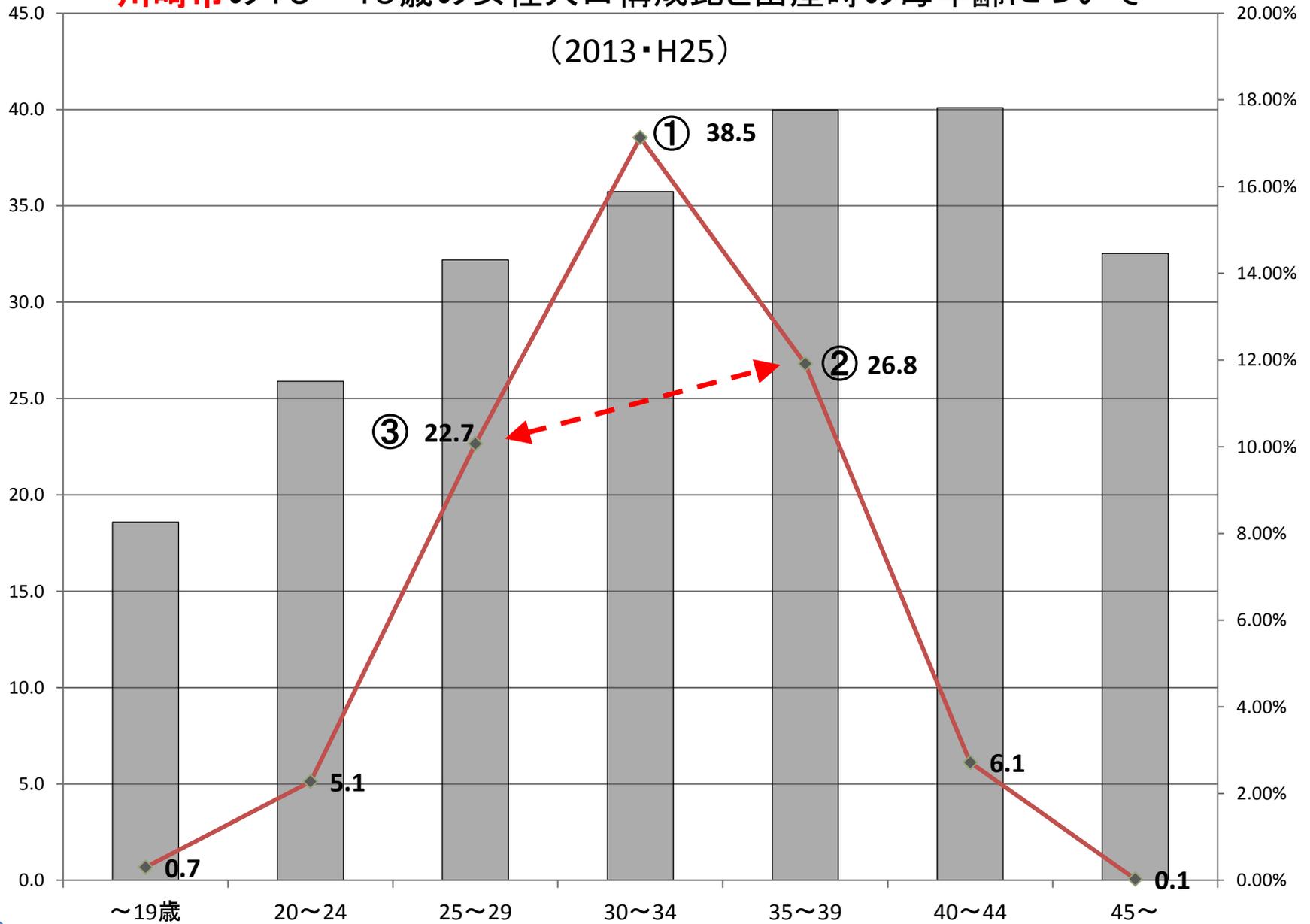
(2013・H25)



綾瀬市 女性人口規模
 綾瀬市 出生人数
 (厚生労働省人口動態統計 神奈川県衛生統計年報をもとに作成)

川崎市の15～49歳の女性人口構成比と出産時の母年齢について

(2013・H25)



■ 川崎市 女性人口規模

◆ 川崎市 出生人数

(厚生労働省人口動態統計 神奈川県衛生統計年報をもとに作成)

1. 人口の現状分析

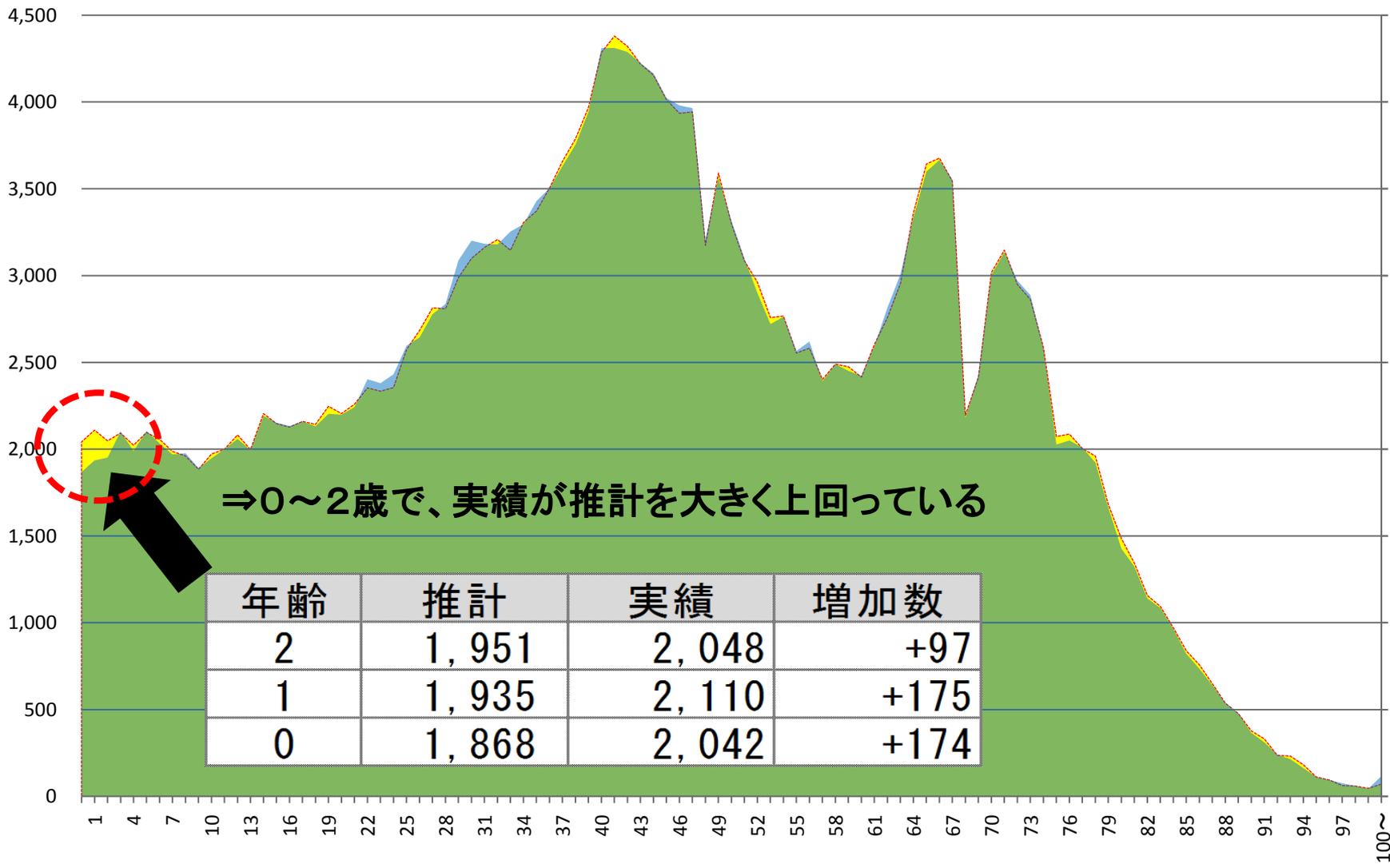
ア). 人口動態の分析

(2) 自然増減の状況

② 出生の状況

・出生率上昇の効果

～総合計画人口推計と実績値の比較～
(平成26年10月1日時点人口)



年齢	推計	実績	増加数
2	1,951	2,048	+97
1	1,935	2,110	+175
0	1,868	2,042	+174

■ 推計

■ 実数

1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

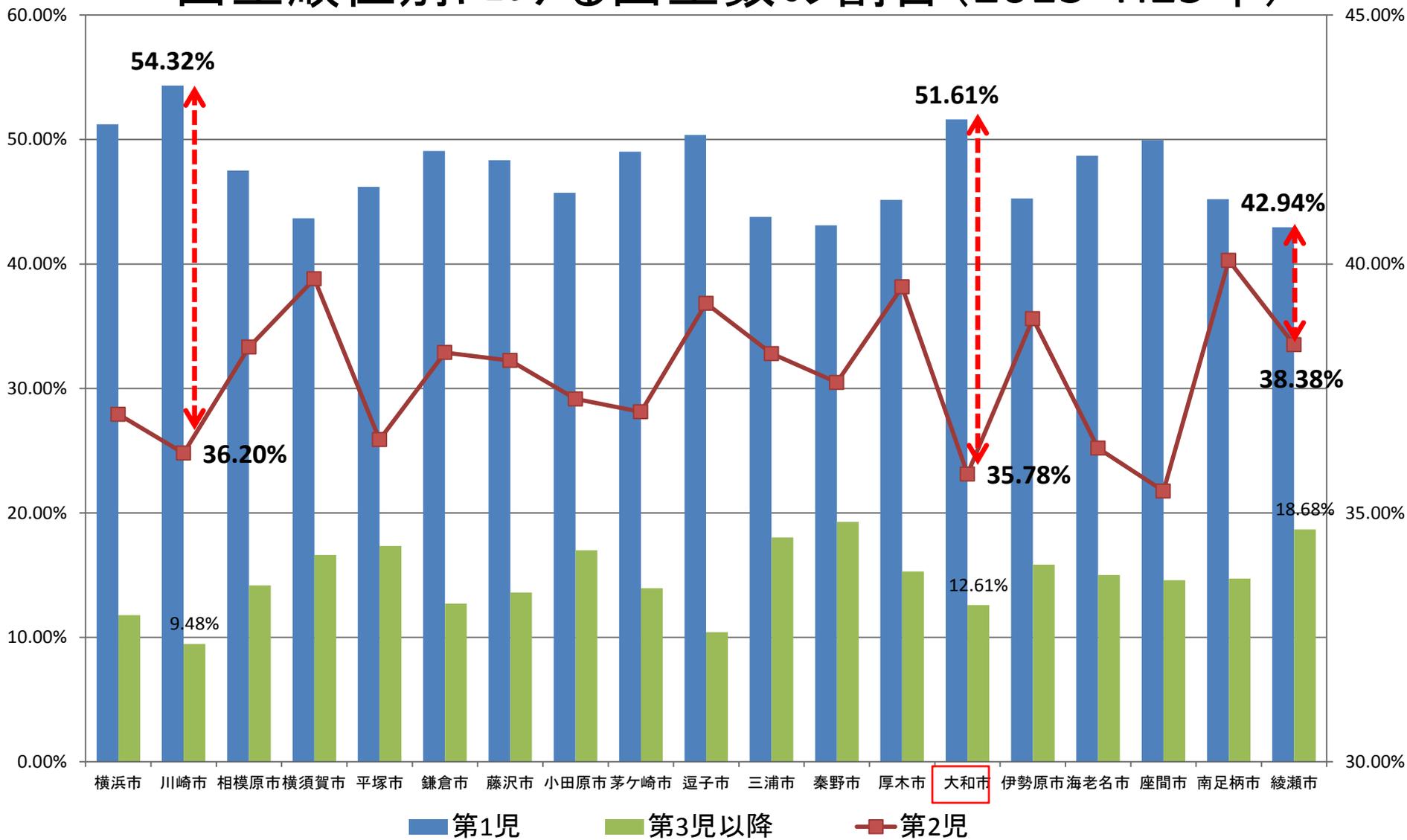
(2) 自然増減の状況

② 出生の状況

・出生順位の状況

(県内19市2013年・H25年)

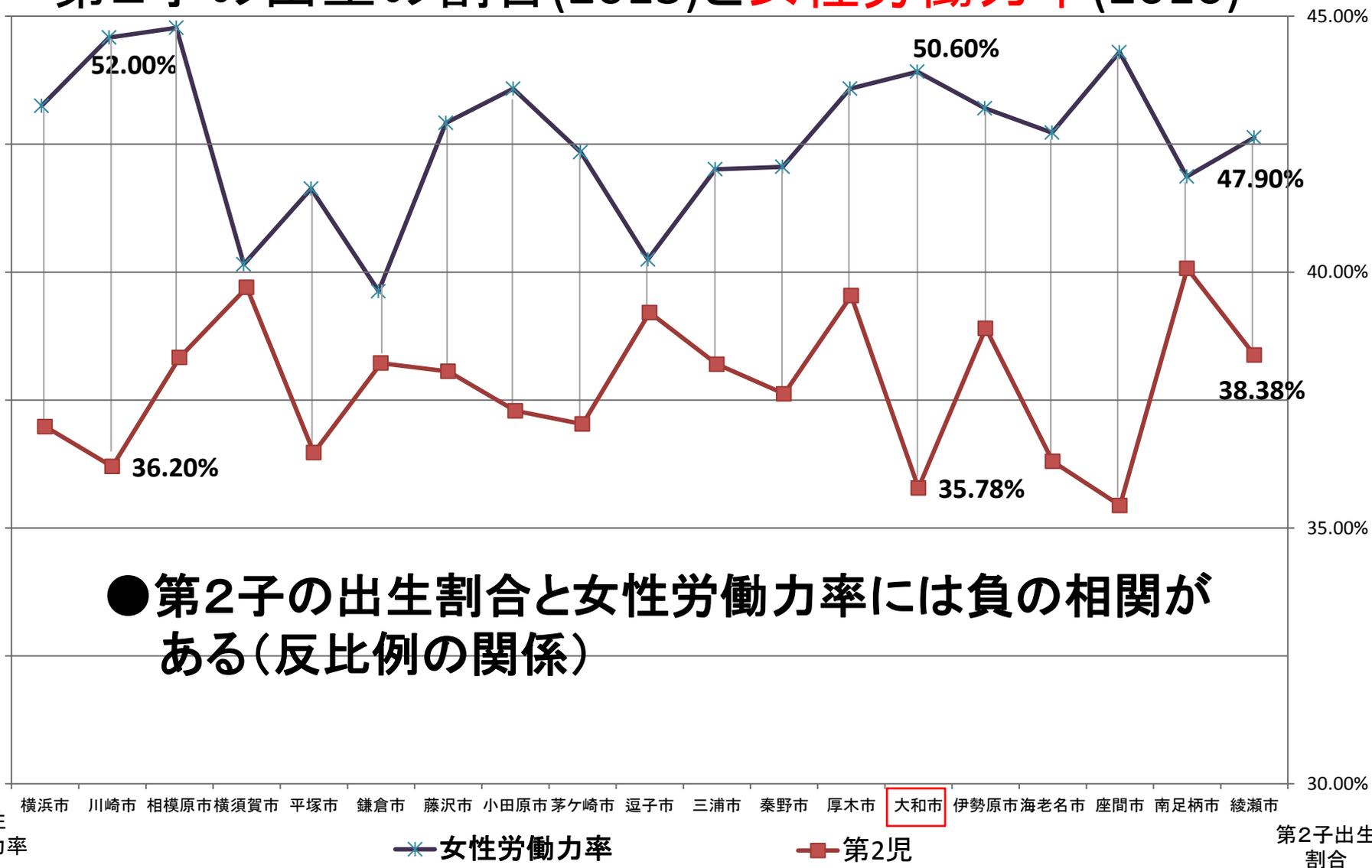
出生順位別にみる出生数の割合(2013・H25年)



(神奈川県衛生統計年報 神奈川県HPデータをもとに作成)

⇒大和市は第2子以降の出生割合が低い傾向

第2子の出生の割合(2013)と女性労働力率(2010)



● 第2子の出生割合と女性労働力率には負の相関がある(反比例の関係)

(神奈川県衛生統計年報、平成22年国勢調査産業等基本集計結果(神奈川県の概要) 神奈川県HPデータをもとに作成)

⇒働いている女性にとって、第2子目の出産は壁となっている

1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

(3) 社会増減の状況

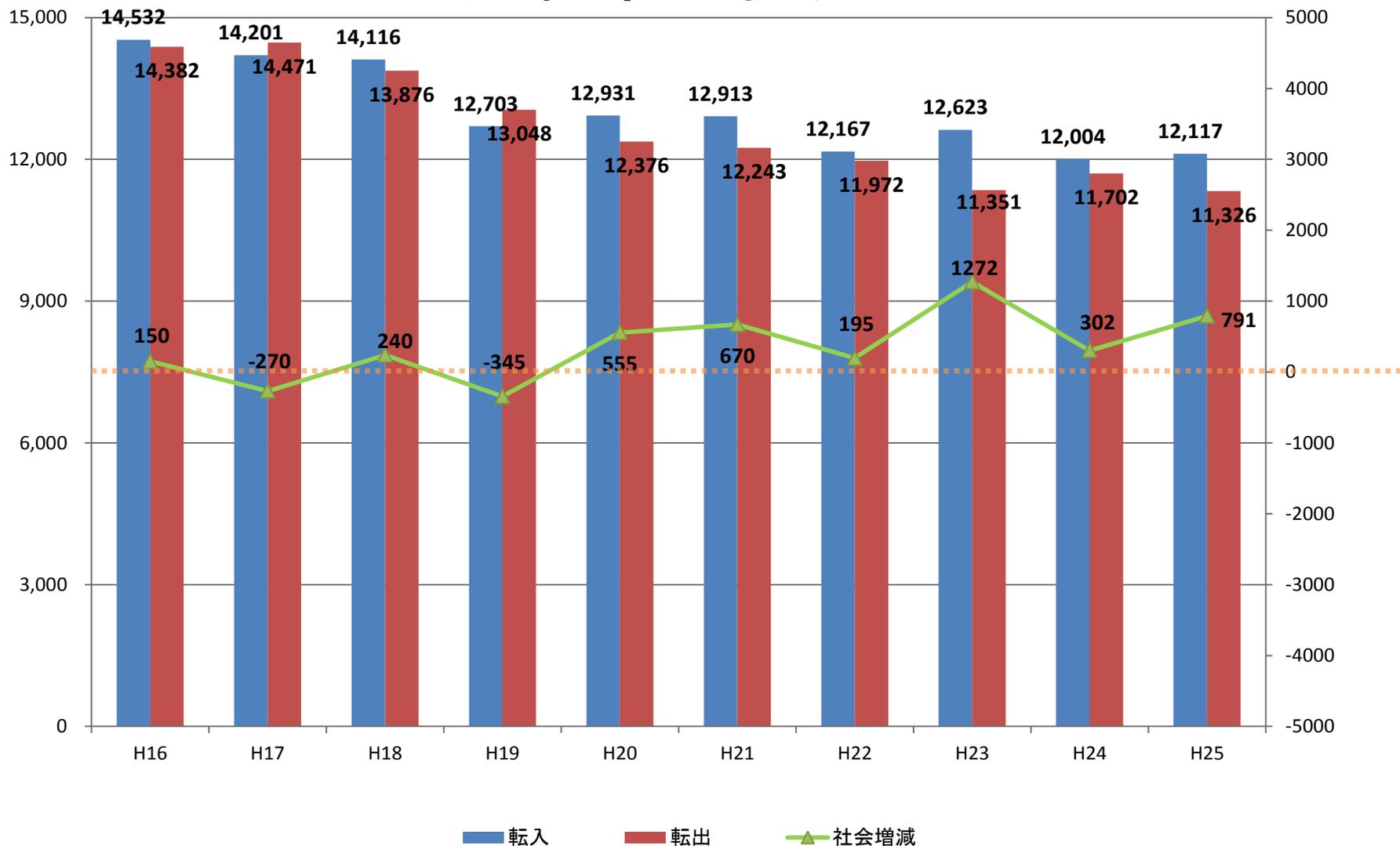
① 転出入の状況

～大和市の推移～
(2004年～2013年)

大和市の状況

転入・転出数

社会増減数



(大和市統計概要から作成)

●転出入の動きは抑制的に推移しているが、社会増を維持している。

1. 人口の現状分析

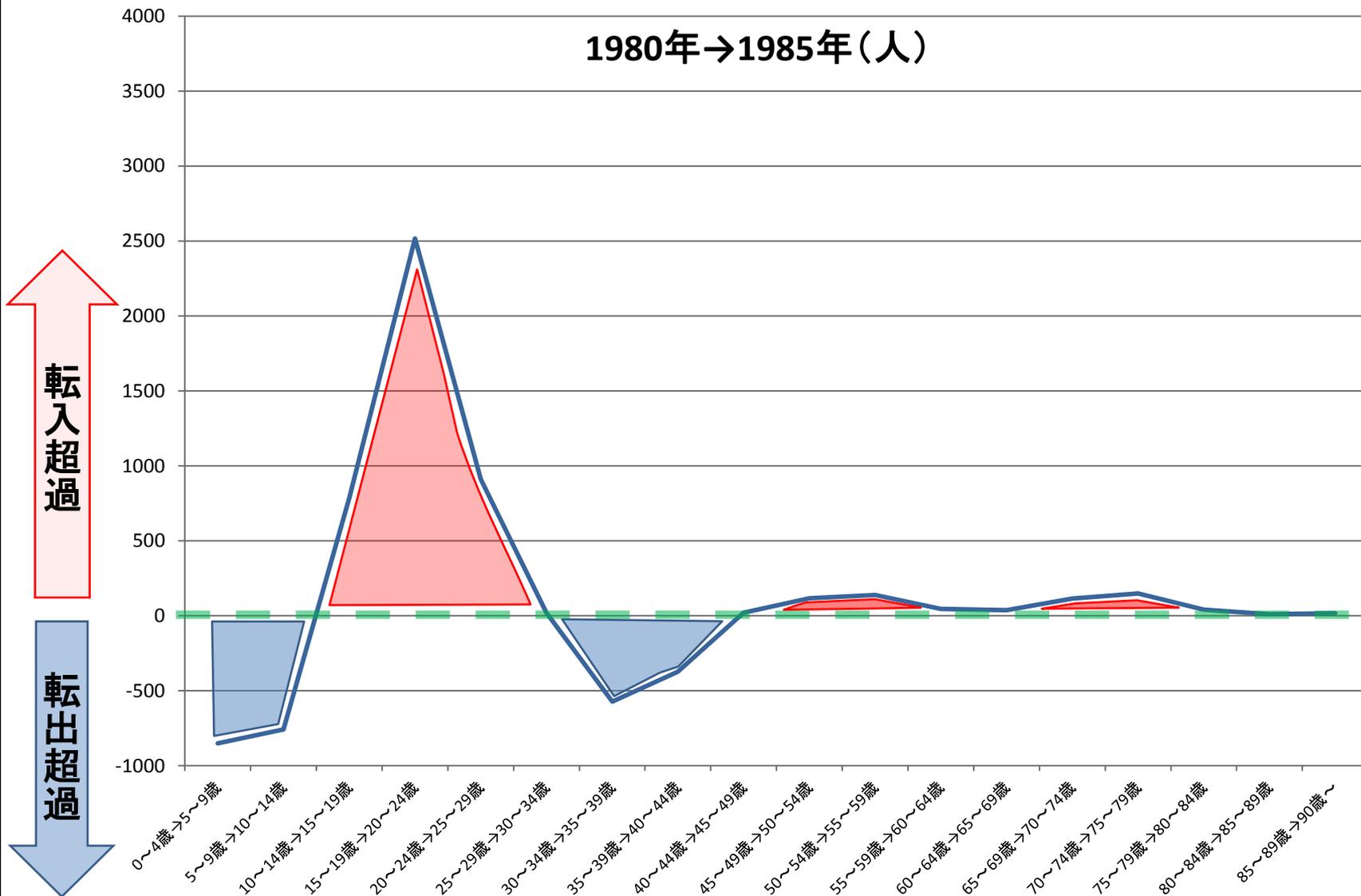
ア). 人口動態の分析

(3) 社会増減の状況

- ① 転出入の状況
 - ・ 男女の計

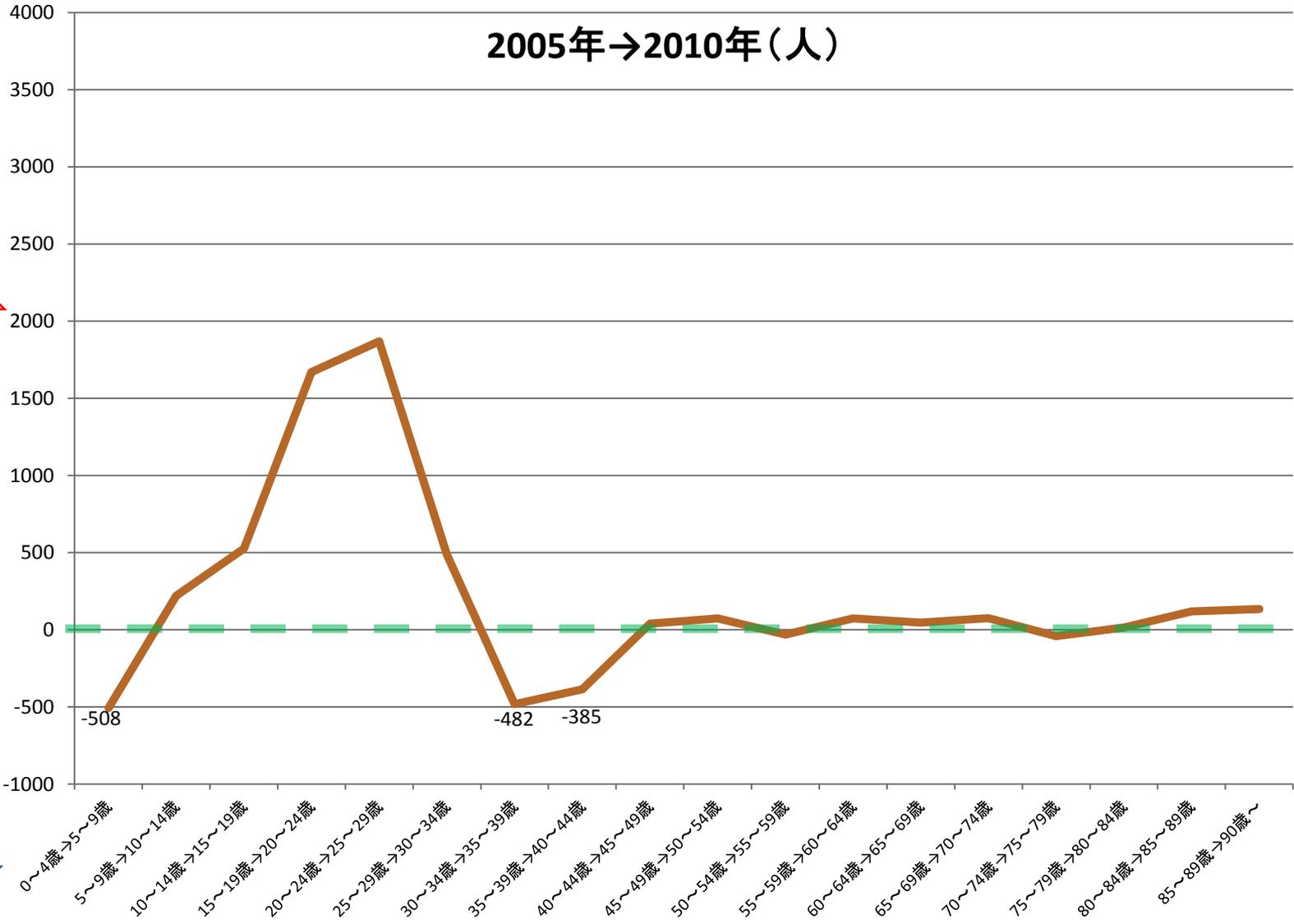
(1980年～2010年)

1980年→1985年(人)

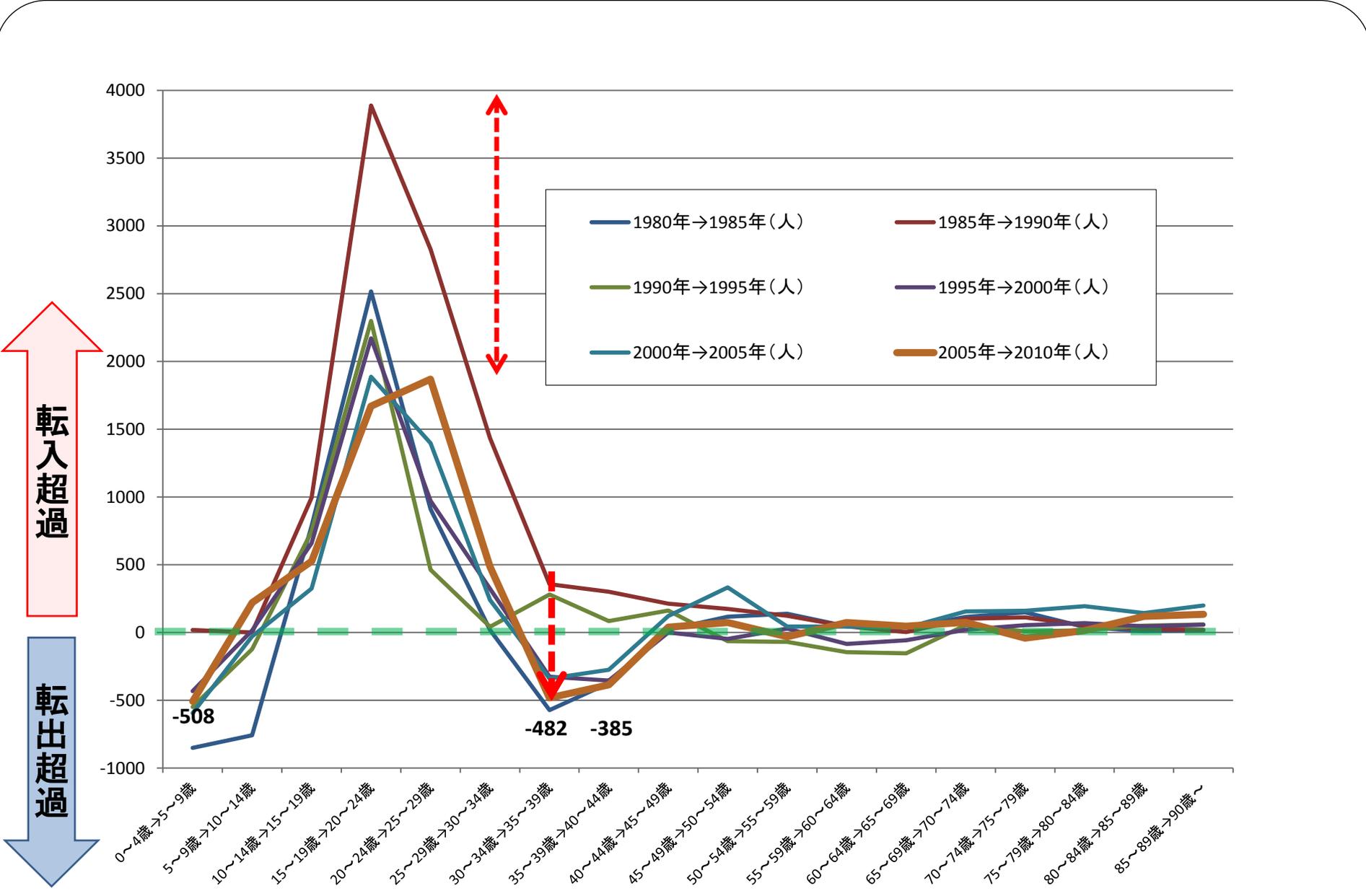


(RESASデータ：総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成)

2005年→2010年(人)



(RESASデータ：総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成)



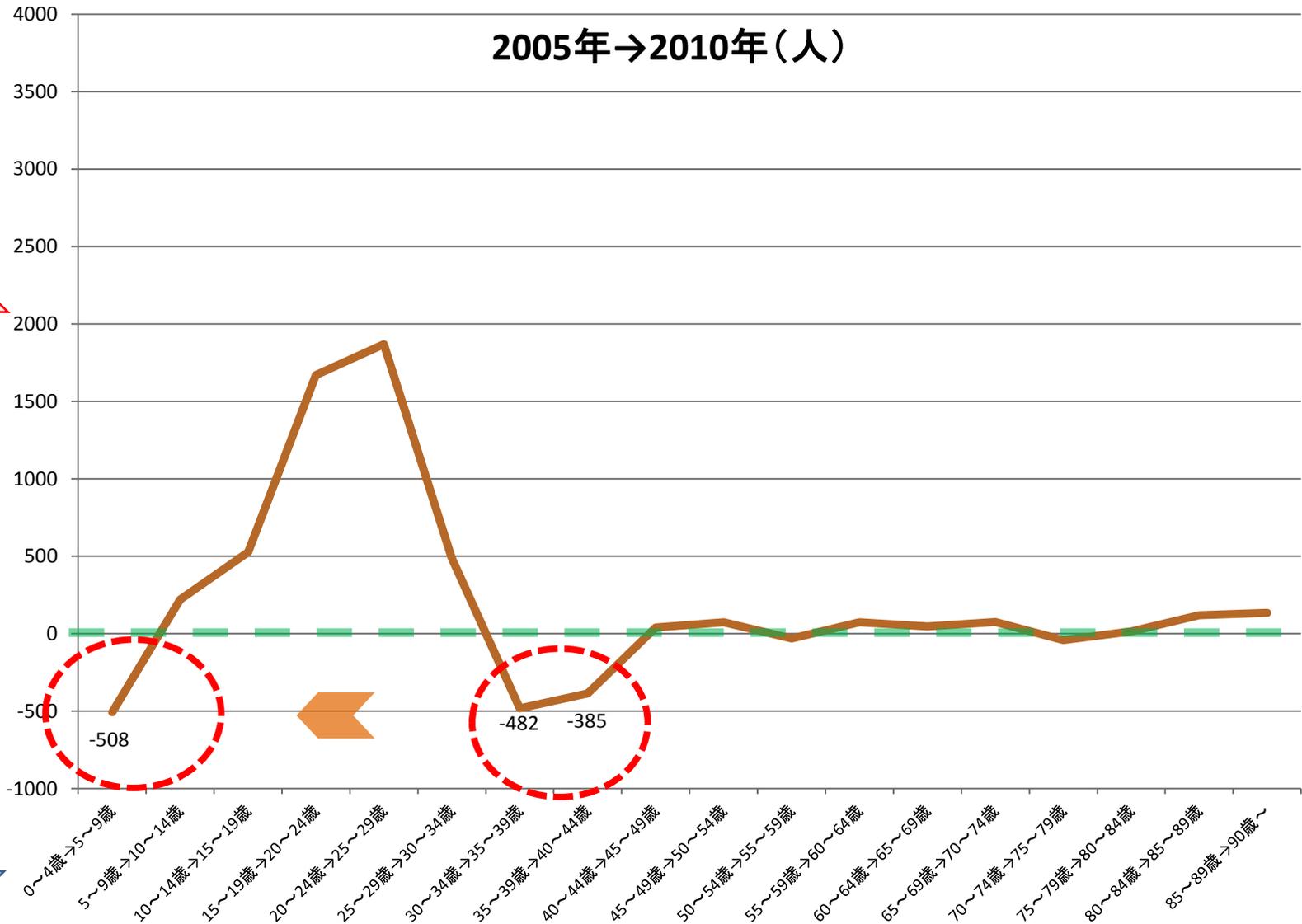
転入超過

転出超過

⇒全体的な転出入の動きは抑制傾向にある
 ⇒30歳代の転出は拡大傾向にある

(RESASデータ：総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成)

2005年→2010年(人)



転入超過

転出超過

⇒子育て世代の転出超過は、その子どもの社会減につながっていると考えられる

(RESASデータ：総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成)

1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

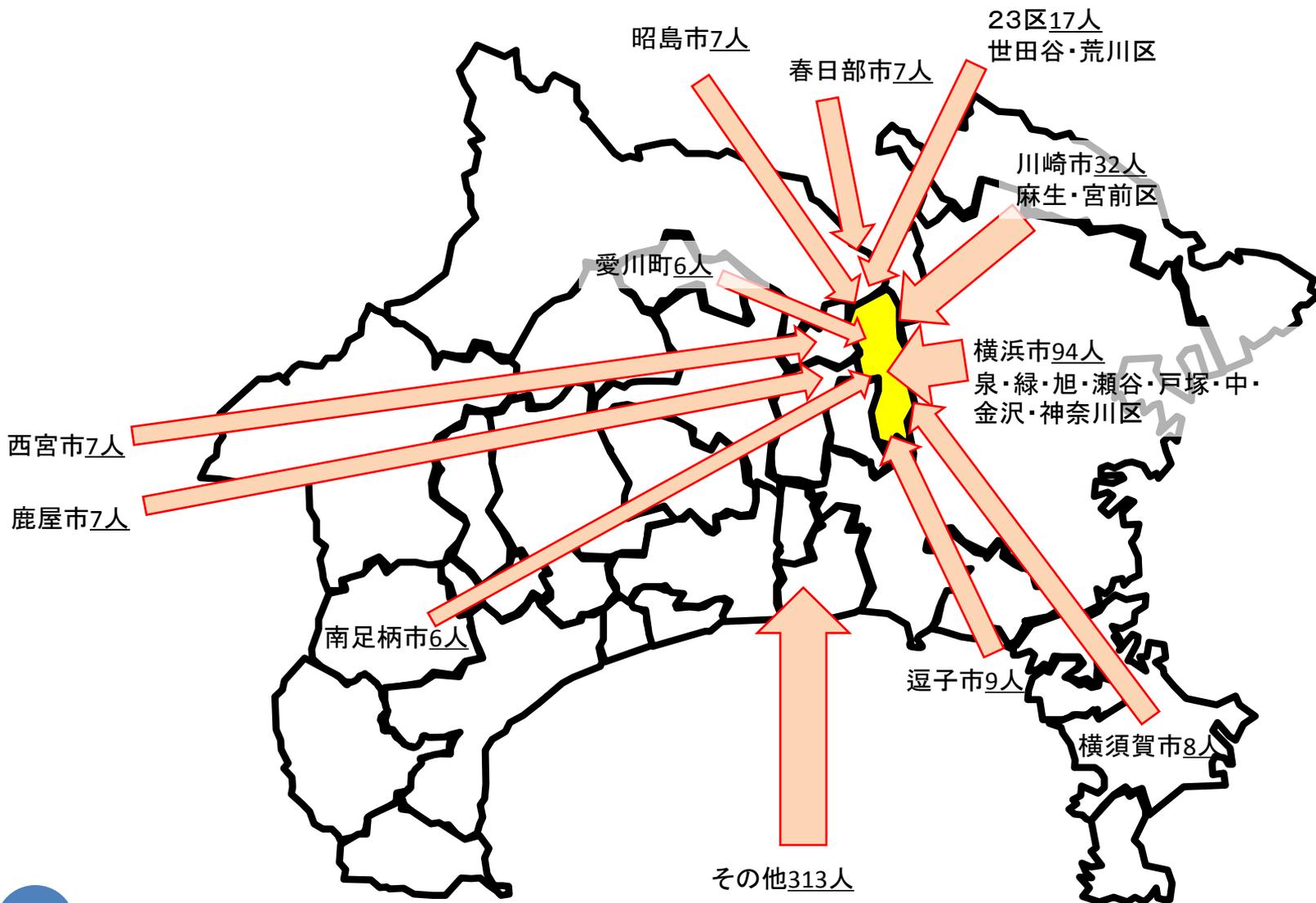
(3) 社会増減の状況

② 転出入先の状況

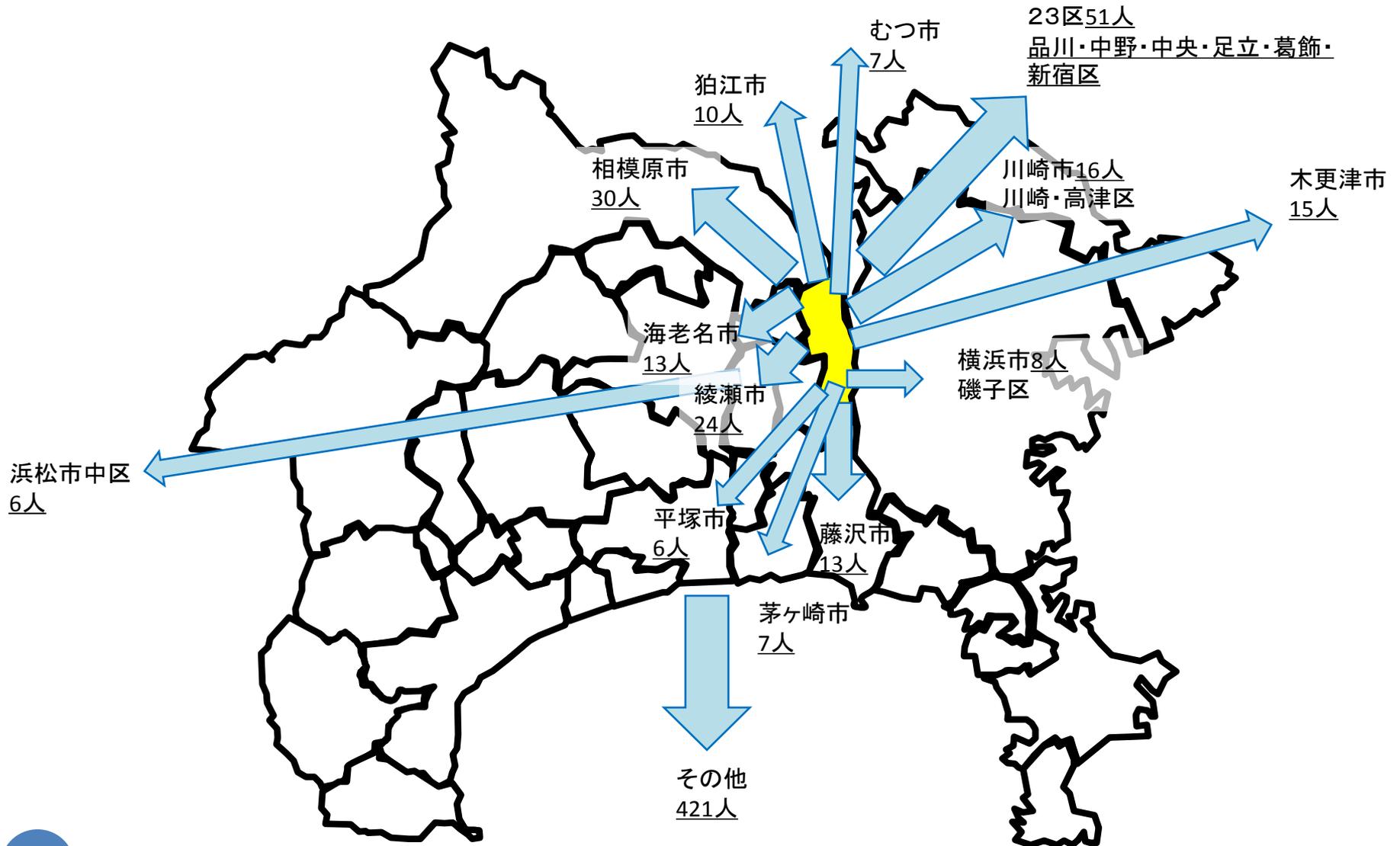
・ 30歳代

(2014年)

30歳代の転入超過の状況(2014年:計513人)



30歳代の転出超過の状況(2014年:計627人)



1. 人口の現状分析

ア). 人口動態の分析

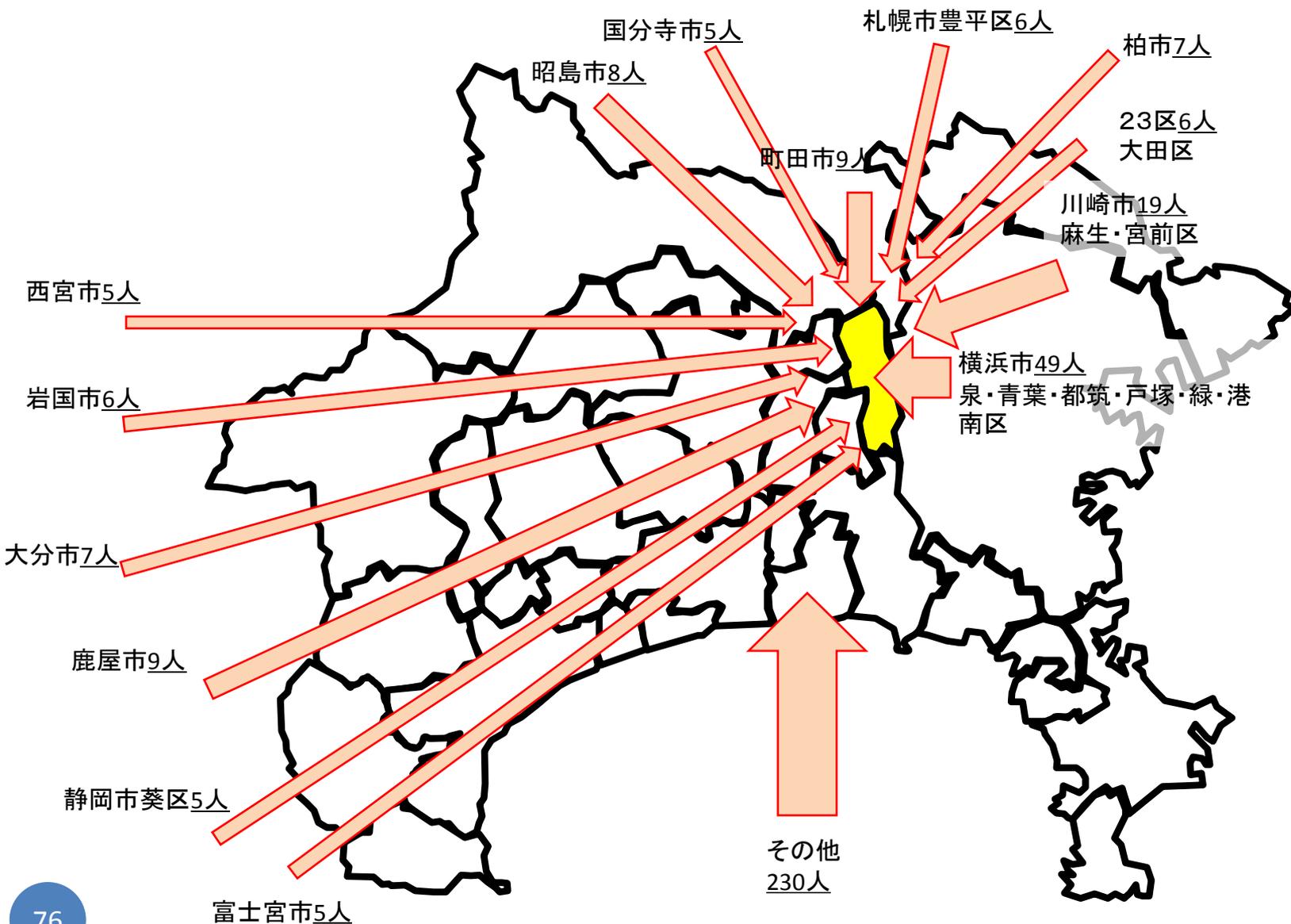
(3) 社会増減の状況

② 転出入先の状況

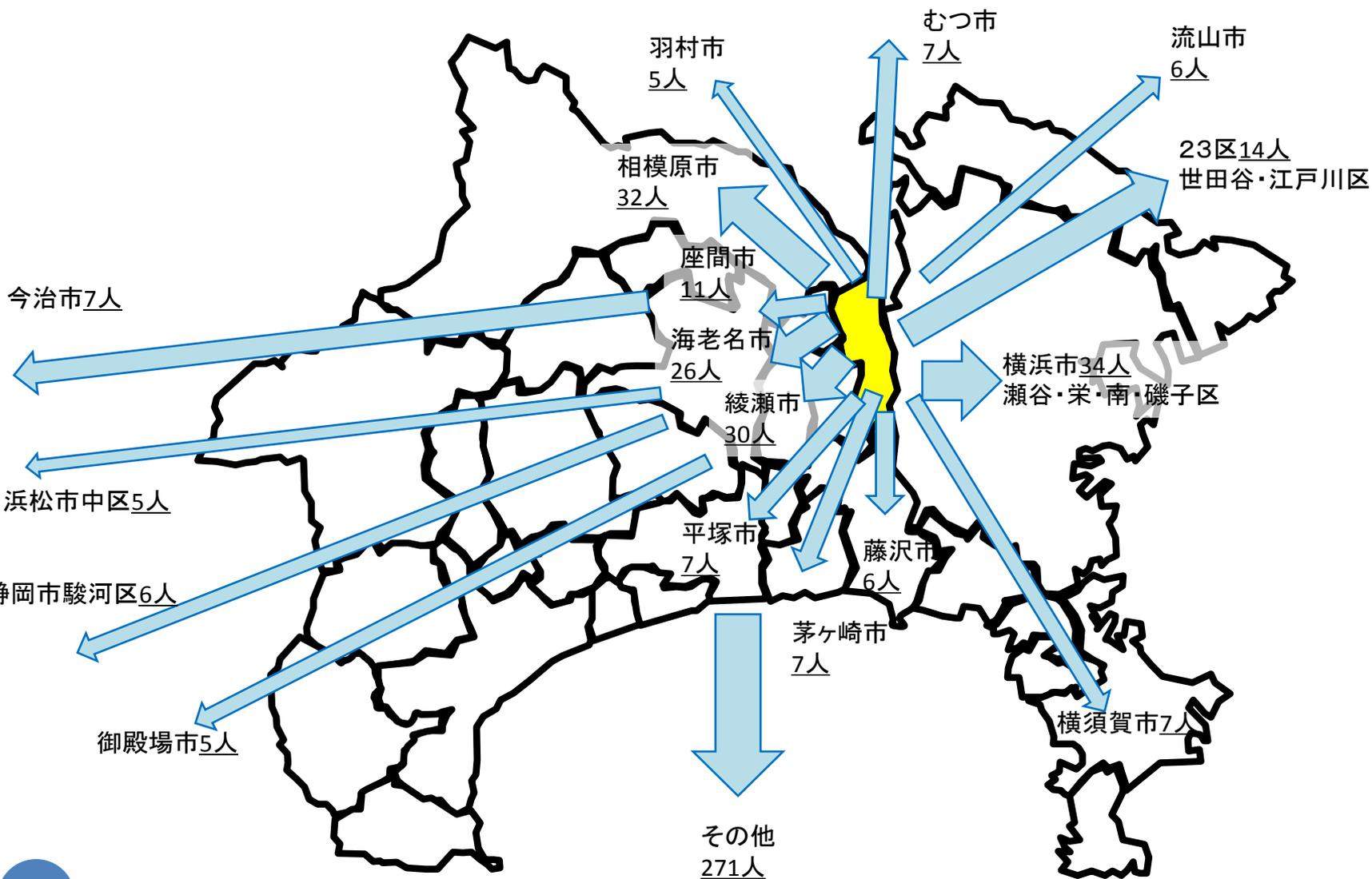
・20歳未満

(2014年)

20歳未満の転入超過の状況(2014年:計376人)

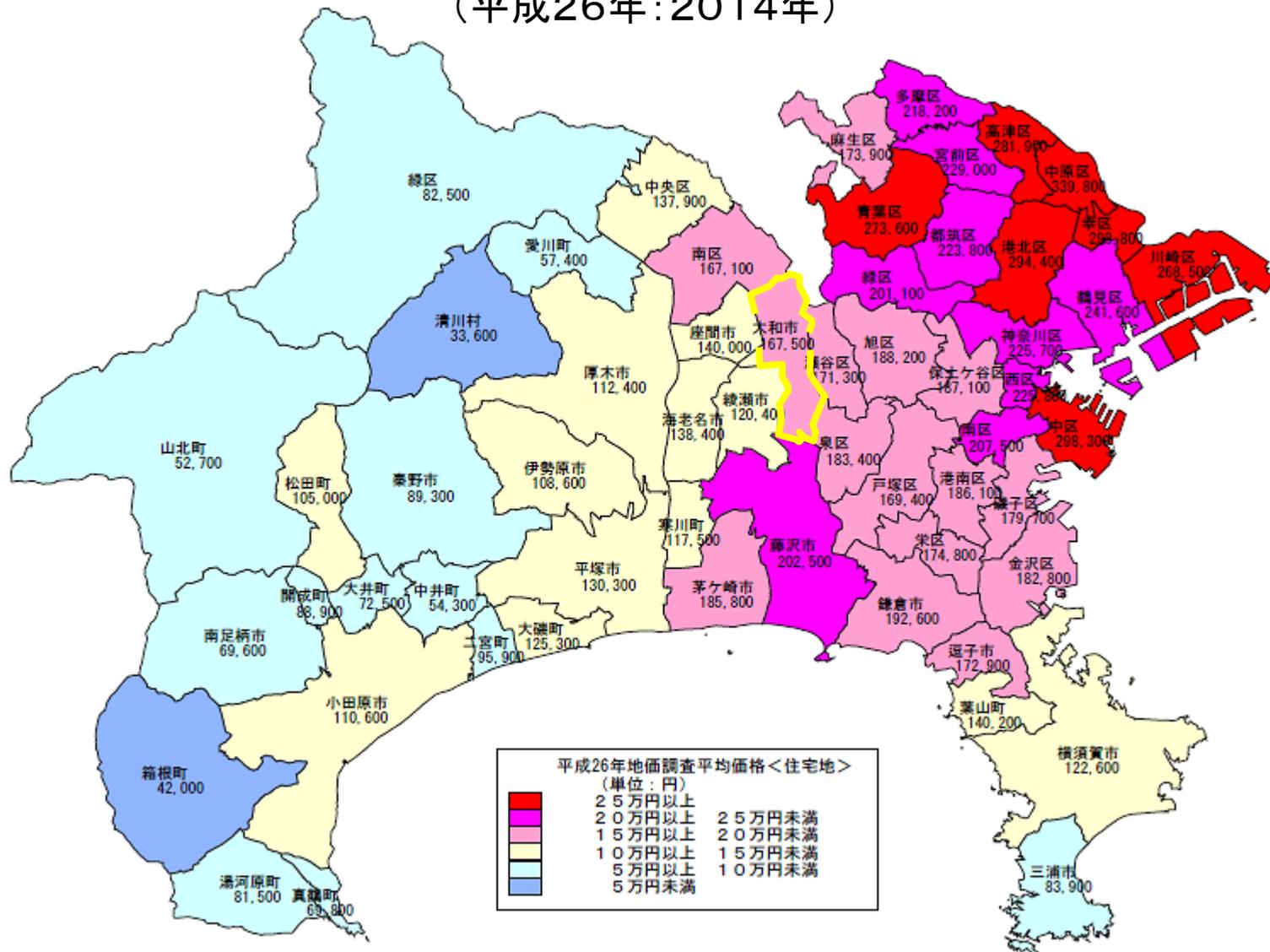


20歳未満の転出超過の状況(2014年:計486人)



(参考) 県内の地価の状況

(平成26年:2014年)



(神奈川県地価調査 神奈川県HPデータから引用)

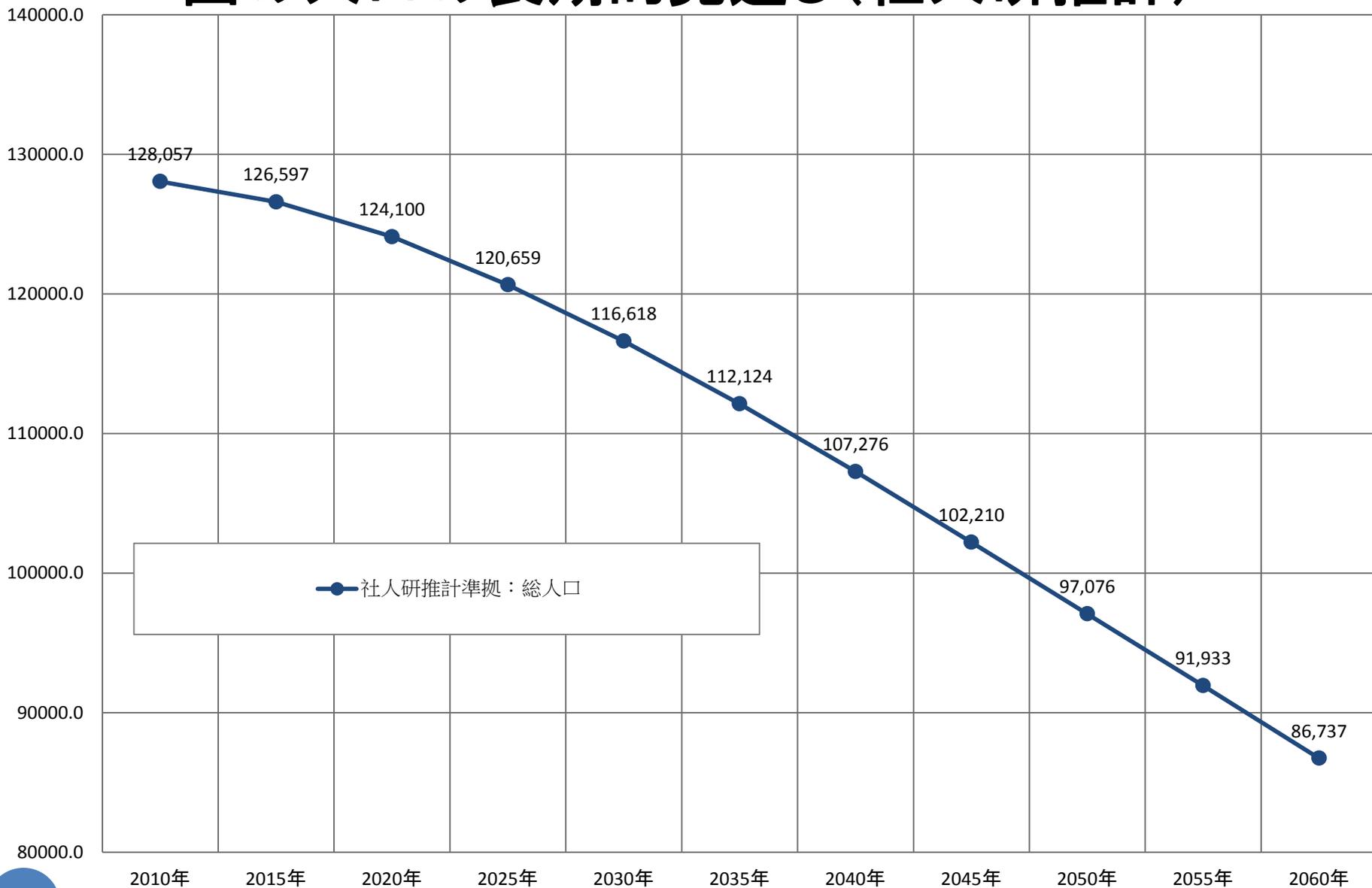
1. 人口の現状分析

イ). 将来人口の推計と分析

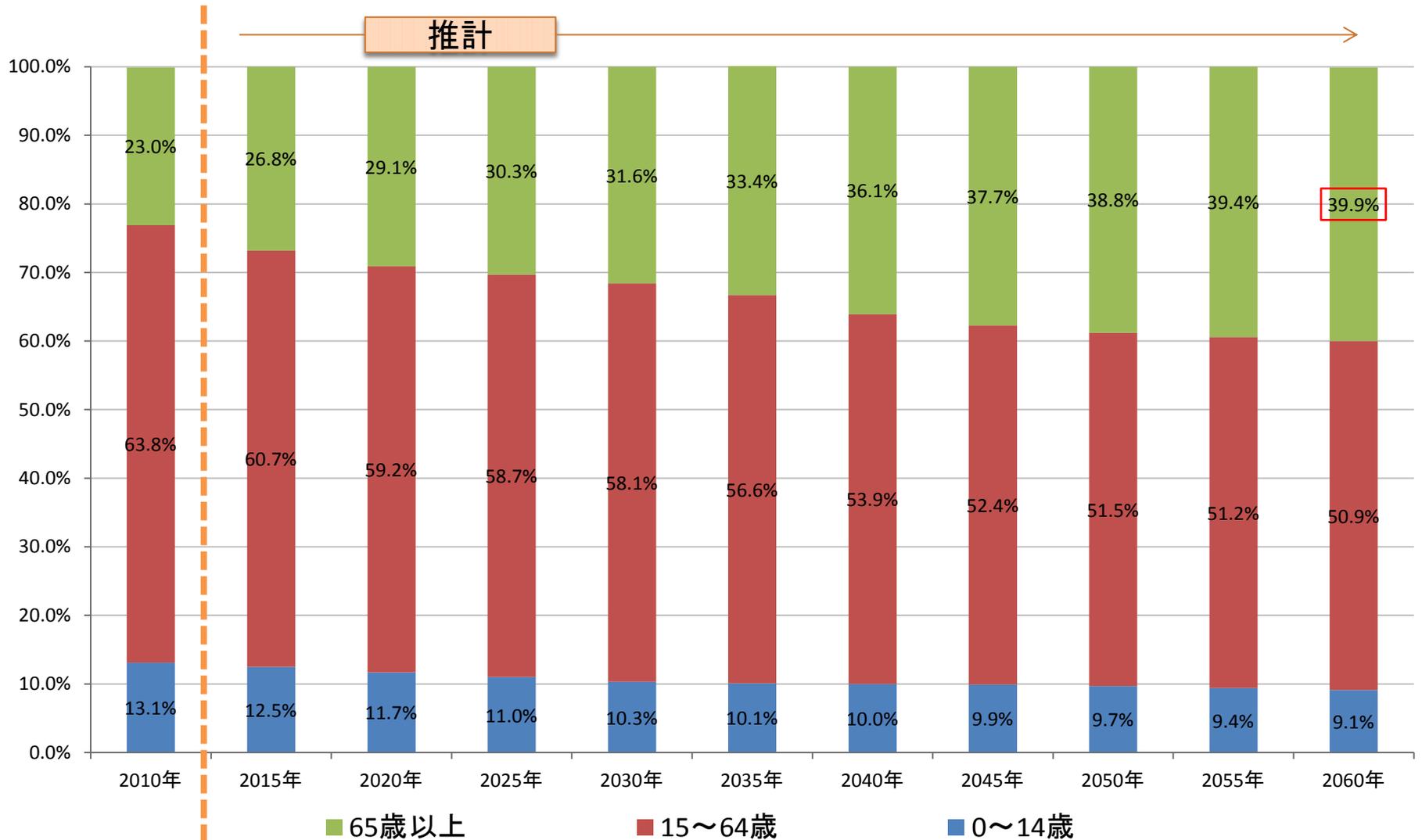
(1) 国の推計について

(2015～2060年)

国の人口の長期的見通し(社人研推計)



国の年齢3区分別人口構成の見通し



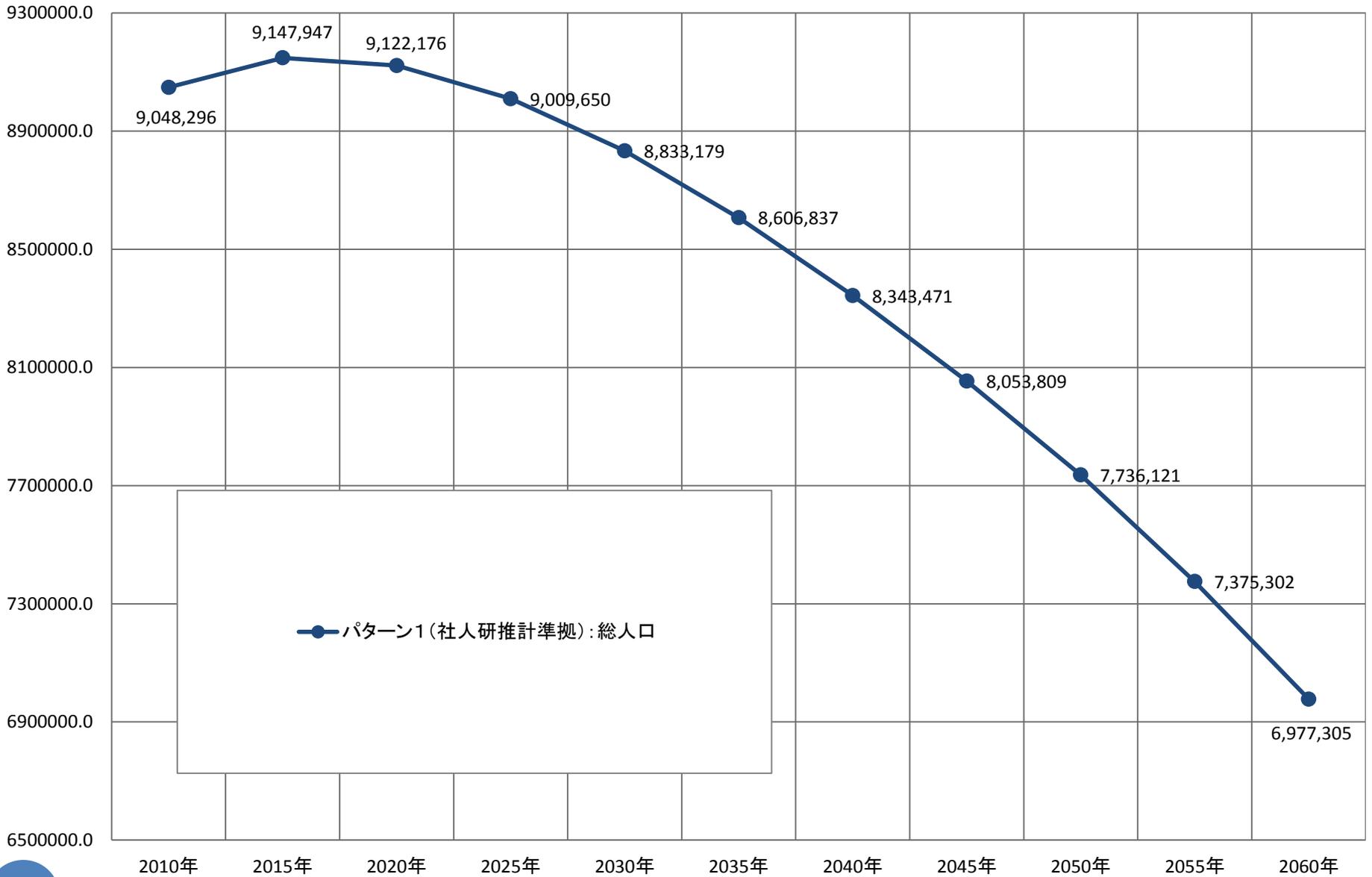
1. 人口の現状分析

イ). 将来人口の推計と分析

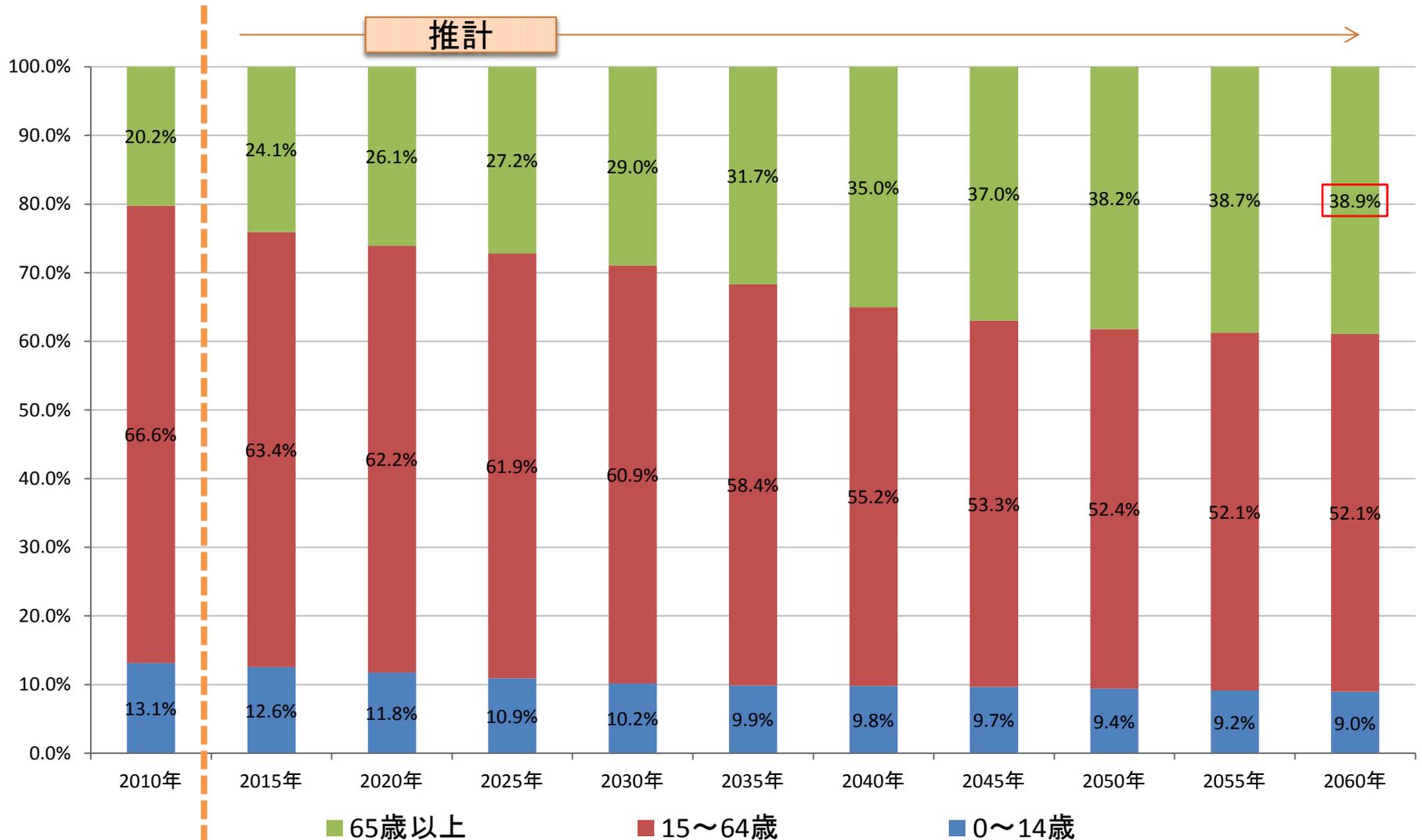
(2) 神奈川県の推計について

(2015～2060年)

神奈川県の人口の長期的見通し



神奈川県の子年齢3区分別人口構成の見通し



1. 人口の現状分析

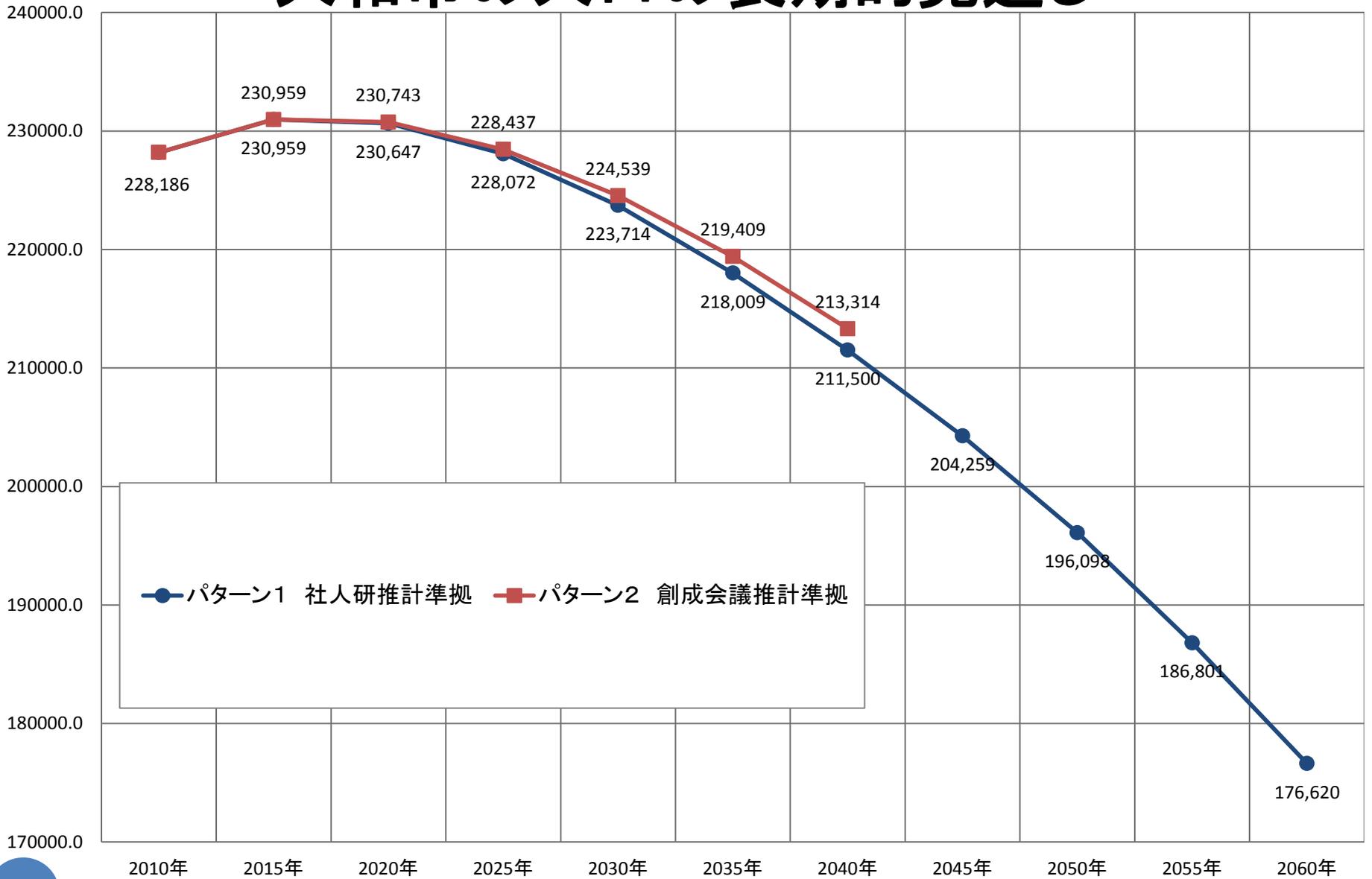
イ). 将来人口の推計と分析

(3) 大和市の推計について

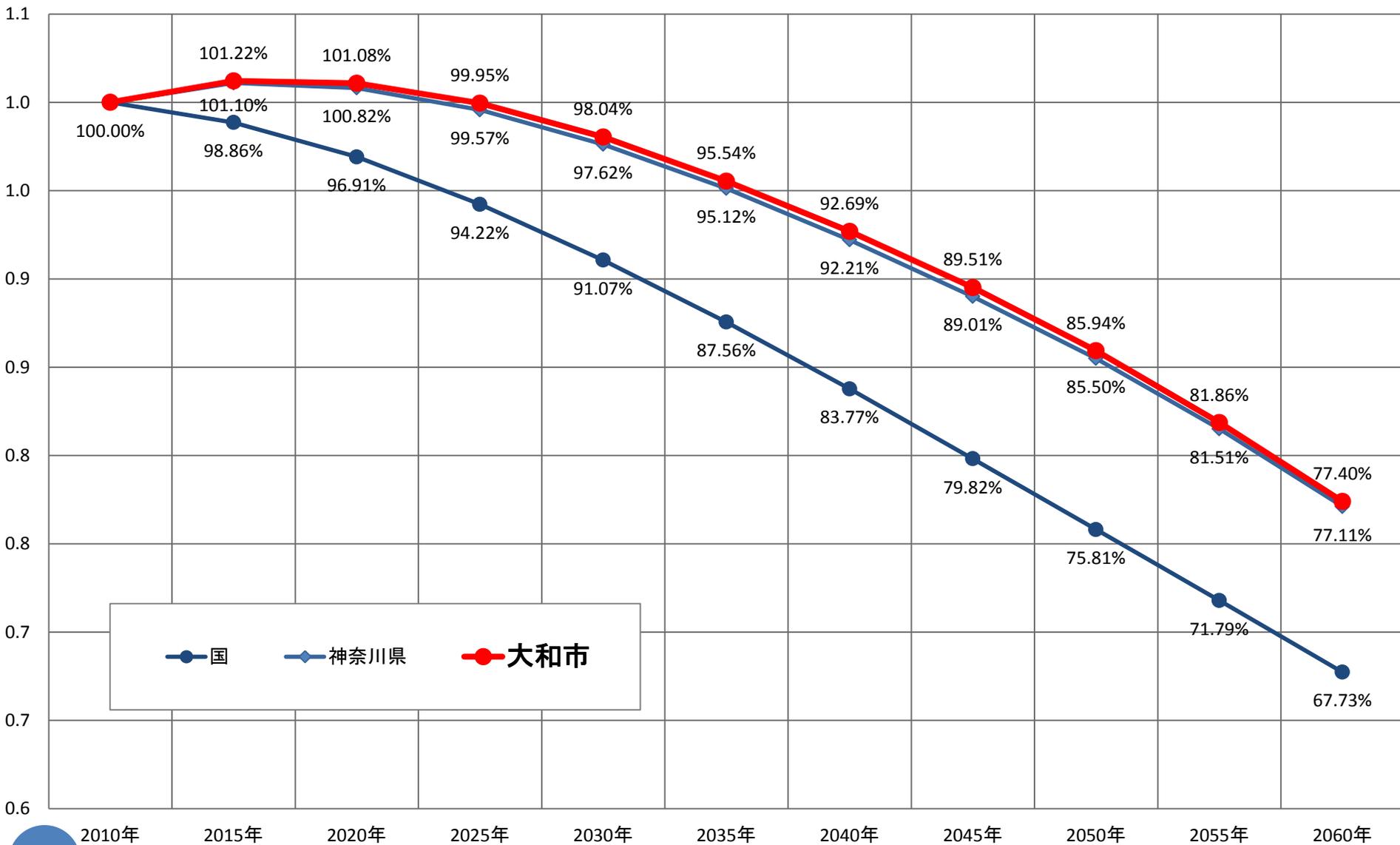
① 国立社会保障・人口問題研究所の
推計から

(2015～2060年)

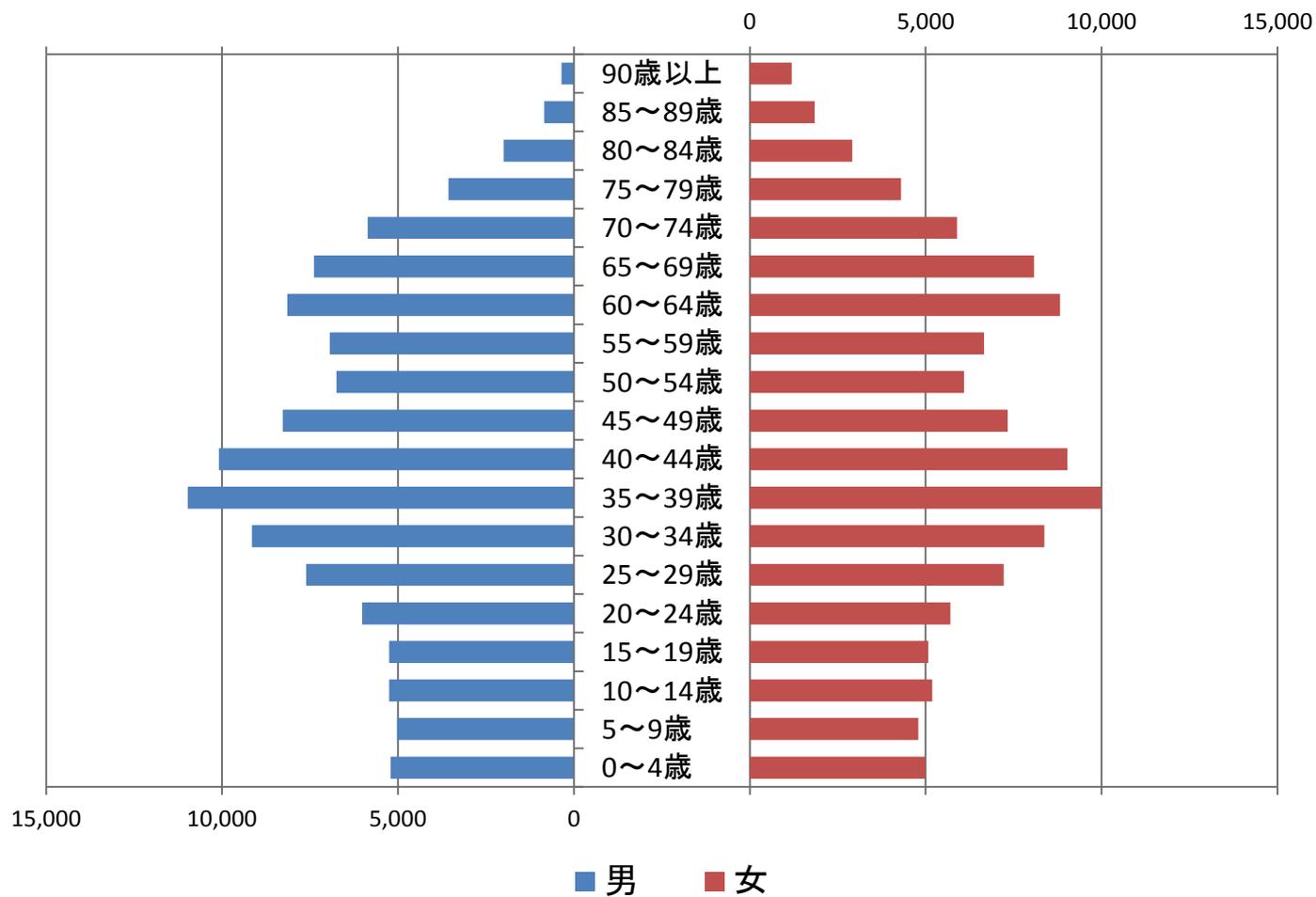
大和市の人口の長期的見通し



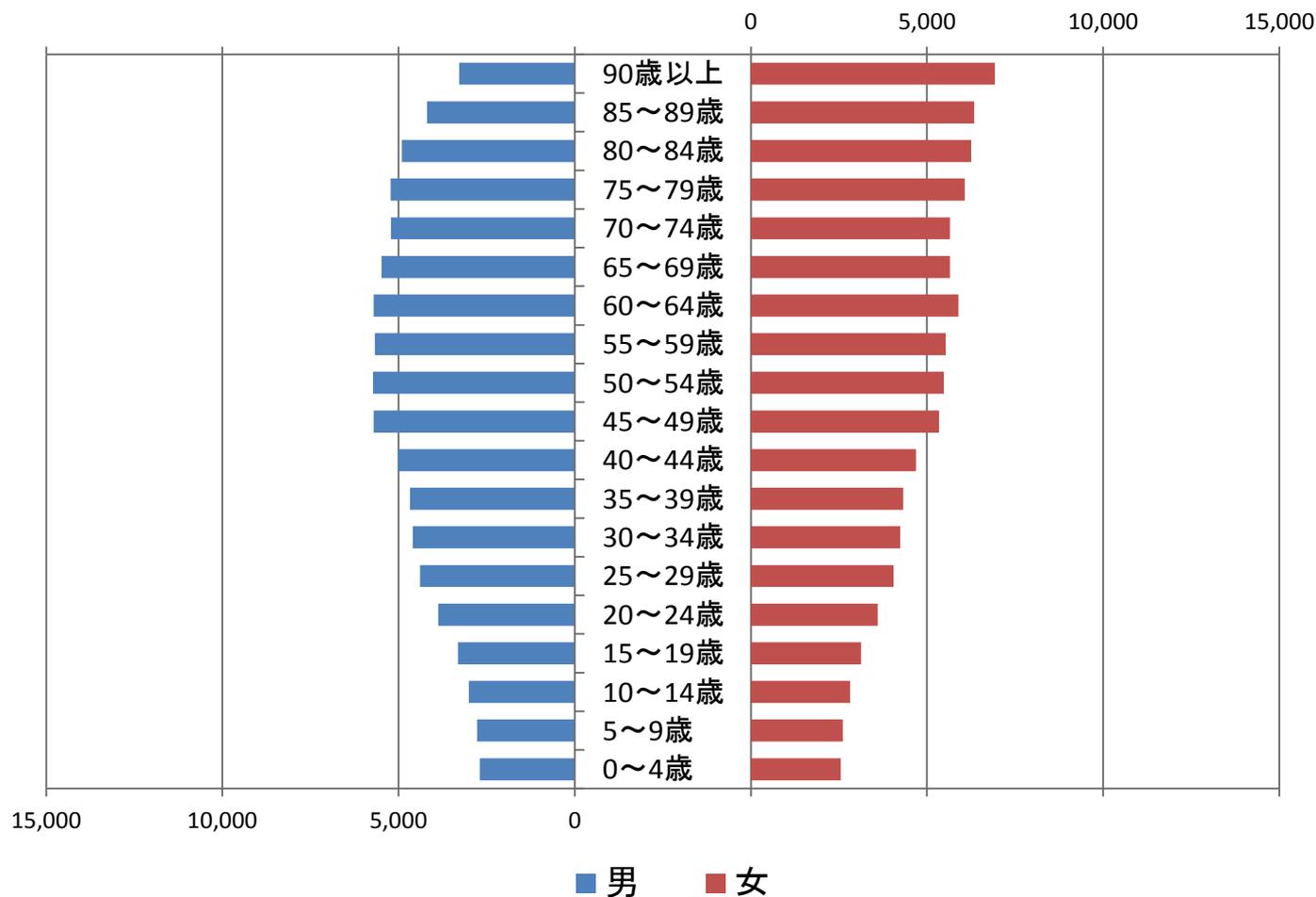
国立社会保障・人口問題研究所推計 2010年を100とした場合の比較



大和市の人口ピラミッドの推移(2010年:実績)



大和市の人口ピラミッドの推移(2060年:推計・社人研)



● 高齢者人口の割合は35%以上で高止まりし、年少人口の減少が続く

1. 人口の現状分析

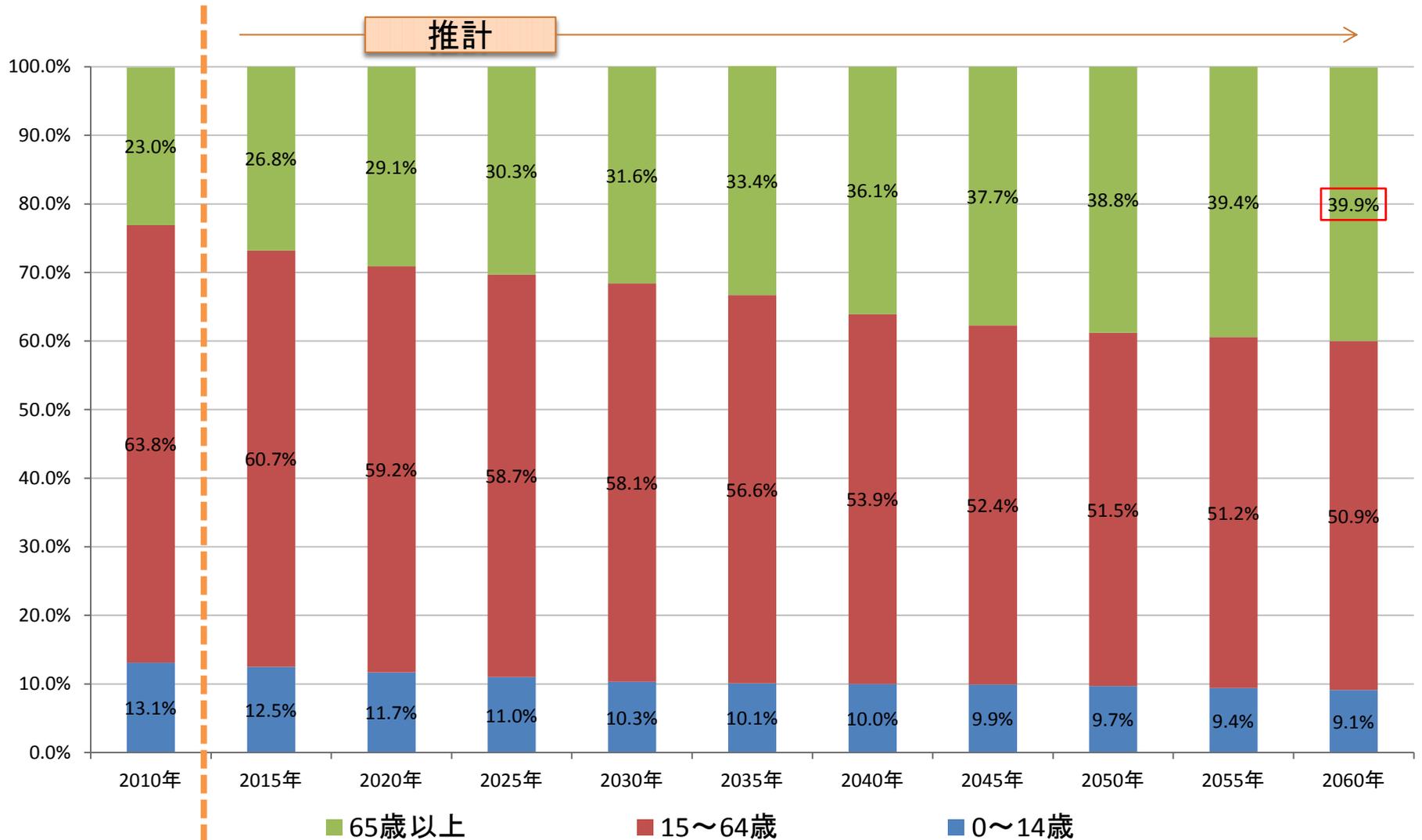
イ). 将来人口の推計と分析

(3) 大和市の推計について

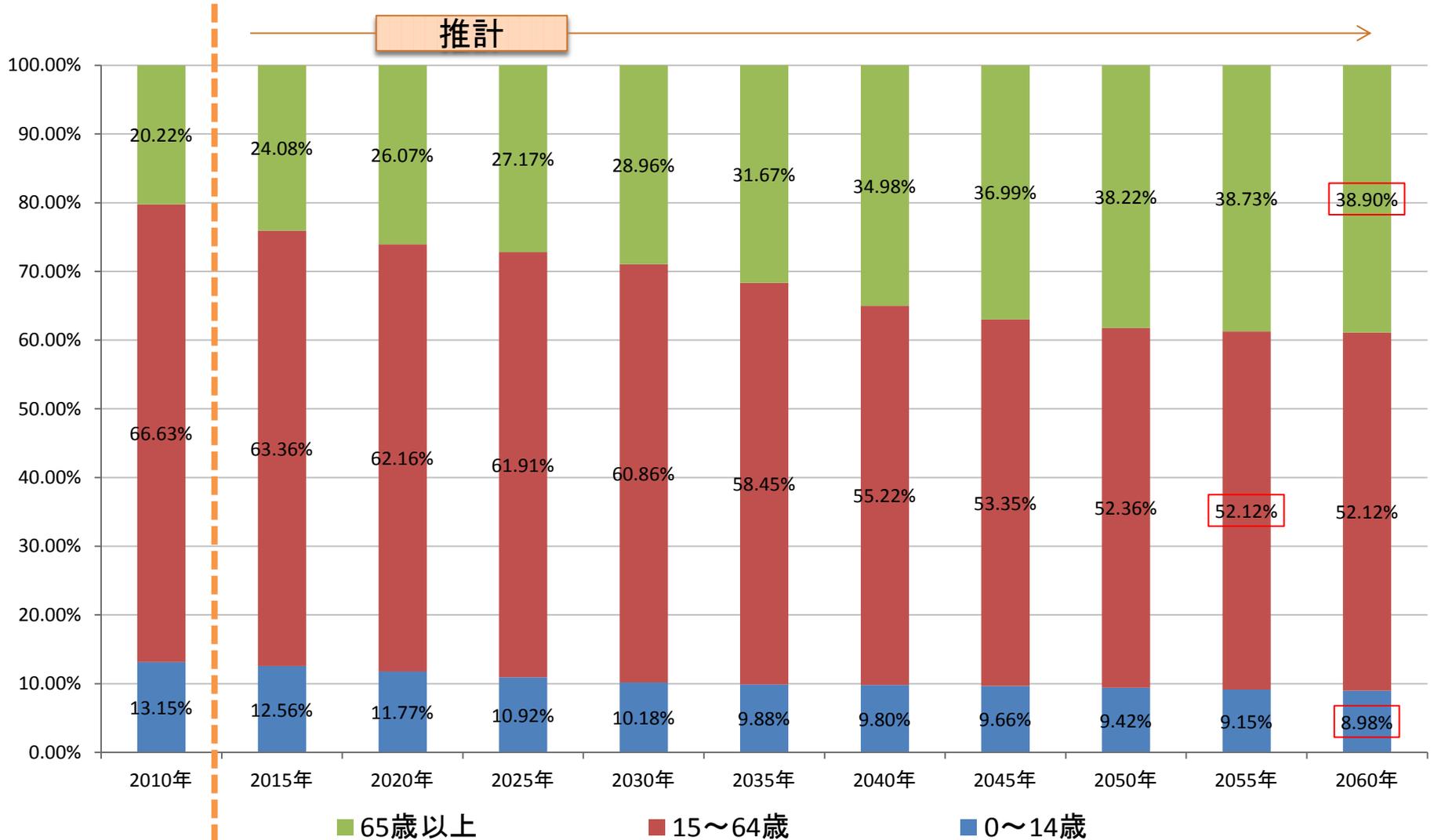
② 年齢3区分別の人口増減の経過と
今後の見通し

～神奈川県・大和市～
(1985年～2010年：実績)
(2015年～2040年：推計)

国の年齢3区分別人口構成の見通し

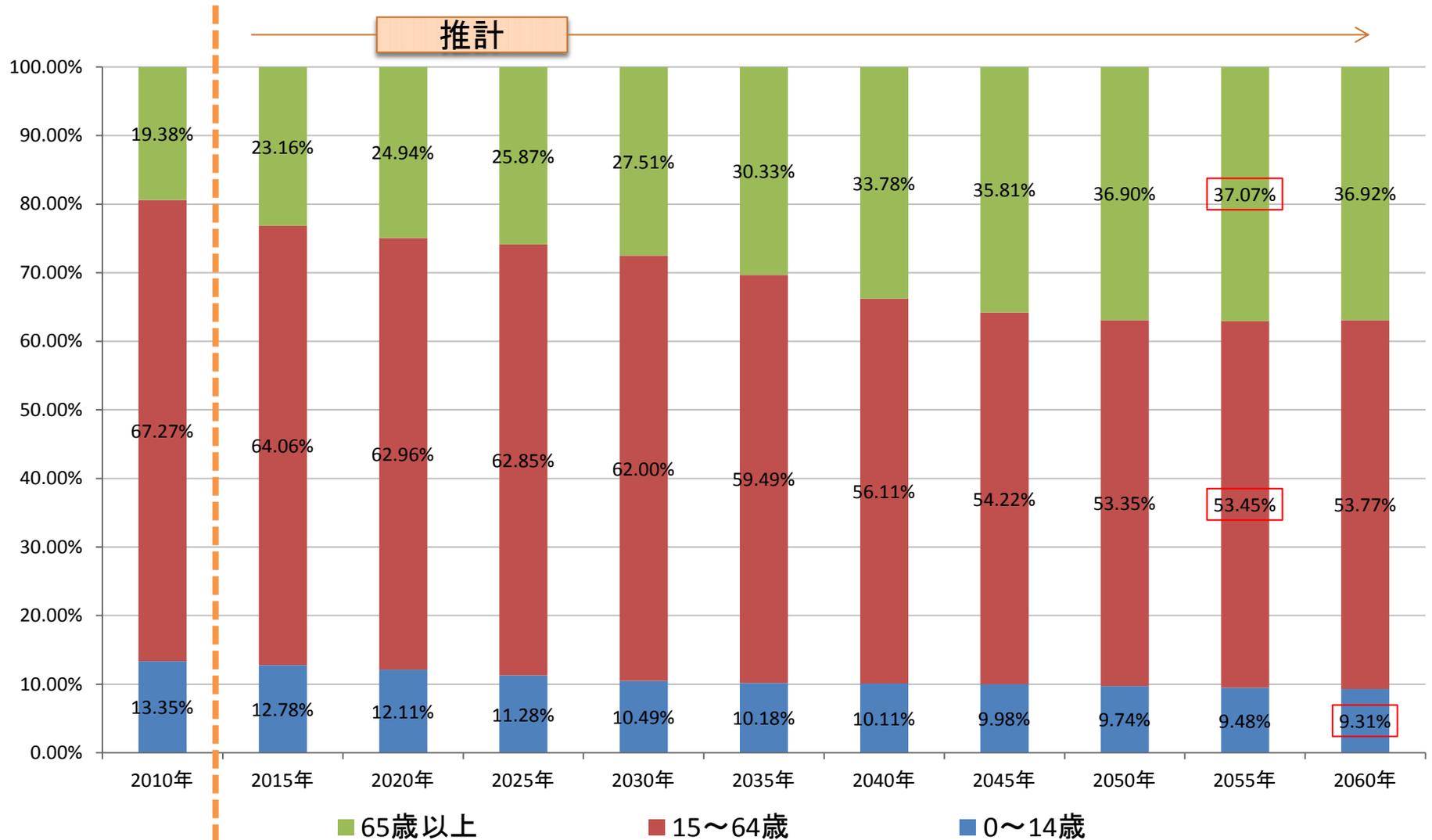


神奈川県の子年齢3区分別人口構成の見通し



(国立社会保障・人口問題研究所 地域別人口推計より)

大和市の年齢3区分別人口構成の見通し



●推計のとおり人口減少が進むと・・・

→2025～2045年の間

1年間で**1,000人**近い人口が減少していく

→2045～2060年の間

1年間で**2,000人**近い人口が減少していく

●人口構成は・・・

→2055年

65歳以上の高齢者人口が37%に達する

→2015～2060年

14歳以下の年少人口割合が低下し続ける

1. 人口の現状分析

ウ). 人口の変化が地域の将来
に与える影響の分析・考察

(1) 生活環境、経済環境等への影響

●推計のとおり人口減少が進むと・・・

→年少人口割合の低下が止まらないことで・・・

- ・人口規模に対し、生まれてくる子どもの数が極めて少ないため、年齢構成の不均衡に歯止めがかからなくなります。
- ・子どもが集うことで生まれる「良い意味での競争心」や、異年齢集団で培われる社会性など、子どもの成長にとって重要な機会が少なくなると考えられます。

→高齢者人口の割合が増加する一方、生産年齢人口の割合が減少することで・・・

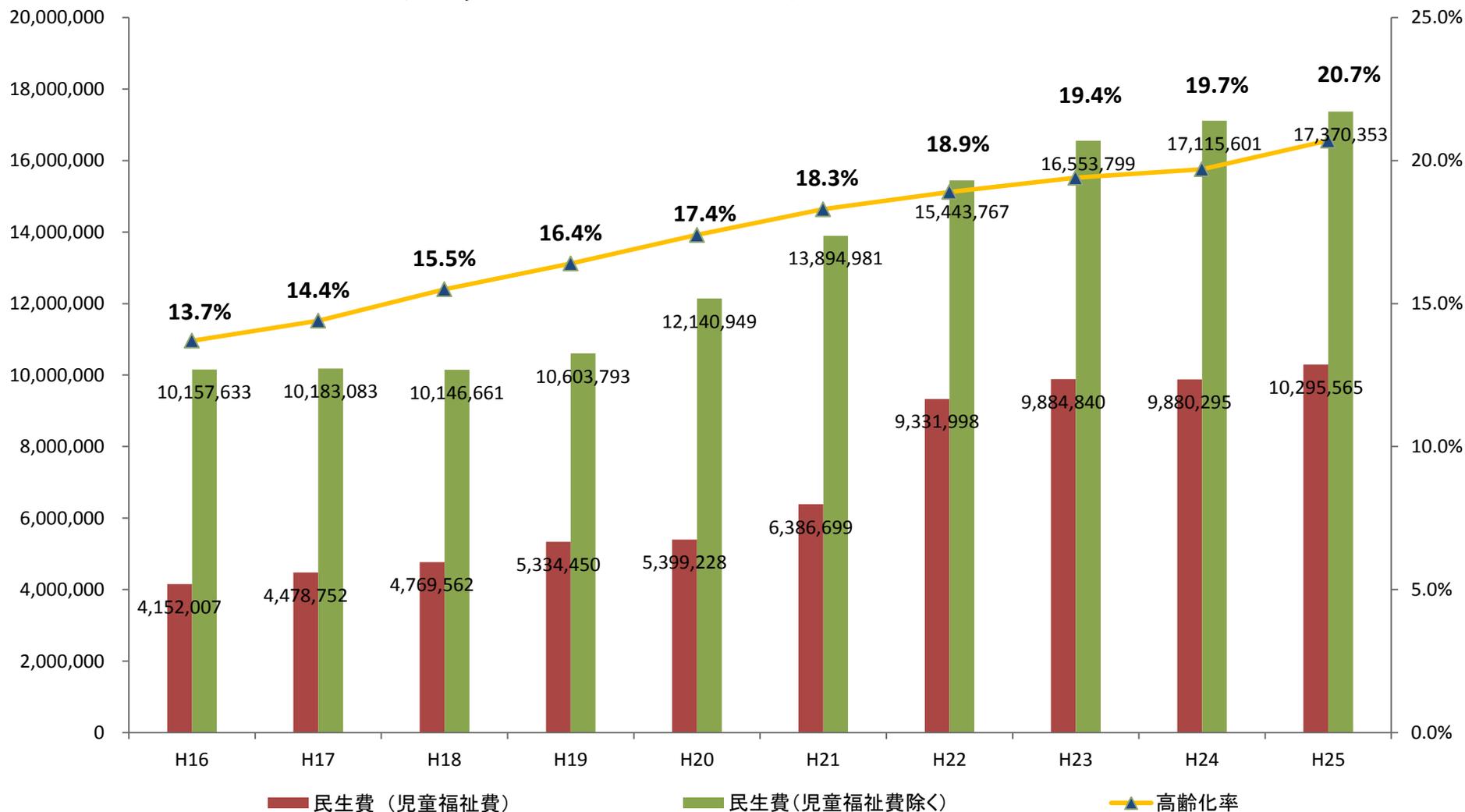
- ・自営業者等の高齢化に伴って、後継者不足や、廃業等につながるものが懸念されるとともに、雇用の担い手を確保していくとも難しくなると考えられます。
- ・自治会をはじめとする地域活動の担い手が不足することで、地域防災力や体感治安の向上を図る取り組みを進めることが難しくなることも想定されます。

1. 人口の現状分析

ウ). 人口の変化が地域の将来
に与える影響の分析・考察

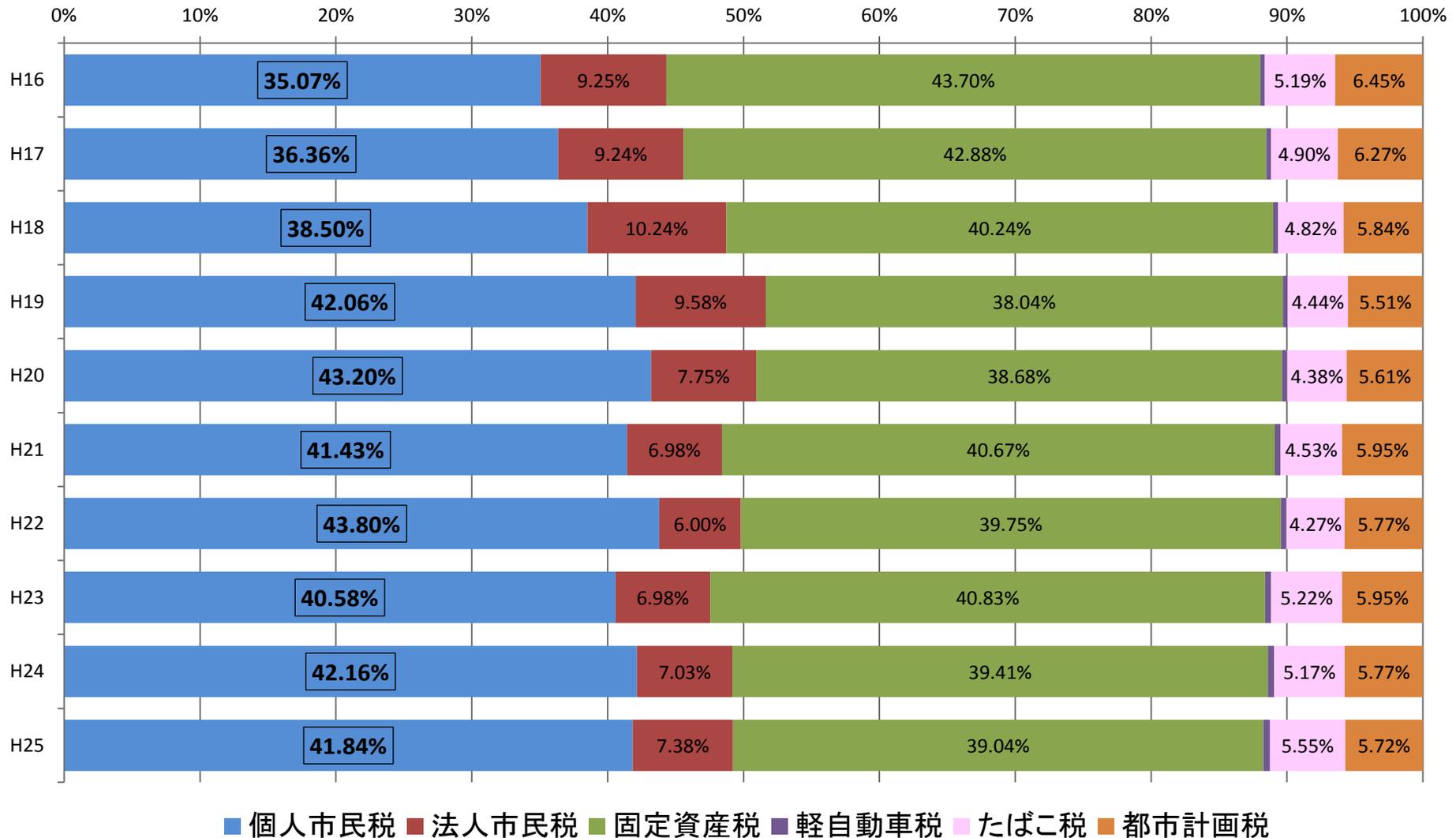
(2) 社会保障等の財政需要、税収等の
増減による地方公共団体の財政状
況への影響

(参考) 高齢化率の推移と大和市の 決算・目的別歳出の状況



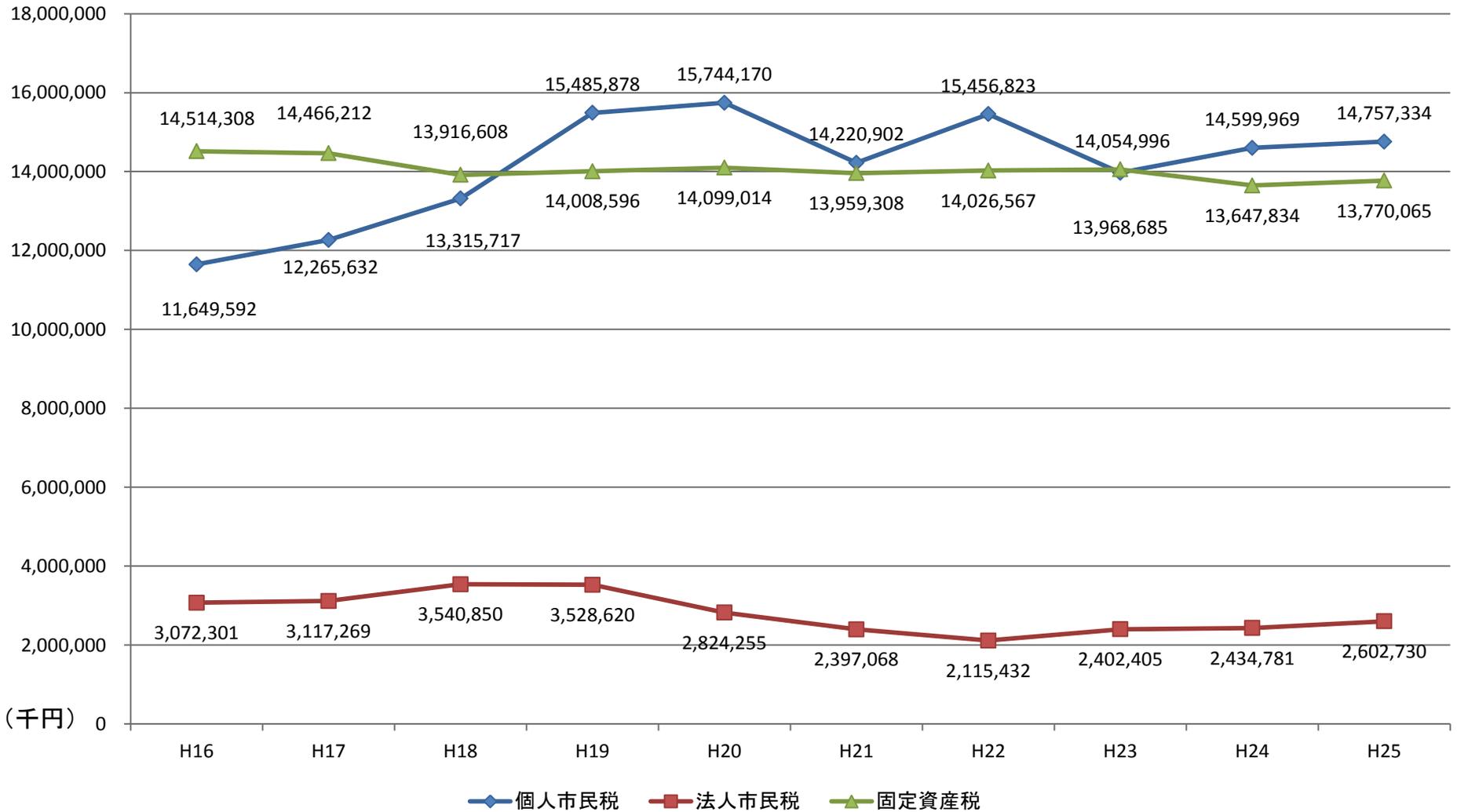
● 少子高齢化に伴い、民生費が増加傾向にある。

(参考)大和市の市税収入の内訳・決算



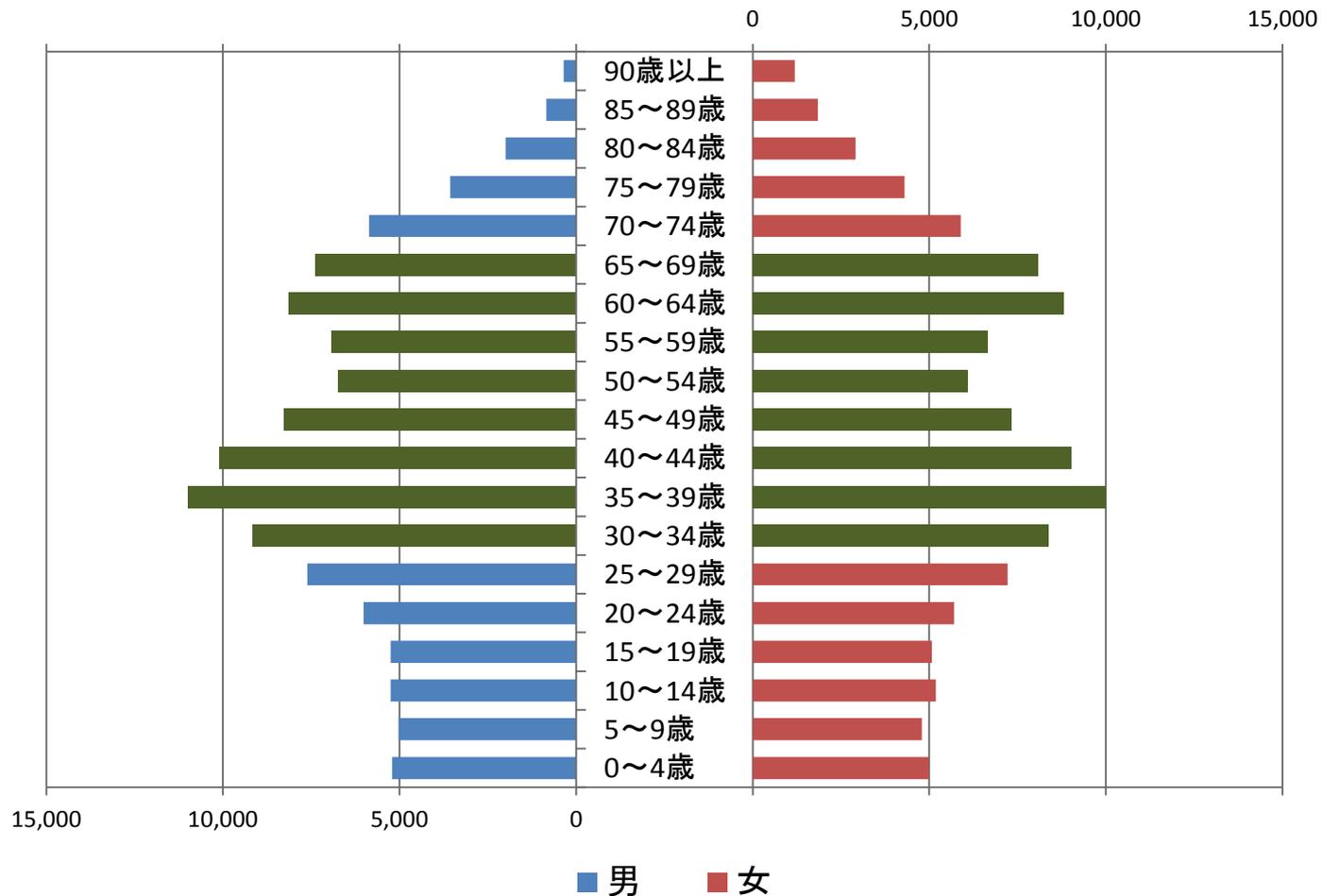
● 自主財源である市税の内訳をみると、**個人市民税の割合が高まっている**

(参考) 主な市税収入の推移



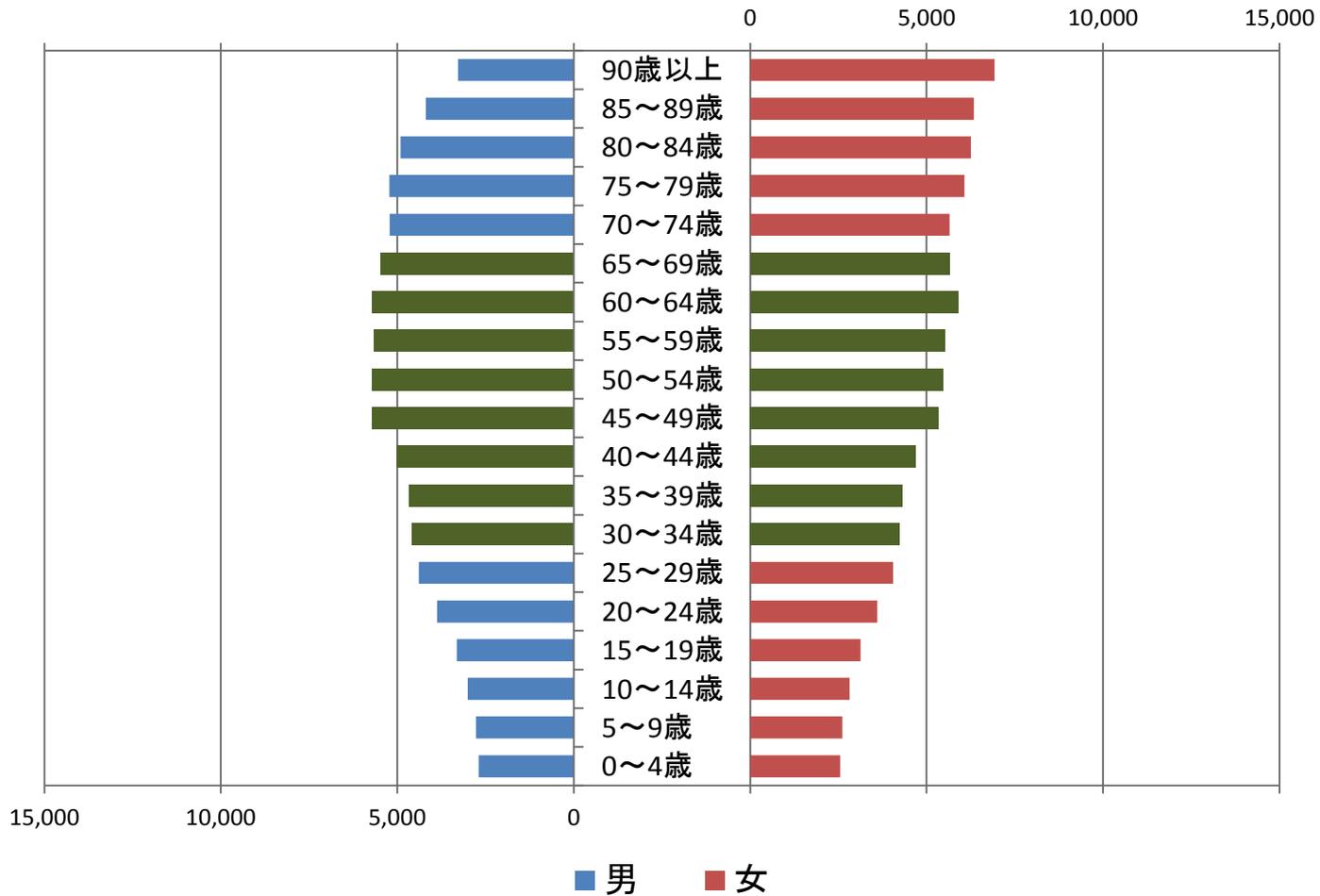
● 自主財源である市税の内訳をみると、**個人市民税の割合が高まっている**

(参考) 現在、個人市民税収の80%以上を
30～60歳代が負担している。



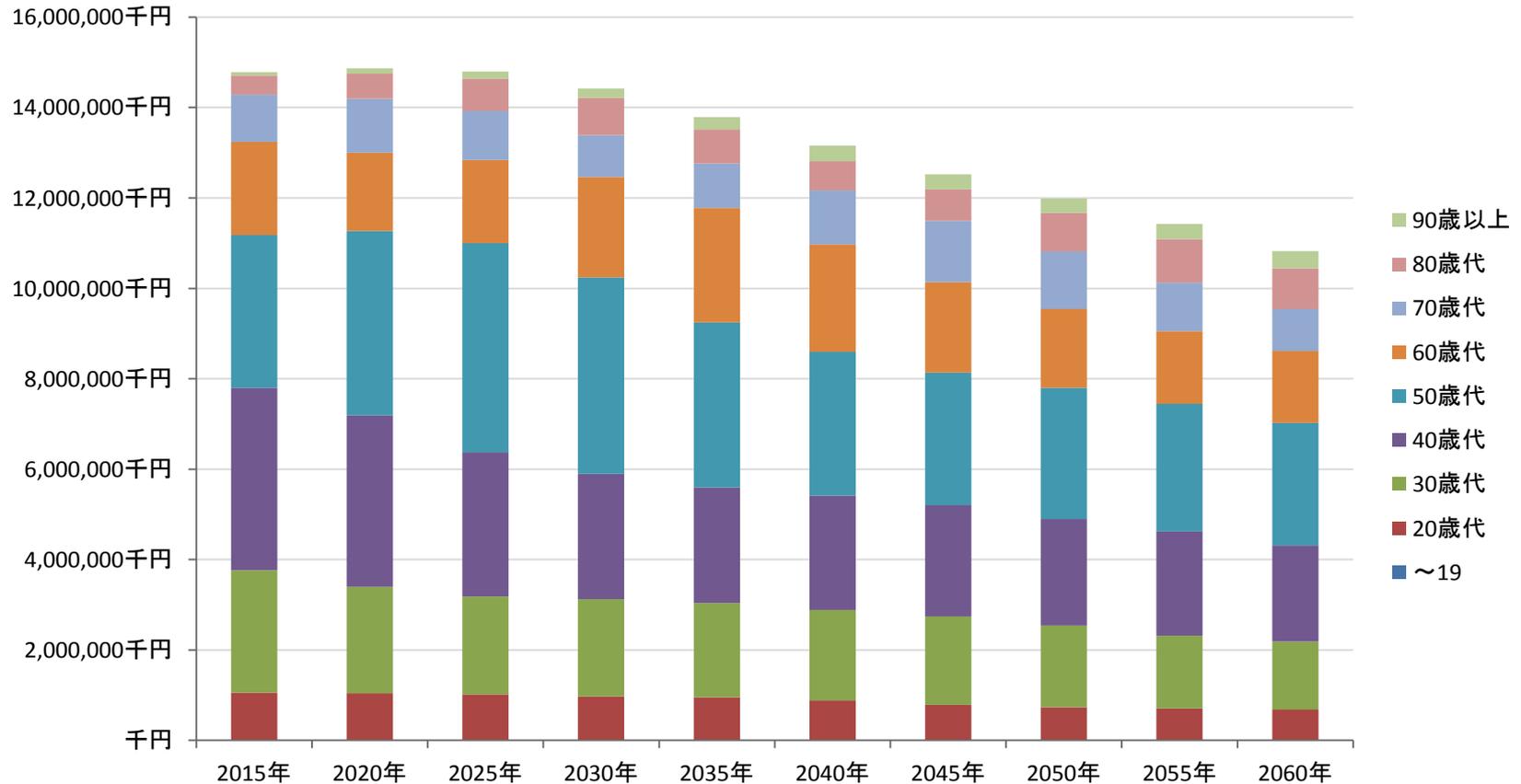
大和市の2010年の人口ピラミッド
(国勢調査人口)

(参考) 2060年には30～60歳代が
約65%に減少する。



大和市の2060年の人口ピラミッド
(社人研推計)

(参考)社人研の推計2015年の各世代別人口を100とした場合の今後の市民税額の見通し



(※物価、賃金等に変動がないことを前提としています。)

●推計のとおり人口減少が進むと・・・

→2025以降

人口減少が影響し、市民税収入も低下していくことが想定されます。

→2060年には

現在、最も多く市民税を納付している**40歳代の人口が約半数**に減少することもあり、全体額が現在の3/4以下に低下します。

→2060年以降

人口減少はさらに進み、**年少人口の割合に回復がみられません。**

⇒自主財源である市税の中核をなす個人市民税収の減少が進むと、財政が硬直化し、市民ニーズへの機動的な対応が難しくなります。

2. 人口の将来展望

ア). 将来展望に向けた調査、 分析結果

(1) 地域の状況調査について

① 市域の概要・交通

●大和市の位置

- ・神奈川県ほぼ中央部に位置し、都心から40km圏内にあります。
- ・市域は南部に細長く、起伏がほとんどありません。



●市勢の概要

- ・面積 : 27.09km²
- ・人口密度 : 8,609人 / km² (H27.8.1現在) 県内19市で2番目

●交通環境の概況

- ・大和市には3つの鉄道が乗り入れ、8つの駅が配置されており、市域の大部分が各駅から概ね15分以内の徒歩圏内に含まれます。
- ・市内はほぼ平坦で、徒歩や自転車による円滑な移動も可能です。
- ・道路網についても、国道246号線、467号線等の幹線が縦横に走り、東名高速横浜町田ICからも近いなど、自動車交通の利便性にも恵まれています。

●鉄道のアクセス

(大和駅から)

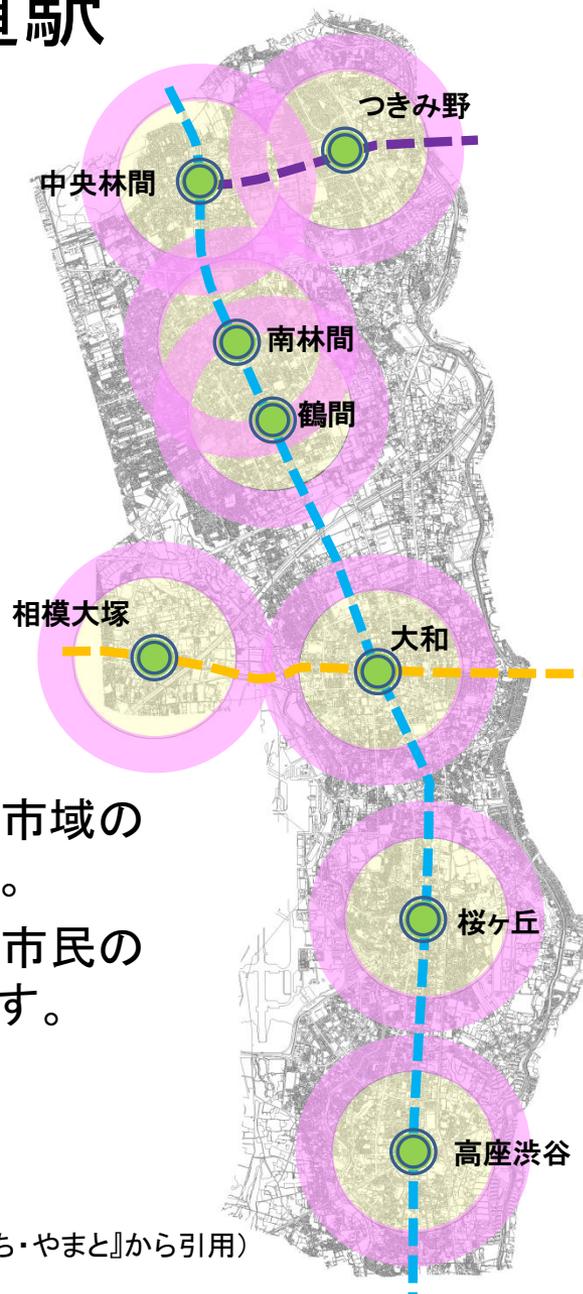
- ・ **小田急江ノ島線** ⇒ 新宿まで43分 (快速急行)
- ・ **相模鉄道本線** ⇒ 横浜まで18分 (特急)

(中央林間駅から)

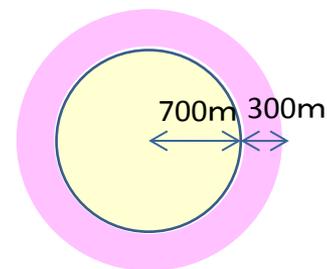
- ・ **東急田園都市線** ⇒ 渋谷まで35分 (急行)

※いずれも、平日10時台の最短乗車時間 (鉄道各社HPから)

●市内の鉄道駅



- 鉄道駅から1km圏内に市域の71%が含まれています。
- 鉄道駅から1km圏内に市民の約80%が居住しています。



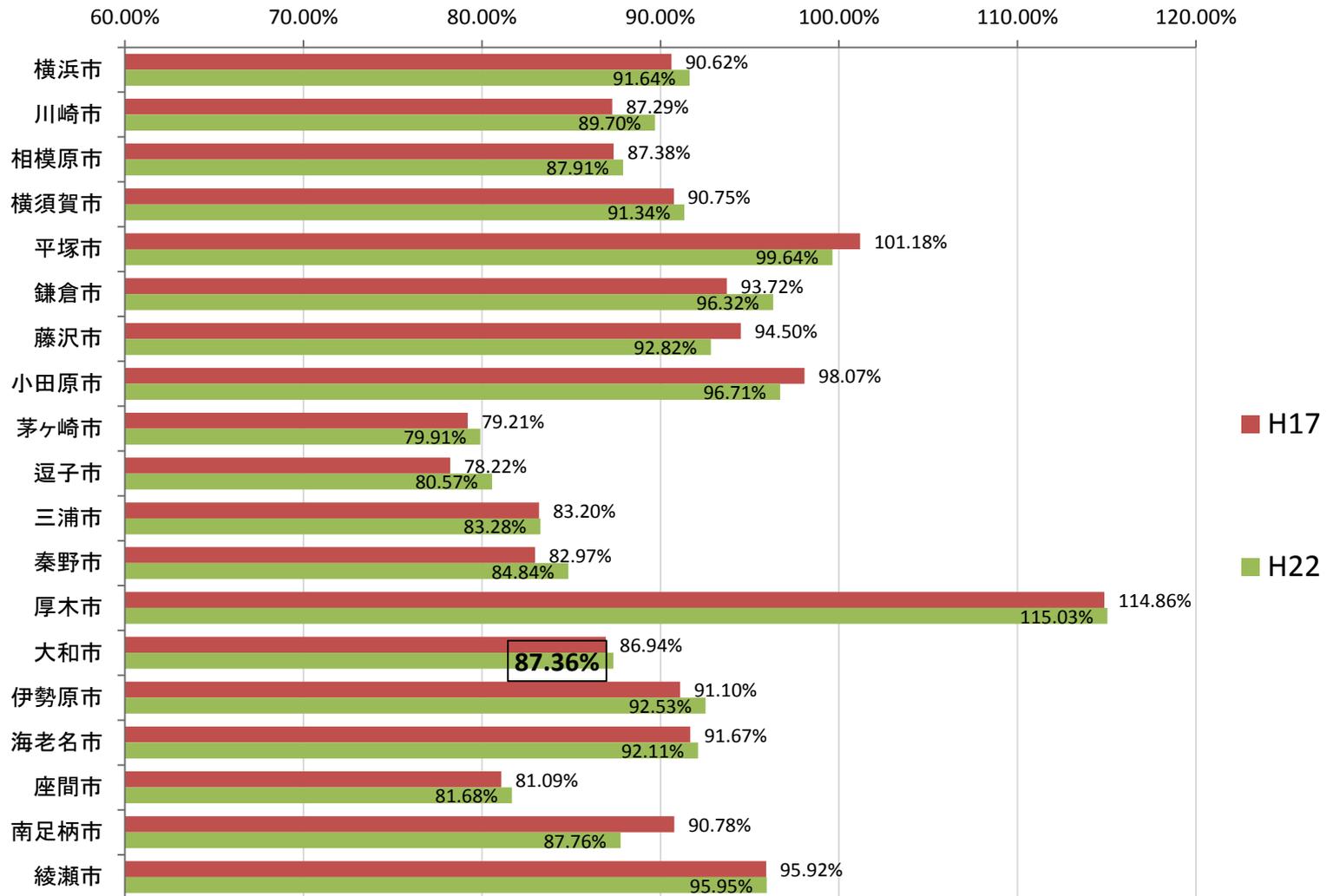
2. 人口の将来展望

ア). 将来展望に向けた調査、 分析結果

(1) 地域の状況調査について

②雇用、通勤・通学の状況

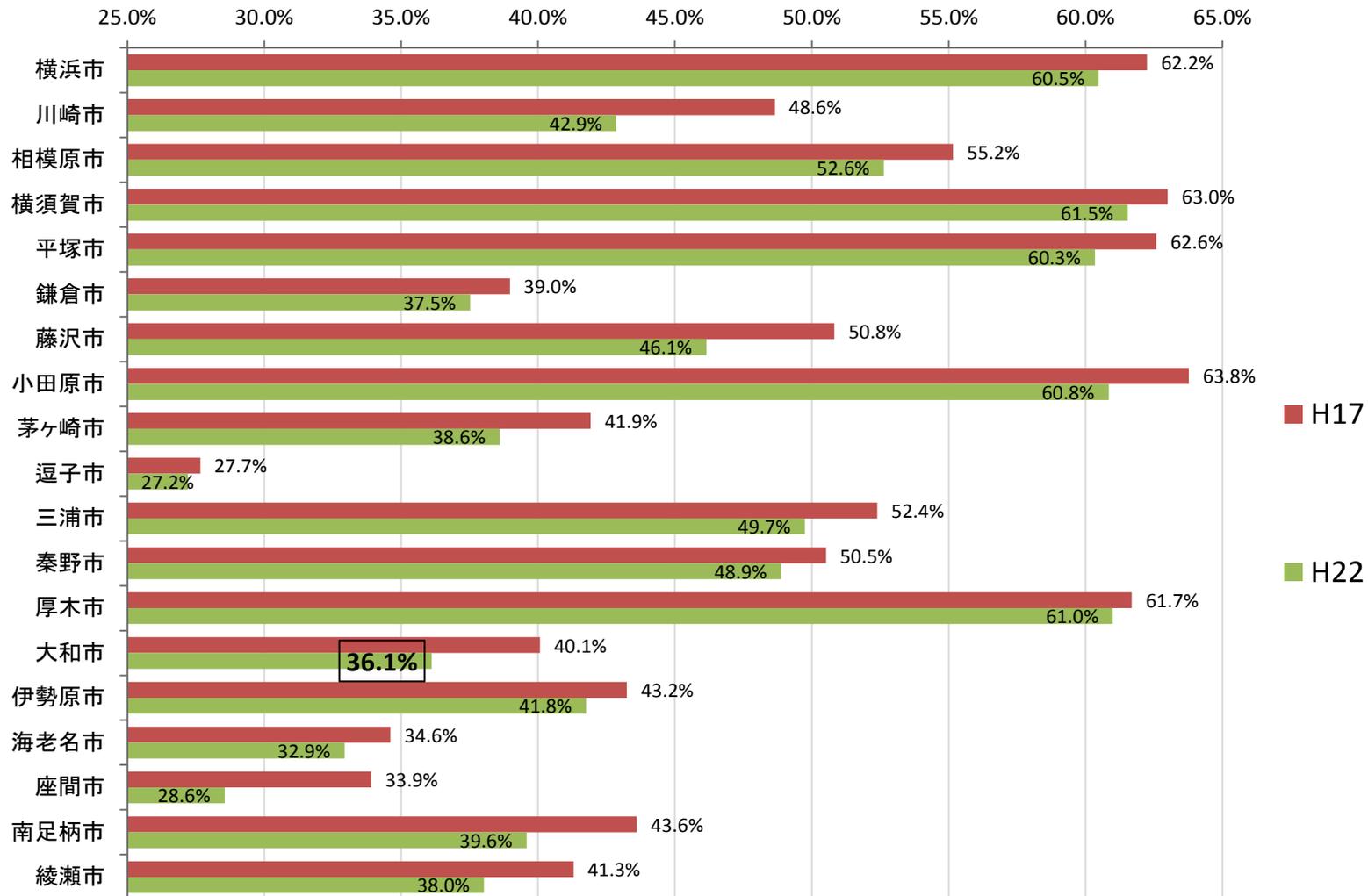
県内19市の昼夜間人口比率の推移



(国勢調査データをもとに作成)

●大和市は、19市の平均90.9%(H22)を下回る87.4%。

県内19市の市内への通勤・通学率の状況

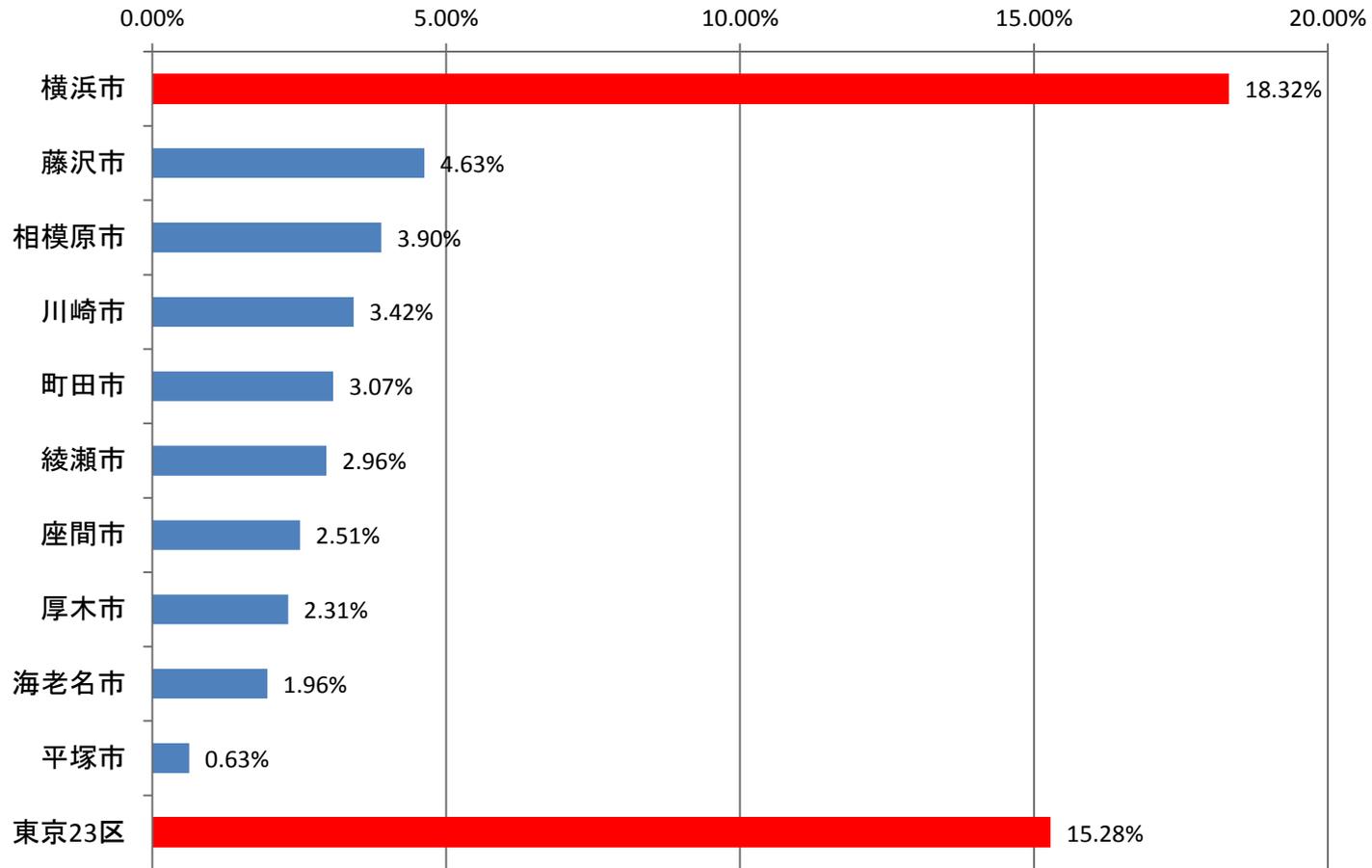


(国勢調査データをもとに作成)

●大和市は、19市の平均45.5%(H22)を下回る36.1%。

●約64%は市外に通勤・通学 ⇒市外に通勤・通学している人の割合が高い

大和市在住者の通勤・通学先の状況 (上位10市と東京23区)



(国勢調査データをもとに作成)

- 上位10市と東京23区で全体の9割以上を占め
- 横浜市と東京23区で全体の5割以上を占める

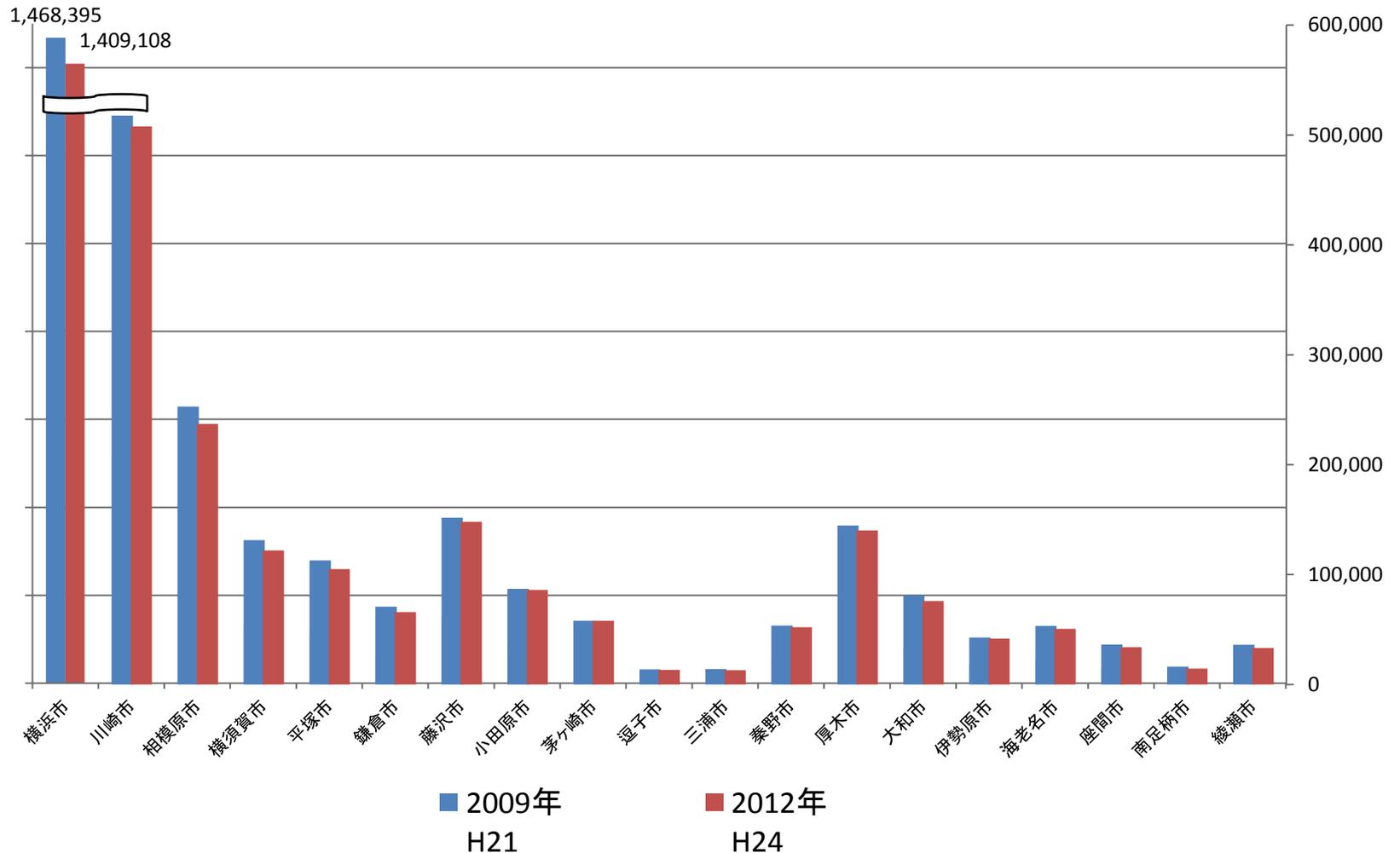
2. 人口の将来展望

ア). 将来展望に向けた調査、 分析結果

(1) 地域の状況調査について

③ 企業活動の状況

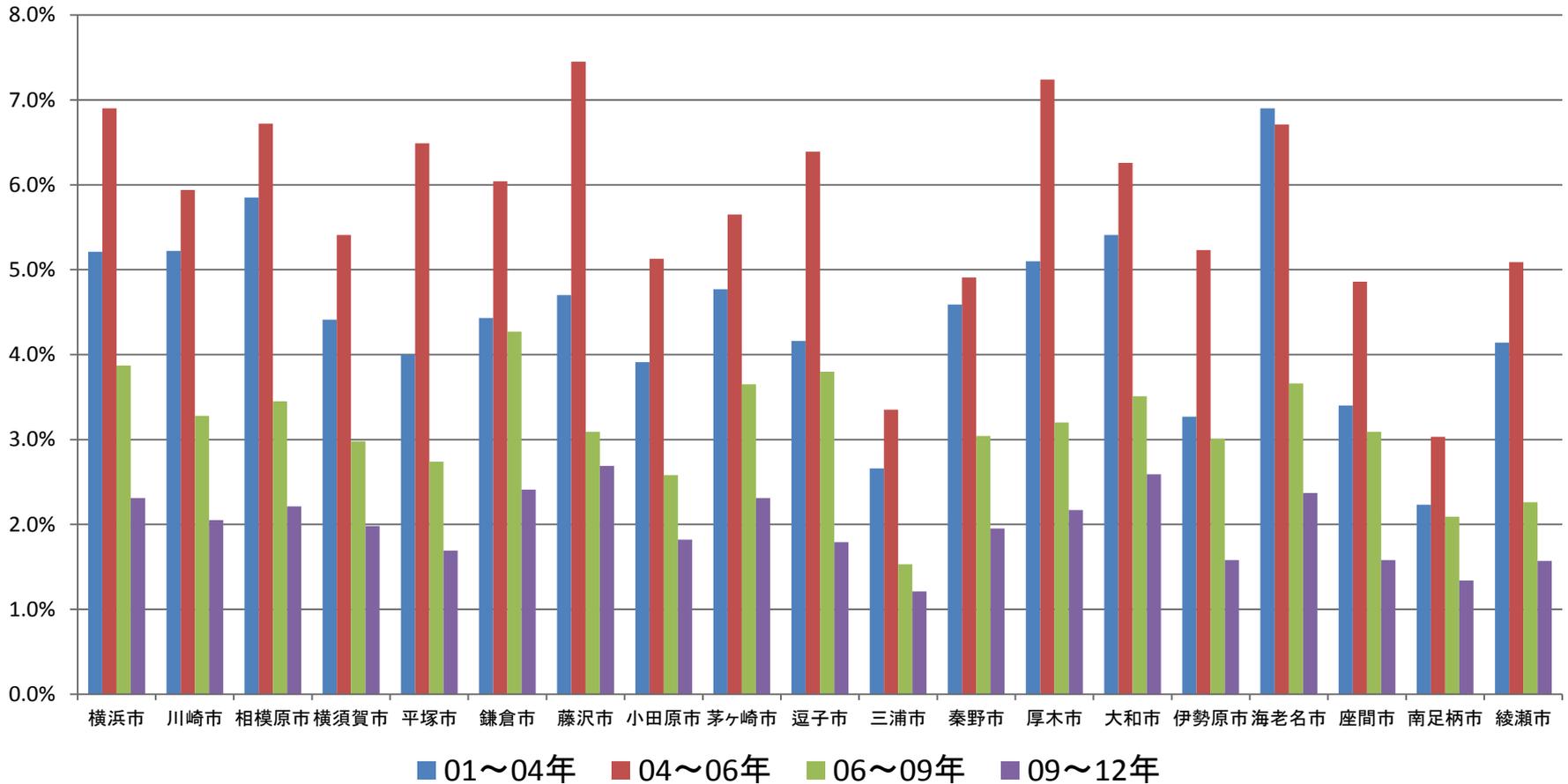
県内19市の事業所における従業者数の状況



(総務省「平成21年経済センサスー基礎調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」もとに作成)

●茅ヶ崎市を除く18市で減少している

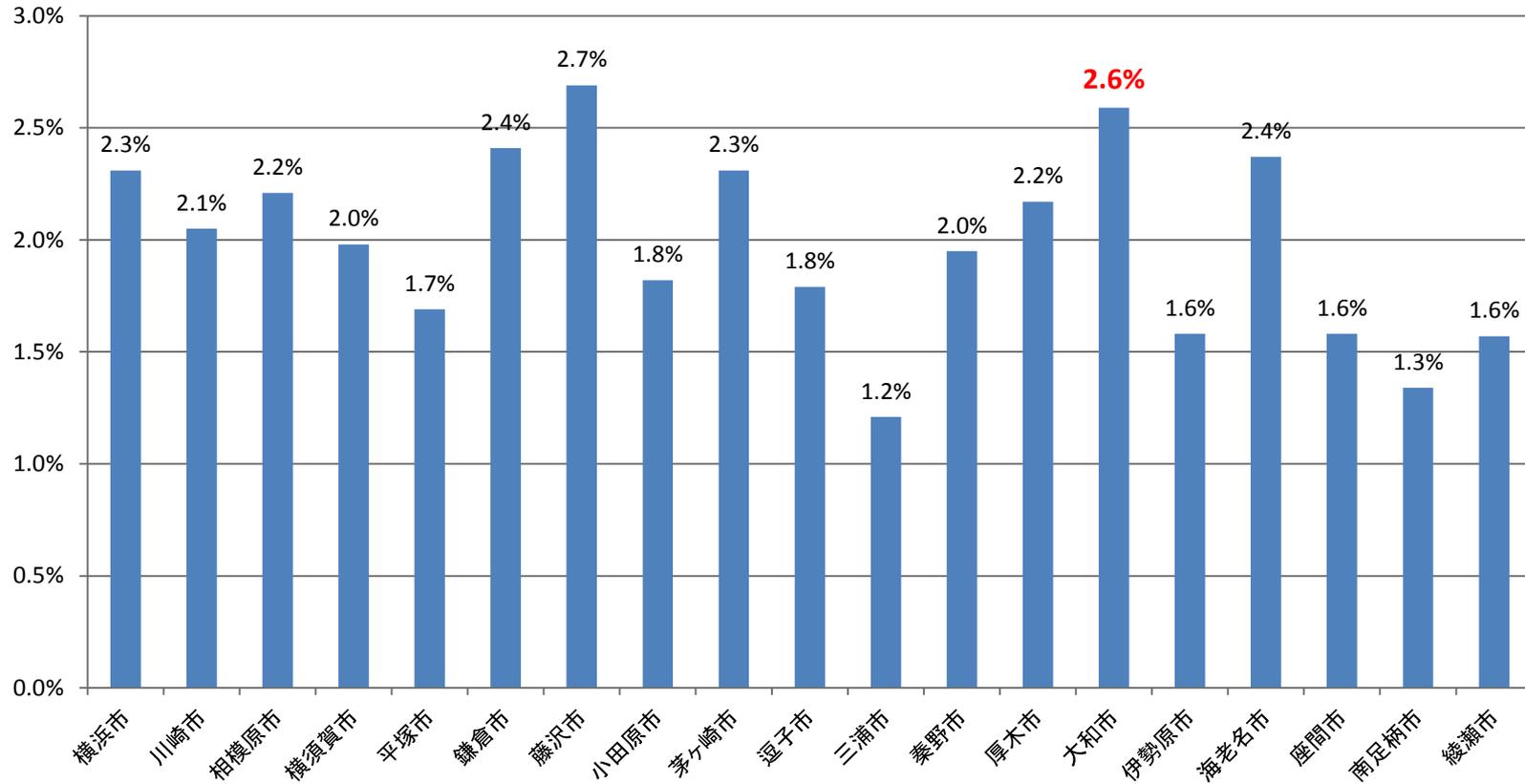
県内19市の創業比率の推移



(総務省「平成13年事業所・企業統計調査」、総務省「平成16年事業所・企業統計調査」、総務省「平成18年事業所・企業統計調査」、総務省「平成21年経済センサス基礎調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサス活動調査」もとに作成)

● 2004～2006年期をピークとして、低下傾向にある

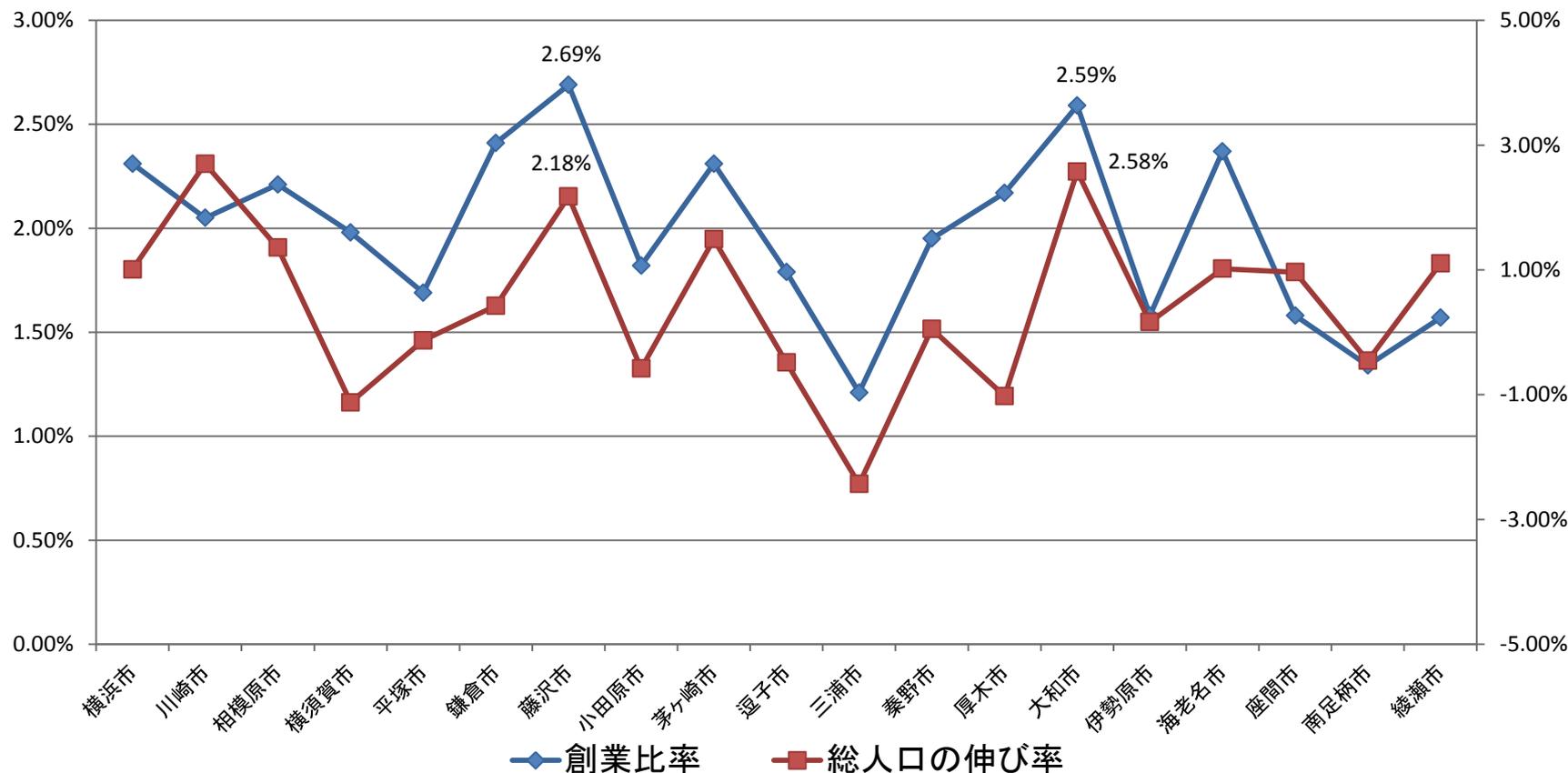
県内19市の直近の創業比率(2009~2012年)



(総務省「平成13年事業所・企業統計調査」、総務省「平成16年事業所・企業統計調査」、総務省「平成18年事業所・企業統計調査」、総務省「平成21年経済センサスー基礎調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」もとに作成)

● 県内19市との比較では、高い水準にある

県内19市の創業比率と総人口の伸び率 (2009～2012年)

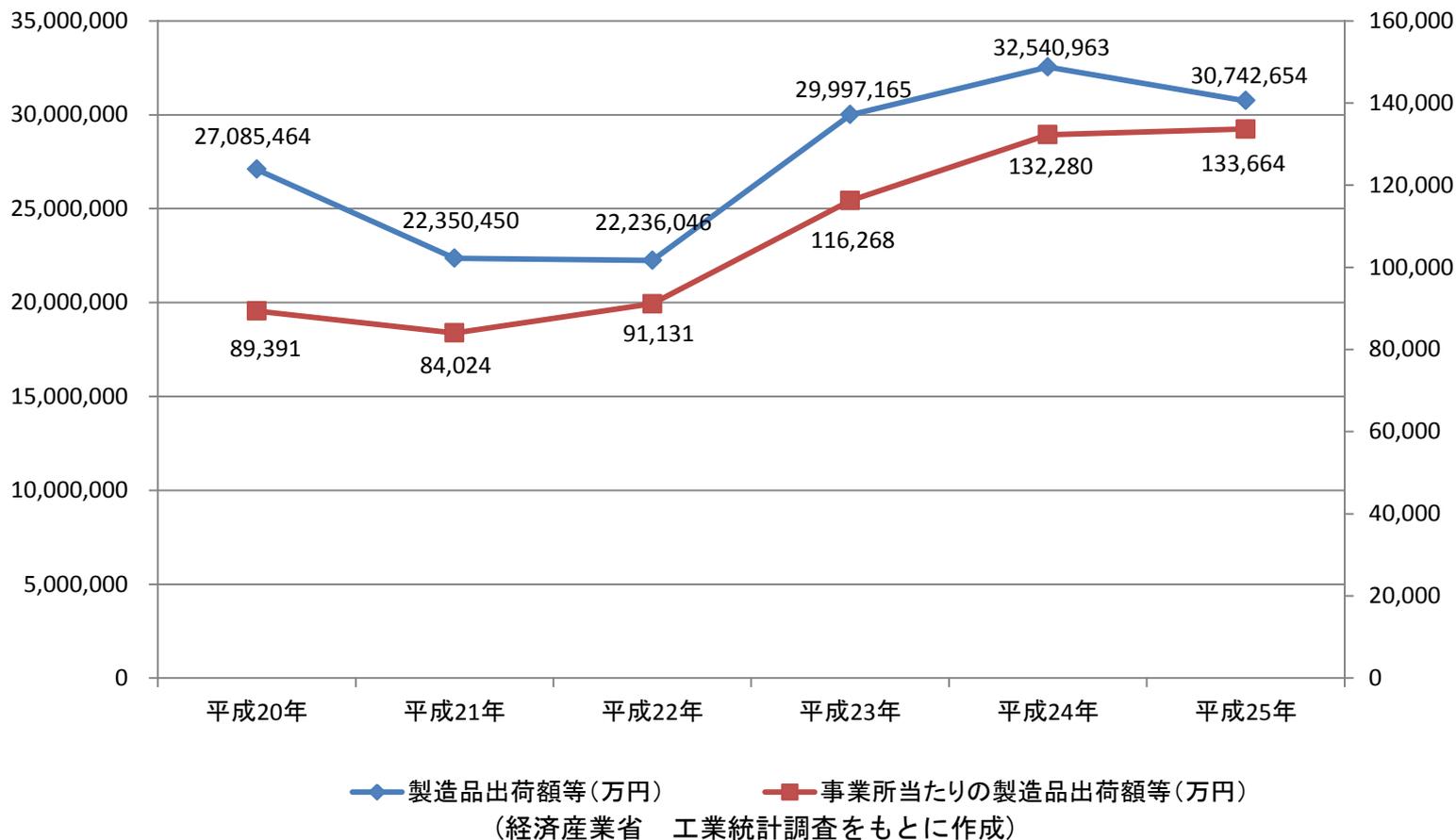


(総務省「平成13年事業所・企業統計調査」、総務省「平成16年事業所・企業統計調査」、総務省「平成18年事業所・企業統計調査」、総務省「平成21年経済センサス基礎調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサス活動調査」、神奈川県「人口と世帯」をもとに作成)

● 創業比率の高低と人口の増減には相関がある

⇒ 人口の増加や減少が抑制されることで、経済活動の活発化につながる。

(参考)大和市の製造品出荷額等の推移 (2008～2013年)



● 1事業所あたりの出荷額は増加傾向にある

(参考)大和市の産業別従事者割合の状況 (2000～2010年)

集計年	総数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
		農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・ 熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業、 飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	公務(他に 分類されないもの)	分類不能の 産業
2000(H12)	106,353	487	16	5	14	10,454	21,202	388	6,865	24,924	2,960	2,106	31,217	3,039	2,676
	100.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.8%	19.9%	0.4%	6.5%	23.4%	2.8%	2.0%	29.4%	2.9%	2.5%
2010(H22)	102,629	445	7	1	7	8,172	15,713	341	11,470	17,760	2,575	2,974	34,411	3,059	5,694
	100.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	15.3%	0.3%	11.2%	17.3%	2.5%	2.9%	33.5%	3.0%	5.5%

(国勢調査もとに作成)

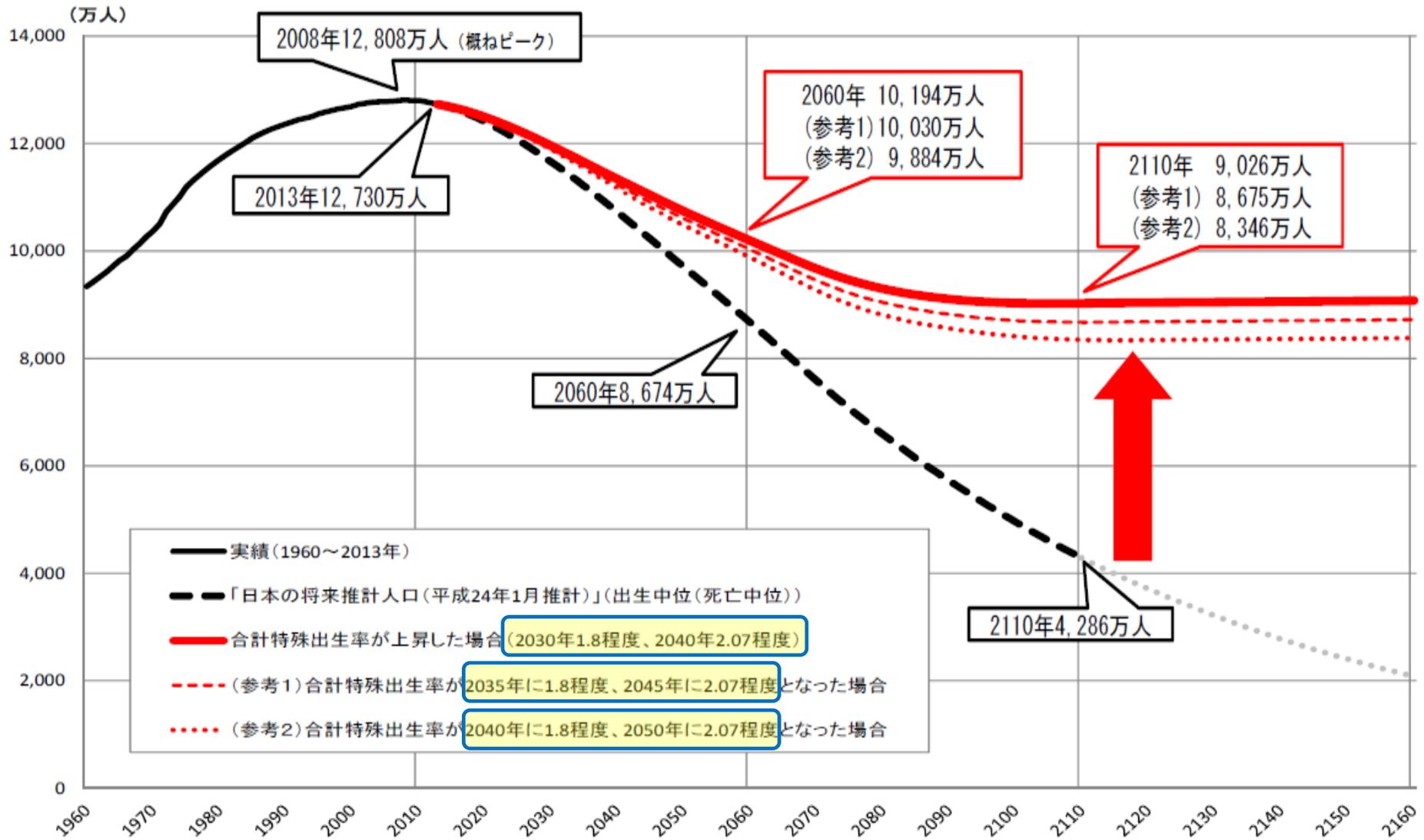
- 製造業の減少に対し、サービス業の上昇がみられる。

2. 人口の将来展望

イ). 目指すべき将来の方向

(1) **国**の長期ビジョンについて

国の長期ビジョン(人口ビジョン)



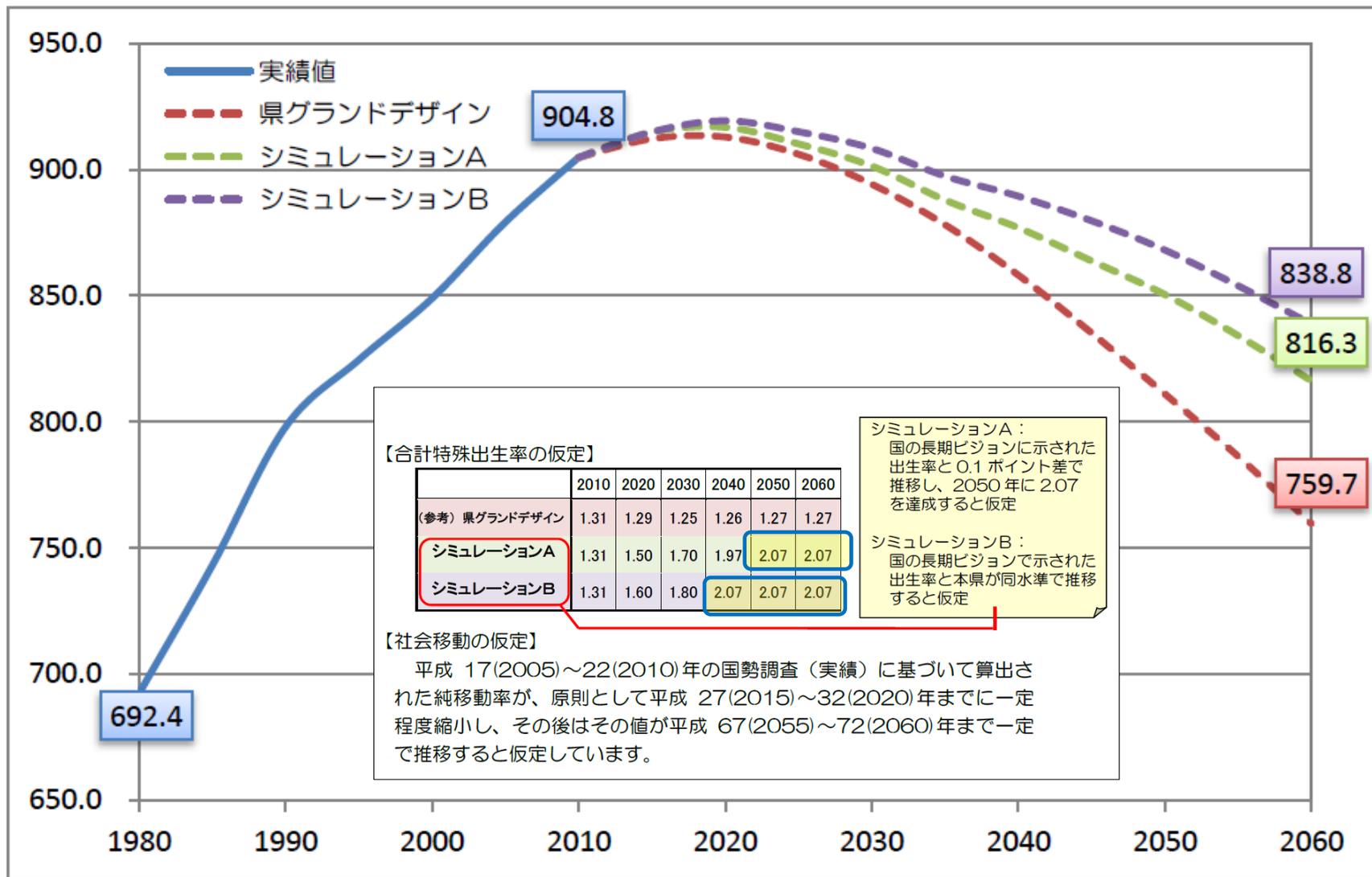
国長期ビジョンから引用

2. 人口の将来展望

イ). 目指すべき将来の方向

(2) **神奈川県**の人口ビジョンについて

神奈川県人口ビジョン検討資料



第2回神奈川県地方創生推進会議資料(資料2 神奈川県人口ビジョン検討資料)を引用して作成

2. 人口の将来展望

イ). 目指すべき将来の方向

(3) 大和市の方向性

我が国が人口の減少期に突入している中、大和市の人口は現在も増加を続けているものの、将来的な人口の減少は避けられないものと考えられます。

本市の人口が、国立社会保障・人口問題研究所の2060年までの推計のとおり減少すると、子育て・子育て環境、経済や雇用環境に様々な影響を与えられと考えられます。また、急速な少子高齢化によって、社会保障関係経費の増大と個人市民税収入の減少が同時に進行し、厳しい行財政運営を迫られることも見込まれます。

一方、人口の減少期であっても、大和市の人口が平均を上回る水準で推移していくことができれば、民間事業者等による投資や経済活動が今後の市場規模、サービスや商品への需要予測を踏まえて行われていることを踏まえると、→経済活動の活発化、→雇用の創出、→子育て世代の経済的基盤の確立、→結婚・出産の増加、と好循環を生むことにつながられる可能性も秘めていると考えられます。

人口減少対策は、本市の強みや課題を整理した上で、自然増と社会増それぞれの特性を踏まえながら、実状に即した対応を進めていく必要があります。

ただし、人口減少問題への根本的な対応としては、自然増を促すことが不可欠であるため、健康寿命の延伸に向けた施策の推進や、安心して子どもを産み育てることができる環境の一層の充実を図るなど「人の健康」に関わる取り組みを中心的に進めていくことが望ましいと考えます。

このように、自然増を促す施策の推進によって、まちの魅力を高めながら、市外からの移住を呼び込むなど、複次的に社会増も図っていきます。

大和市は交通の利便性が高い割に住宅価格が手頃であることもあり、都心や横浜のベッドタウンという性質を持っています。

子育て世帯が住みやすい環境が揃っているという強みを活かし、魅力あるまちづくりを進めることで、結婚、出産へとつなげます。まちの魅力を高めることで、流出傾向にある30歳代を食い止めながら、同年代を市外からも呼び込み、いつの時代も子育て世代が住まうサイクルを創出することで、適正と考えられる人口規模・人口構成を目指していきます。

■方向性の一例

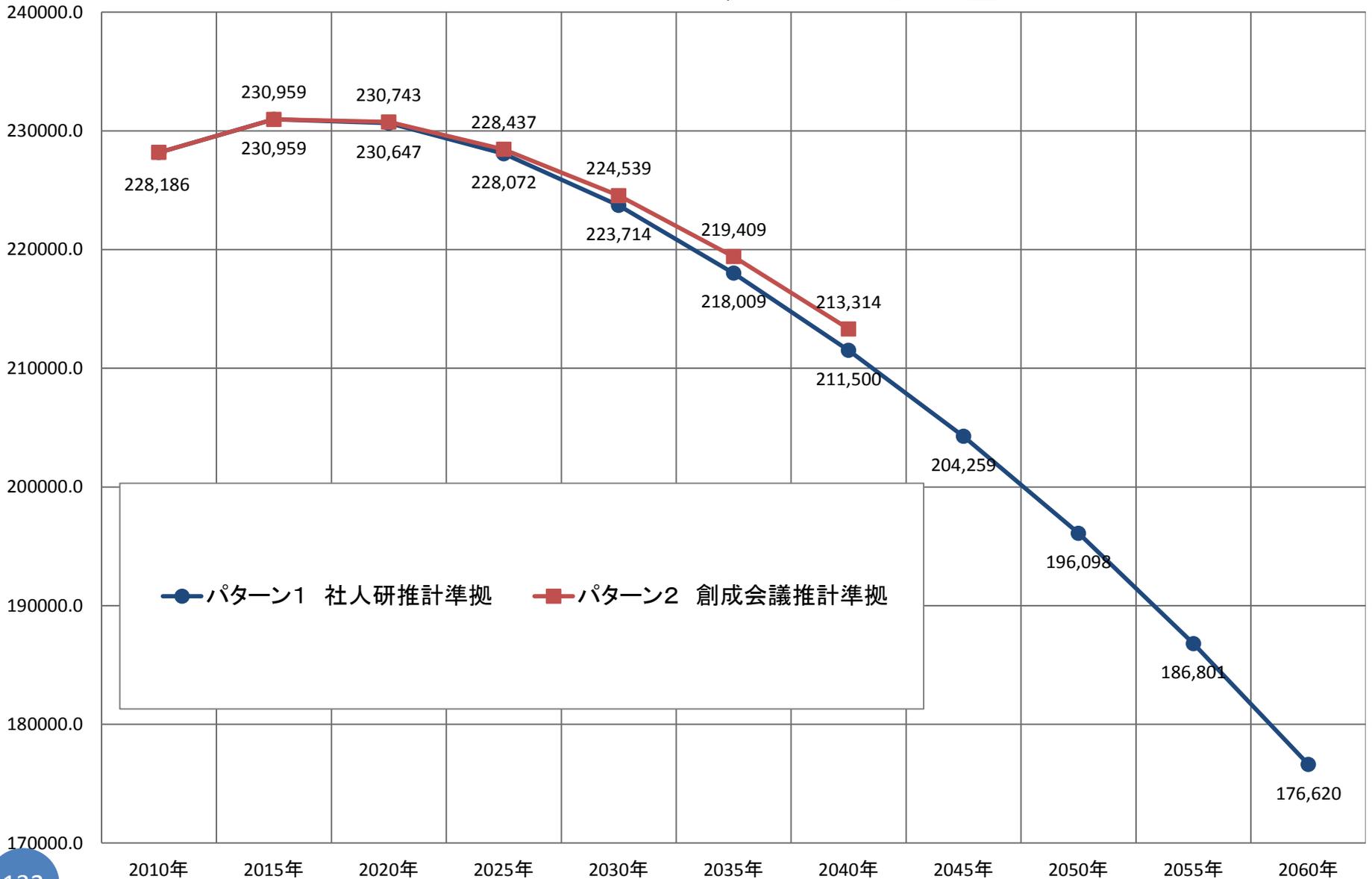
- ☞ 2060年まで、総人口20万人台を維持していく。
- ☞ 年少人口割合が早期に増加へと転じる人口構成を目指していく。

2. 人口の将来展望

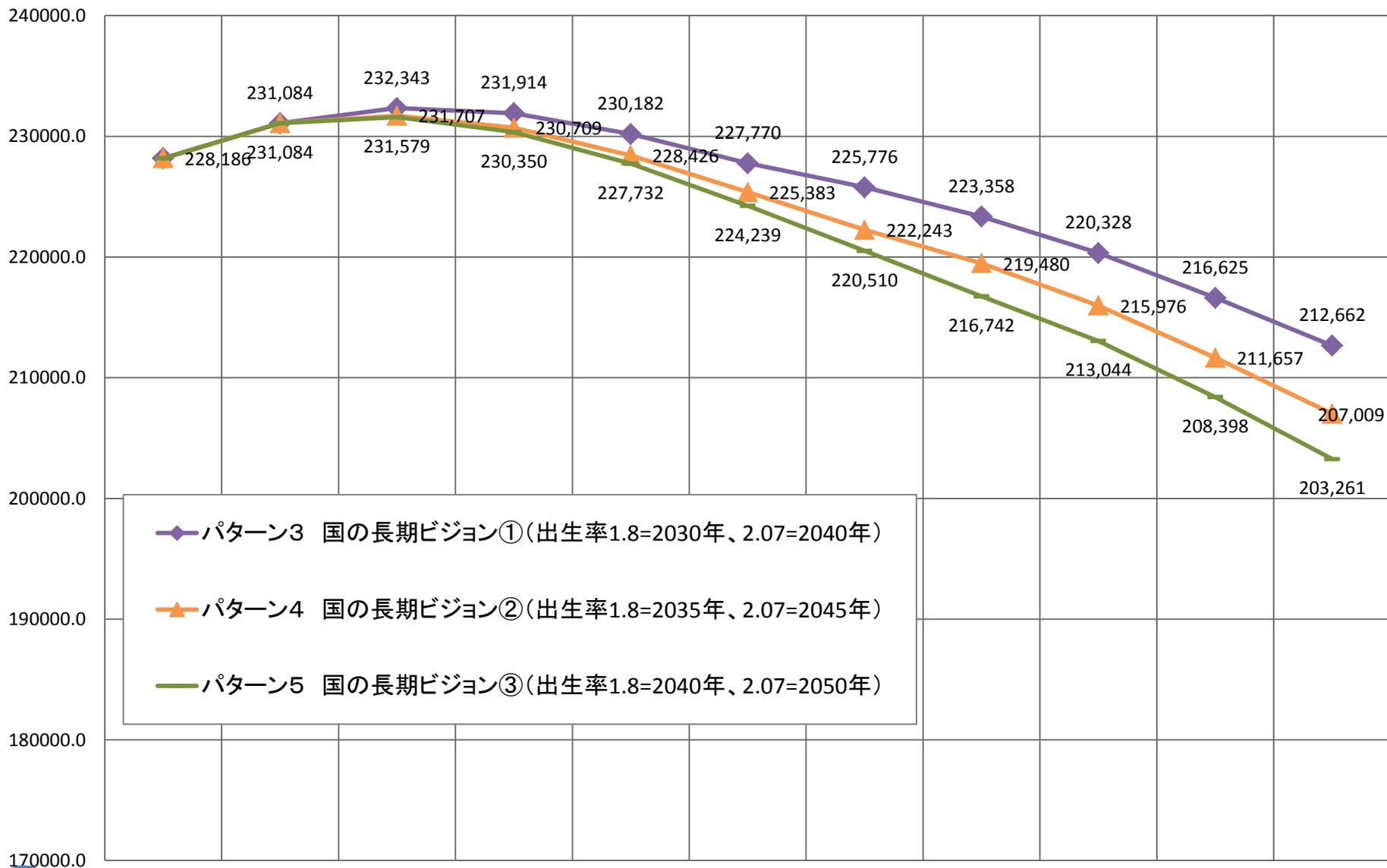
ウ). 将来の方向性を踏まえた 人口の見通し

(1) 国の長期ビジョンとの整合を図った
場合

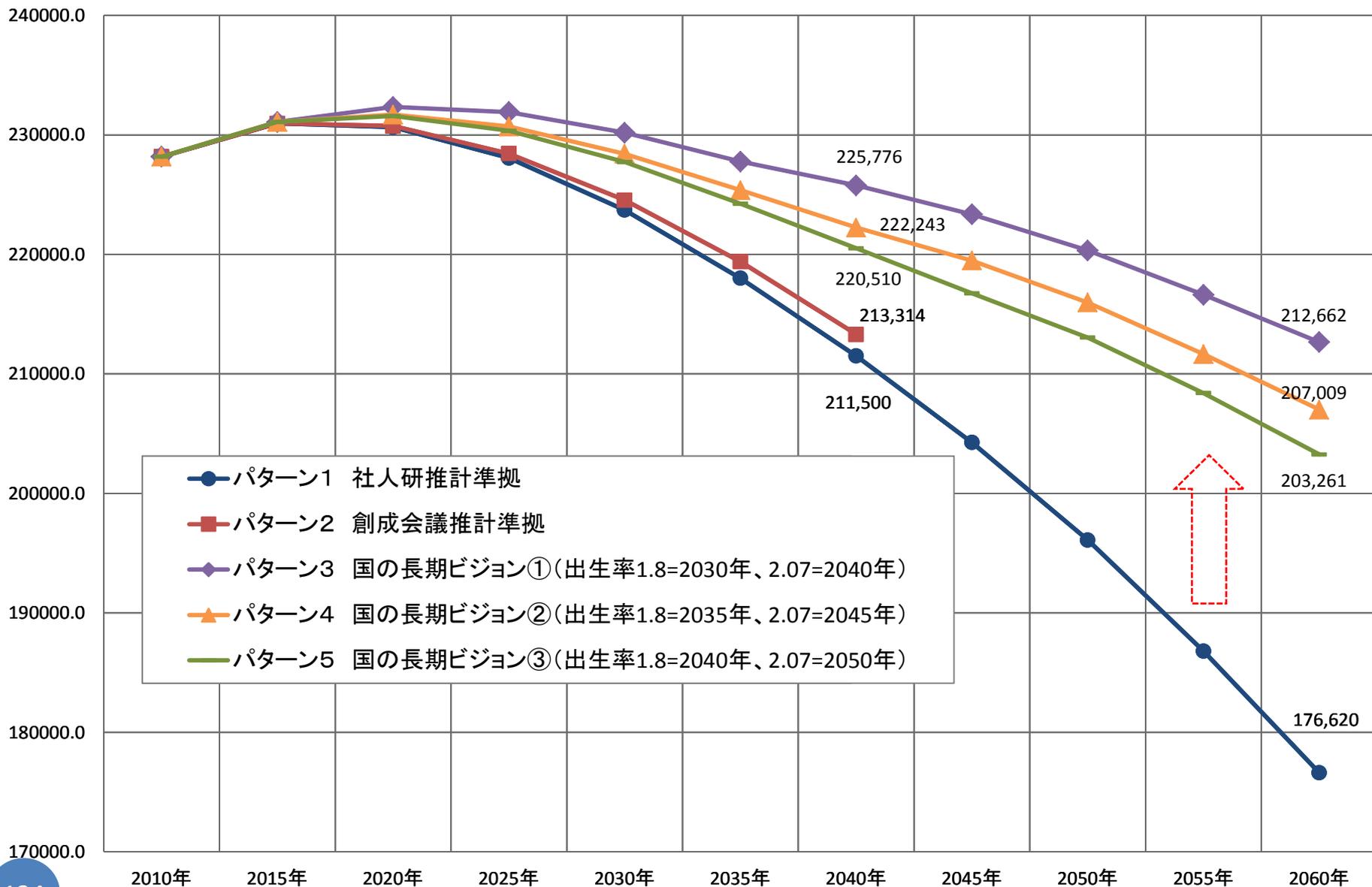
大和市の人口の長期的見通し



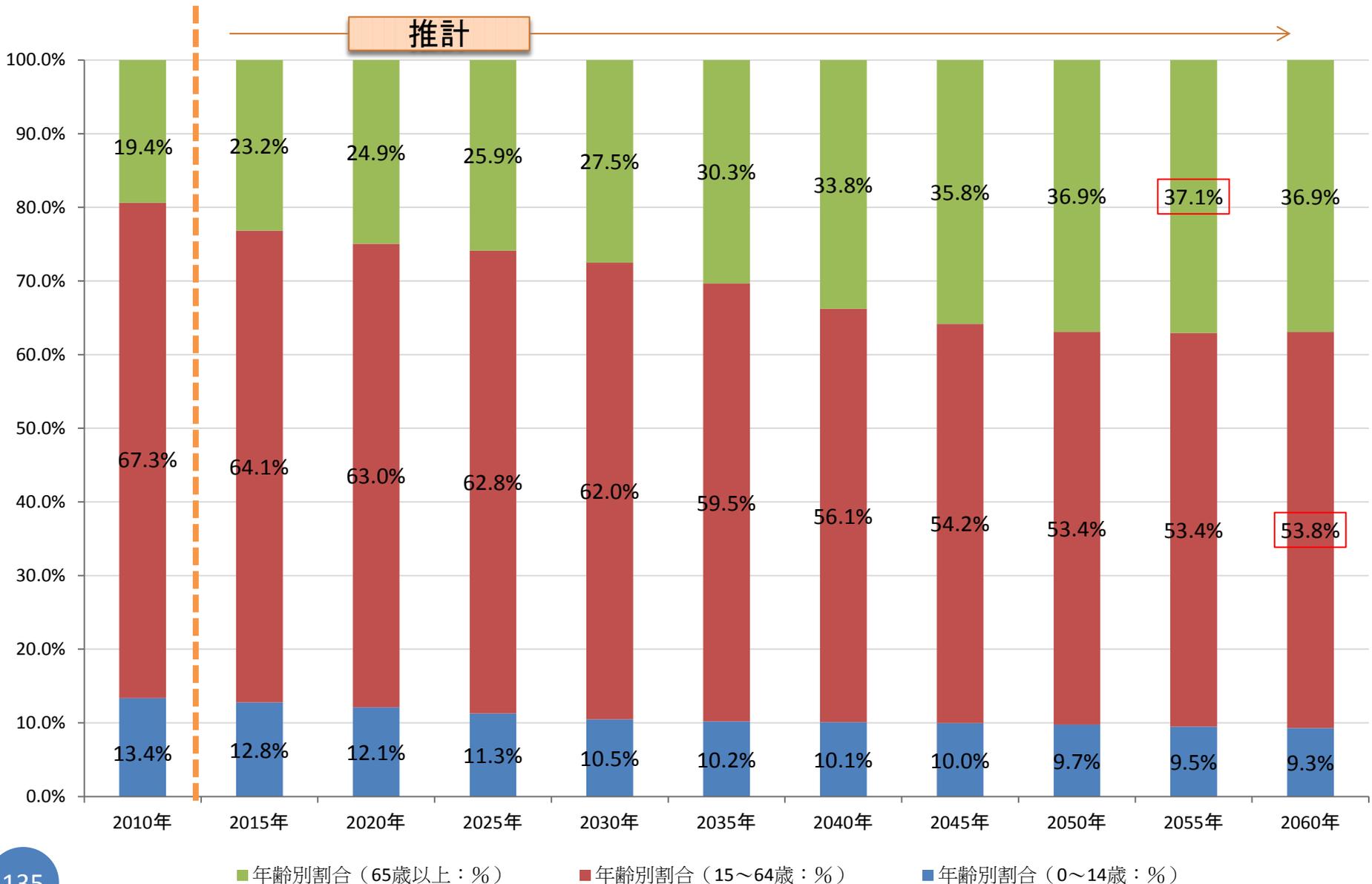
(参考)大和市の推計を国の人口ビジョンの出生率に置き換えた場合



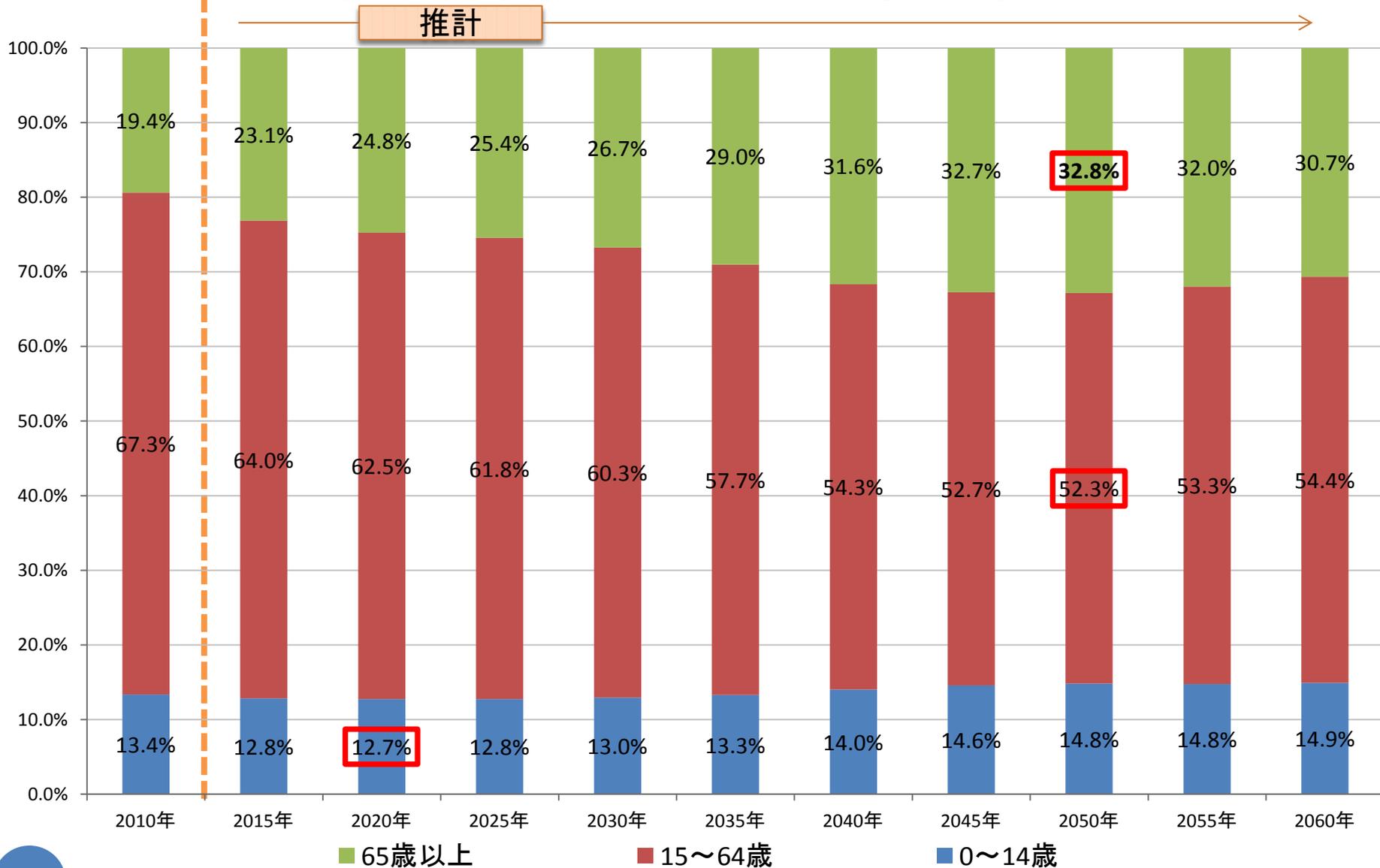
(参考)大和市の推計を国の人口ビジョンの出生率に置き換えた場合



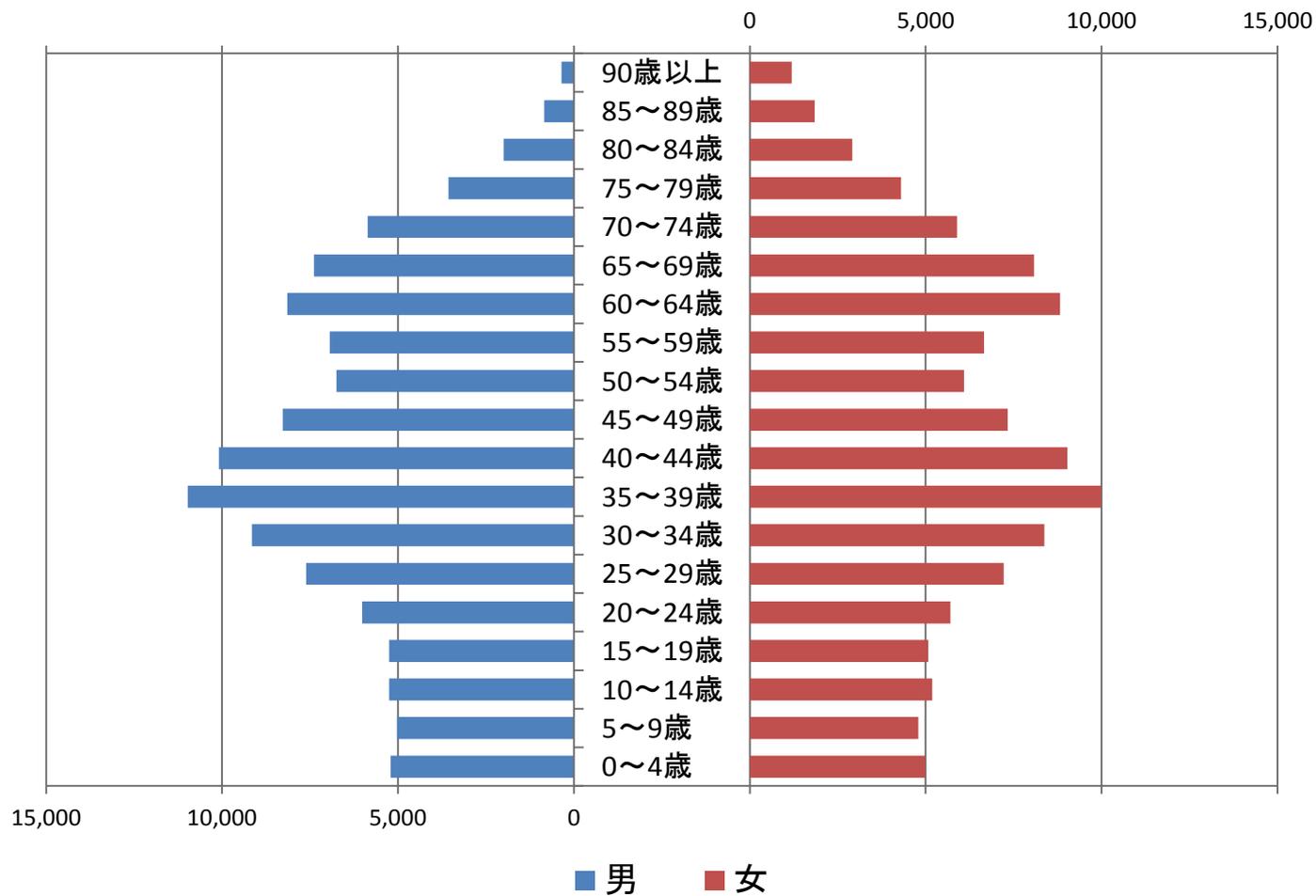
大和市の年齢3区分別人口構成の見通し



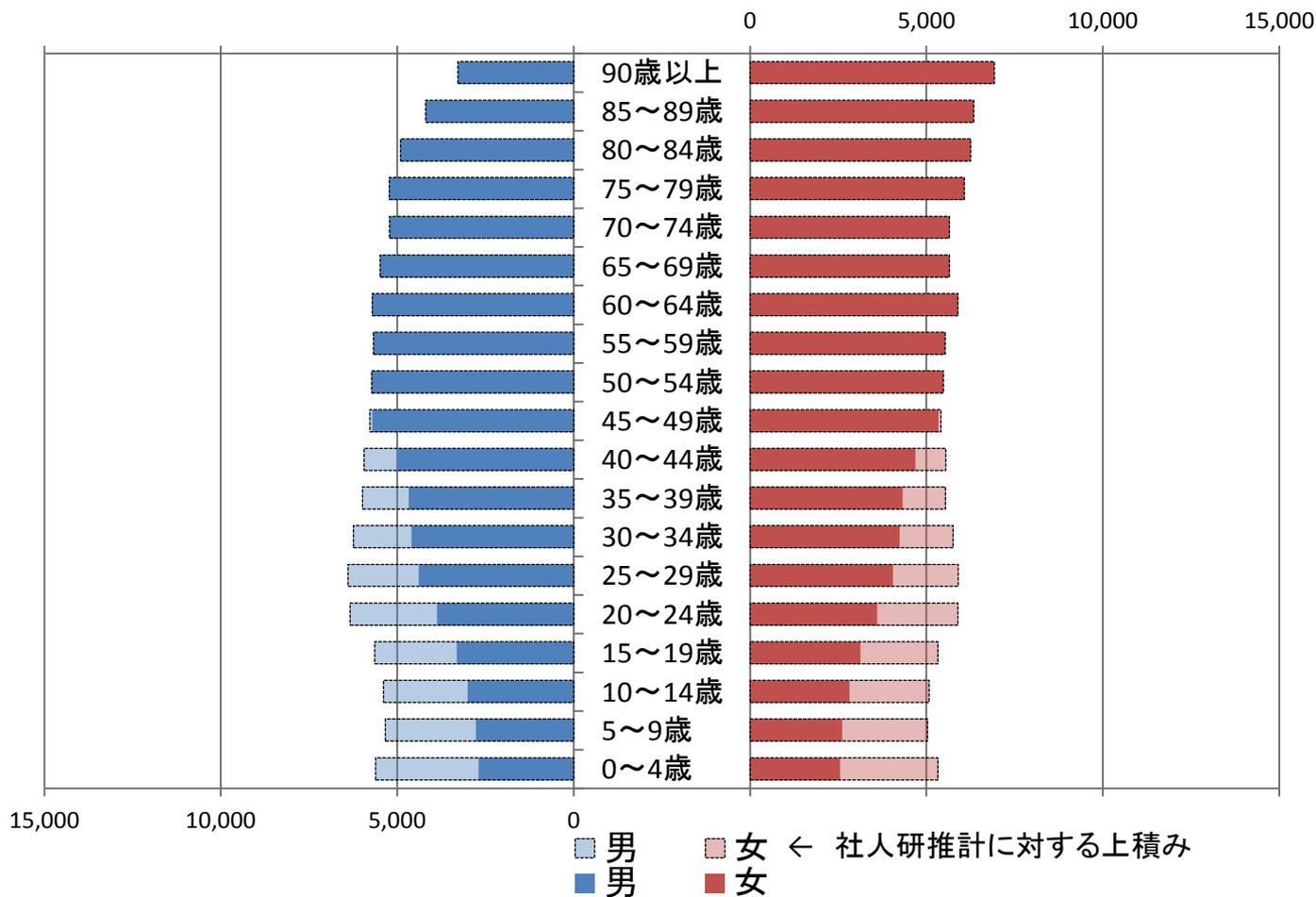
国のビジョンのとおり出生率が上昇した場合の 大和市の年齢3区分別人口構成の見通し



大和市の人口ピラミッドの推移(2010年:実績)



大和市の人口ピラミッドの推移(2060年:社人研推計値との比較)



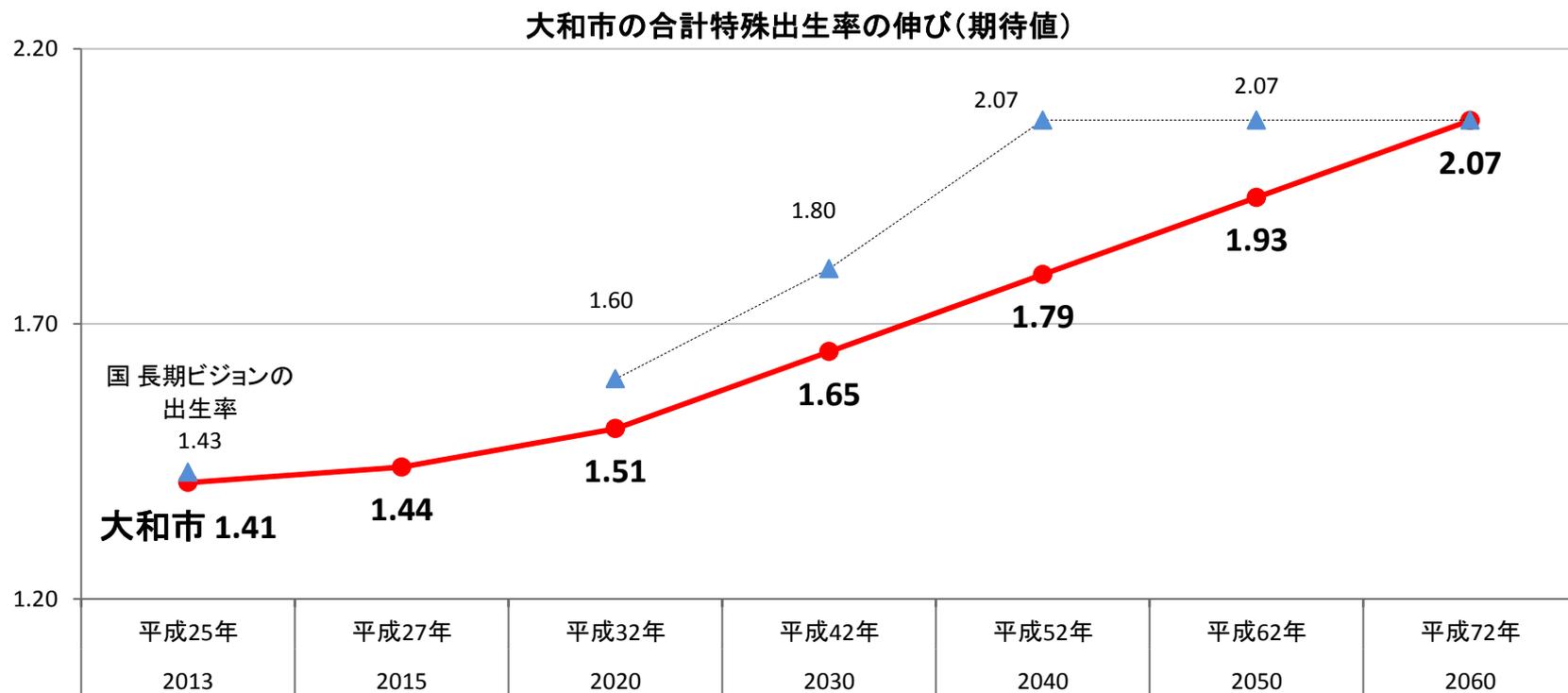
2. 人口の将来展望

ウ). 将来の方向性を踏まえた
人口の見通し

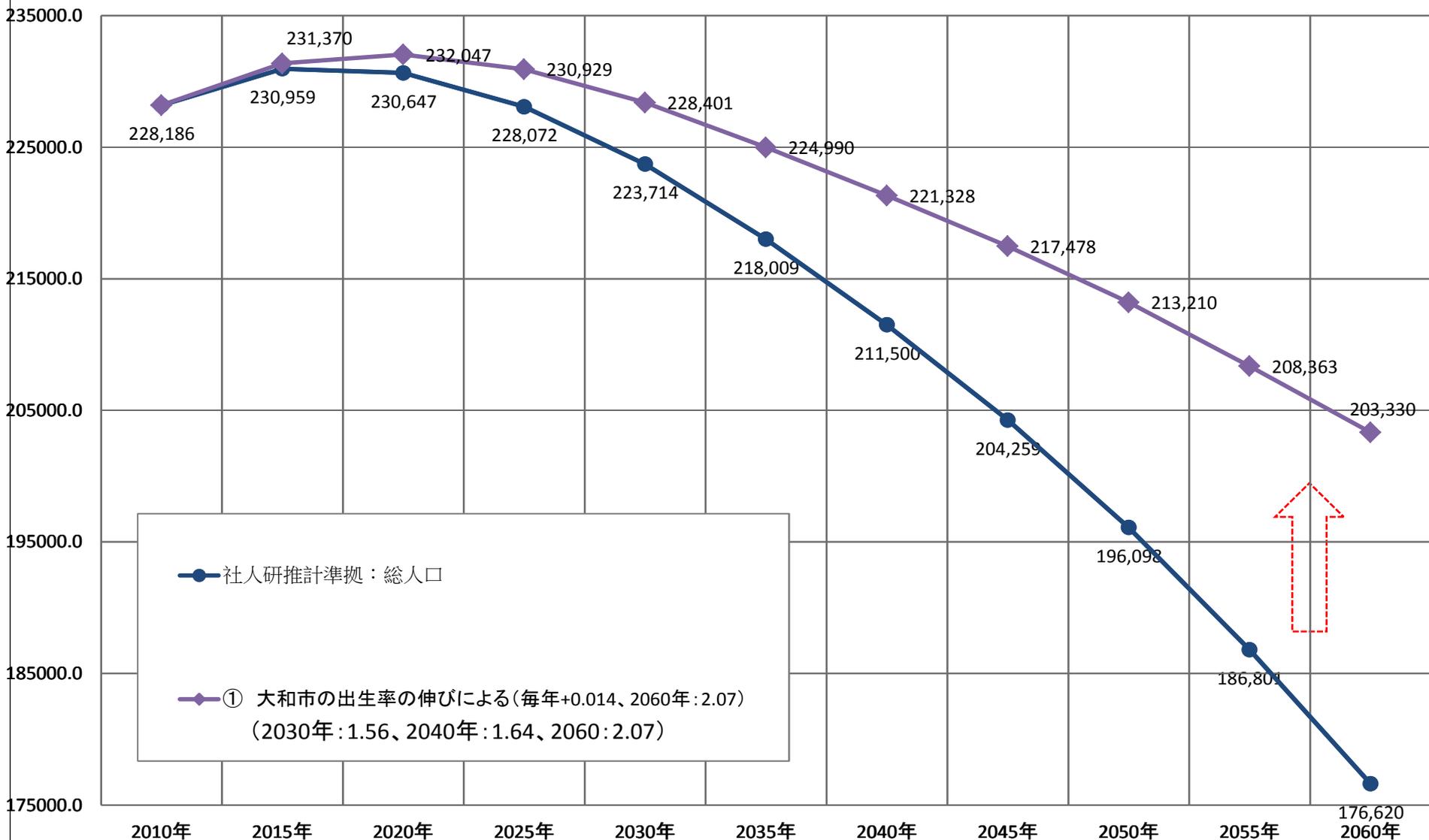
(2) 大和市の実状に即した人口ビジョン

① 近年の出生率の伸び率が持続した場合。

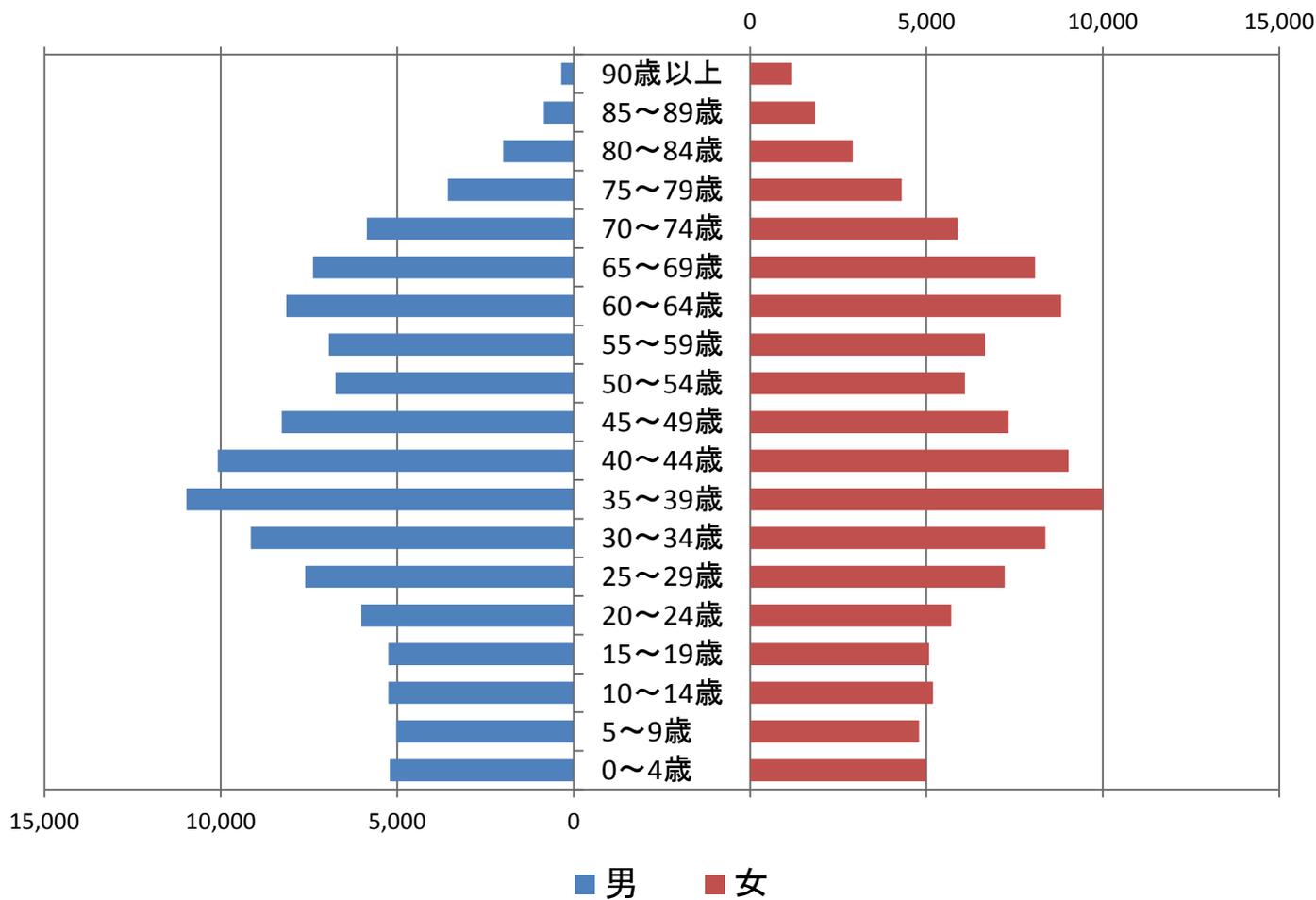
⇒出生率の過去5年平均の伸び率(+0.014)が毎年持続すると、
2060年の出生率は**2.07**に達する。



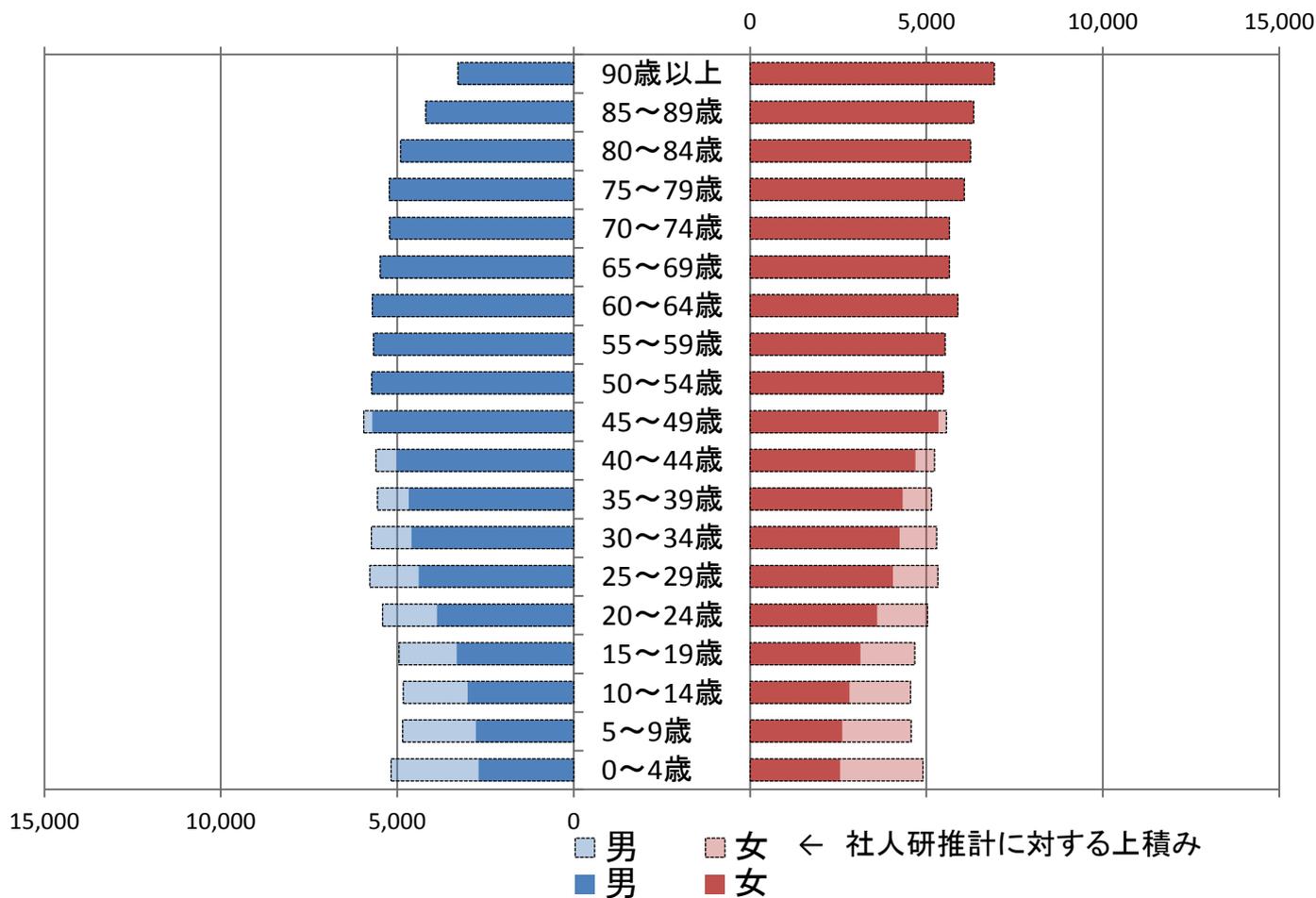
大和市の人口の長期的見通し



大和市の人口ピラミッドの推移(2010年:実績)



大和市の人口ピラミッドの推移(2060年:推計とパターン①の比較)



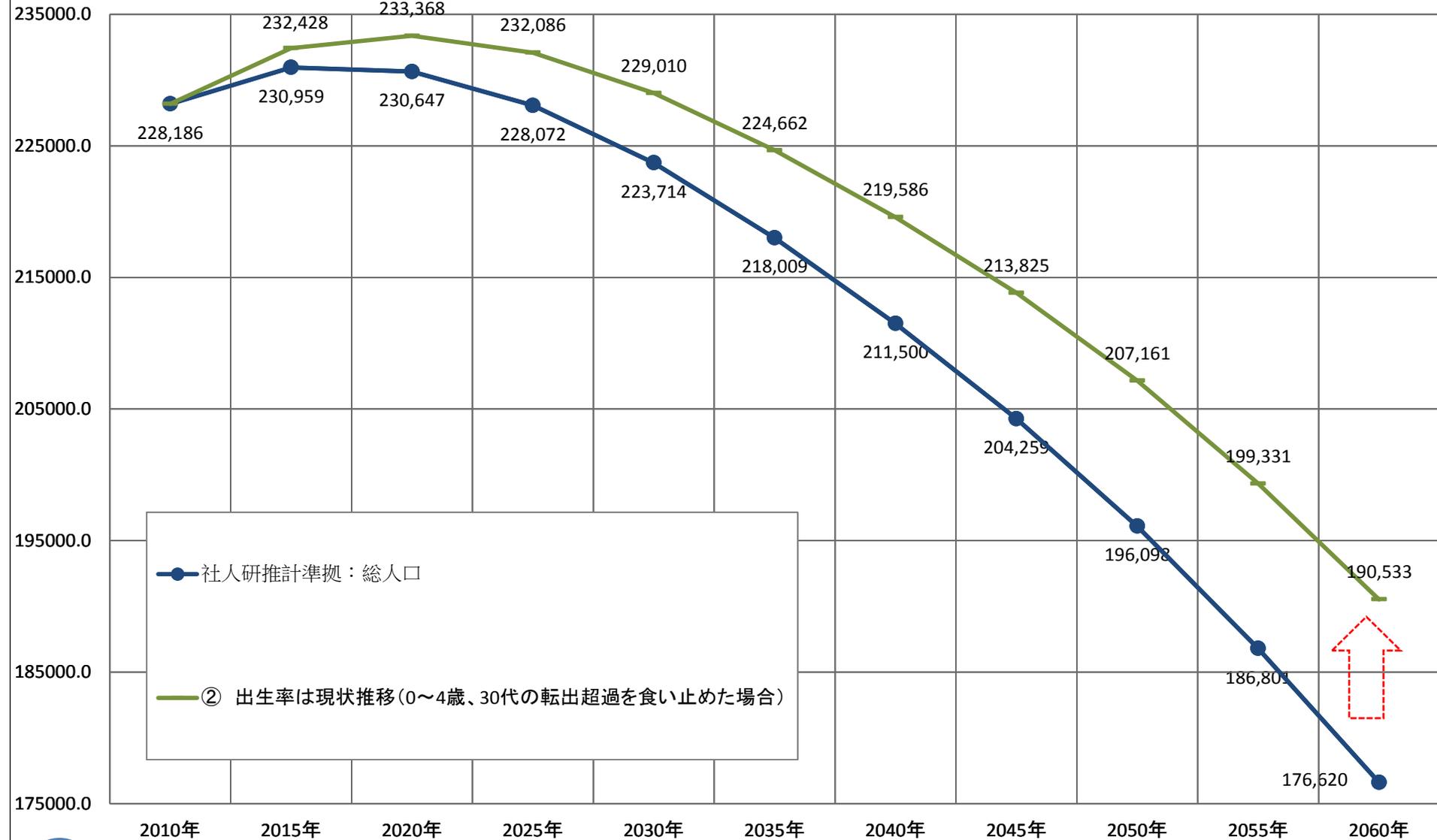
② 本市への定住志向を高め、子育て世代の中心である30代の流出を食い止める。

⇒ 30歳代の転出超過627人(2014年)

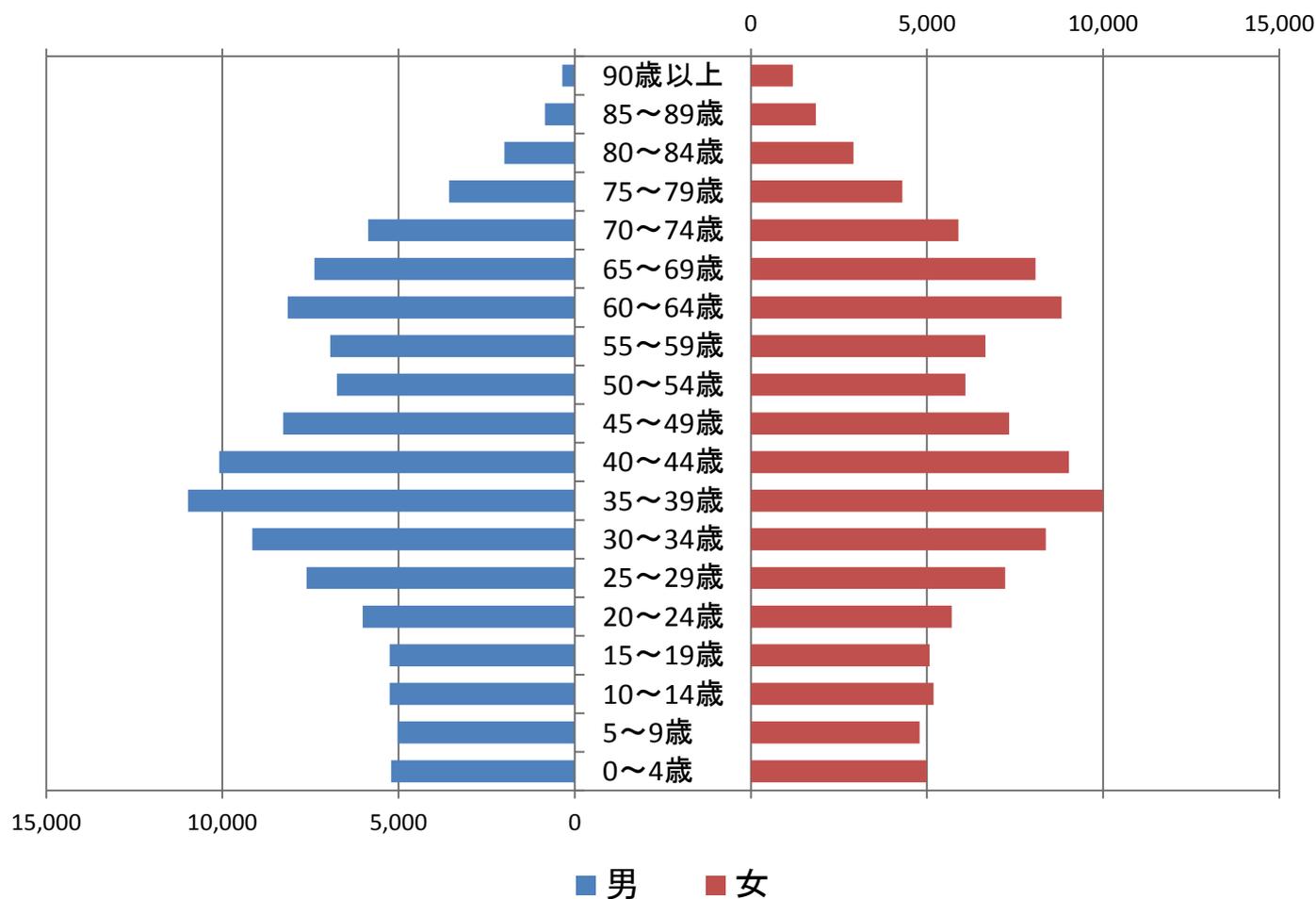


±0を2060年まで継続した場合

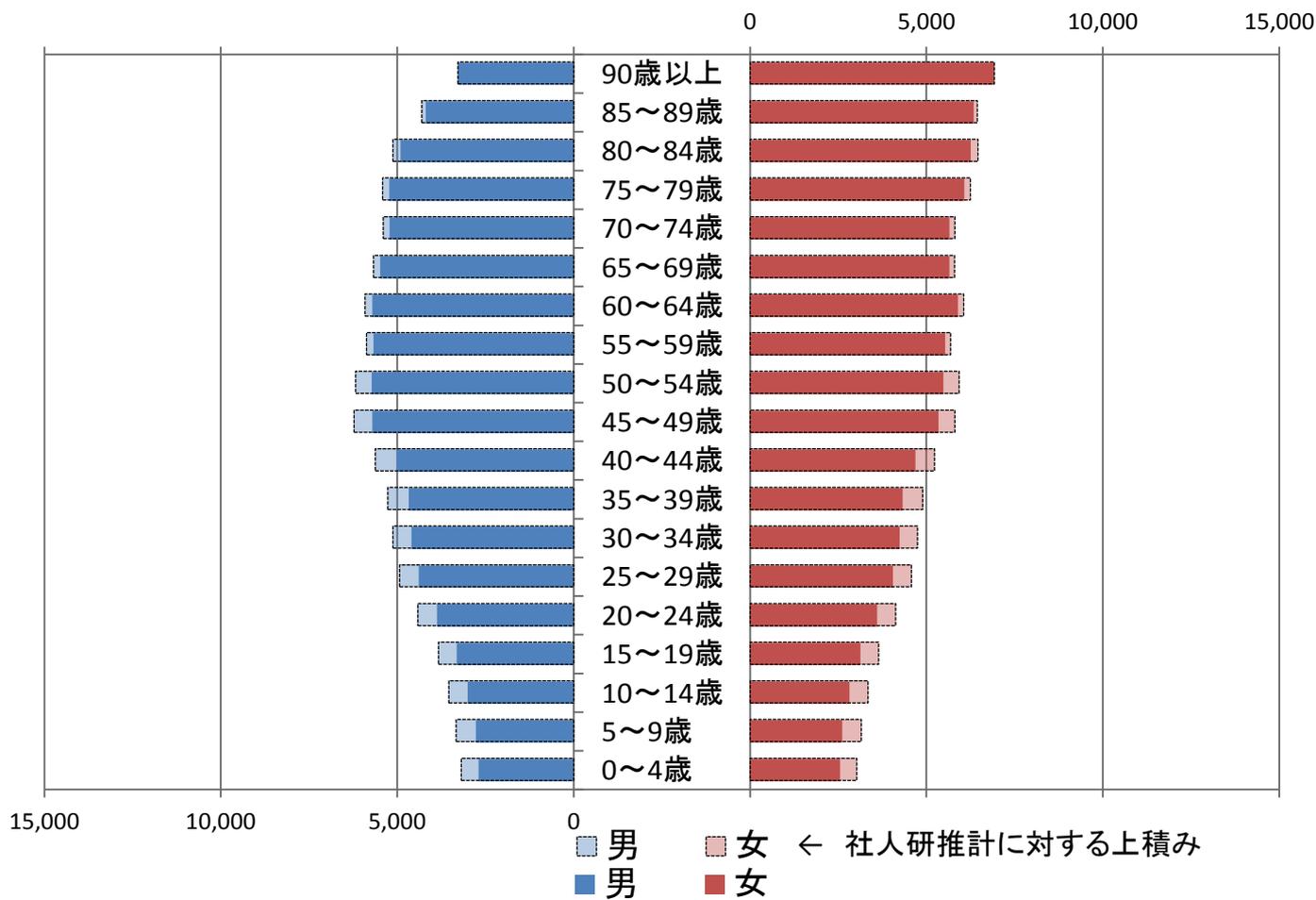
大和市の人口の長期的見通し



大和市の人口ピラミッドの推移(2010年:実績)



大和市の人口ピラミッドの推移(2060年:推計とパターン②の比較)



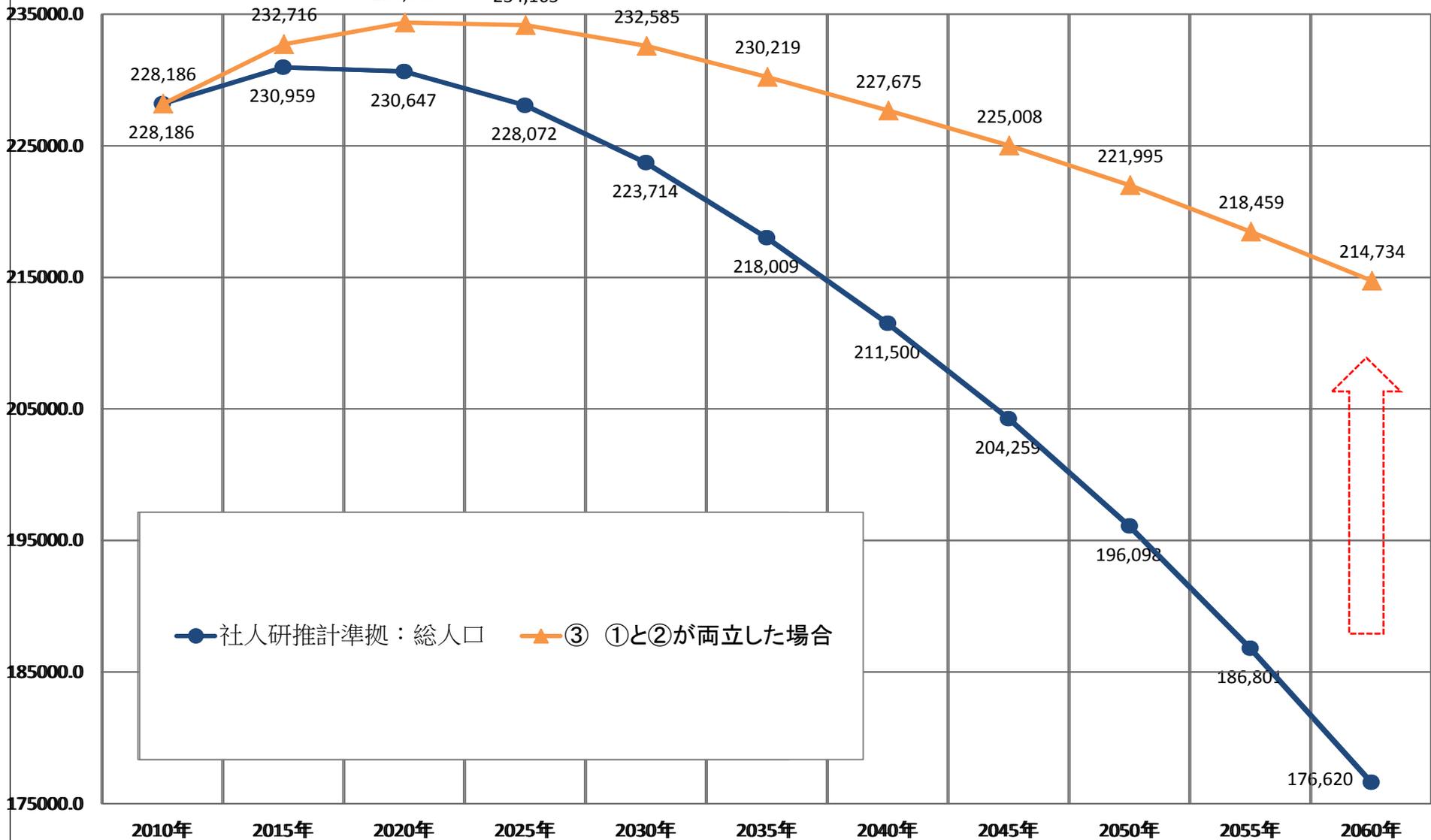
③ ①と②の取り組みを両立させた場合

⇒過去5年平均の出生率の伸び率(年+0.014)が継続し、
2060年の出生率が2.07に達した場合

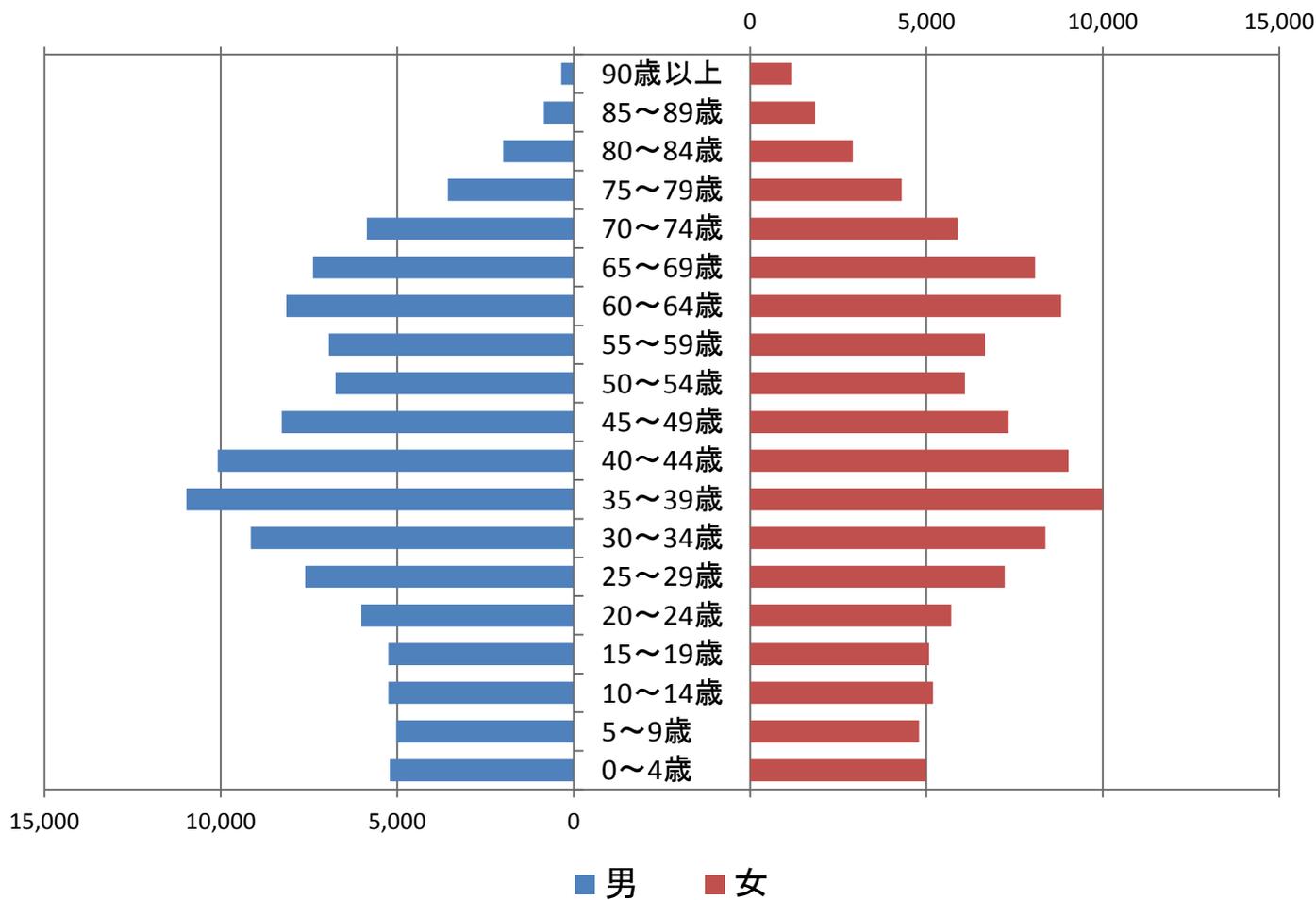


⇒30歳代の転出超過627人(2013年)⇒±0を2060年
まで継続した場合

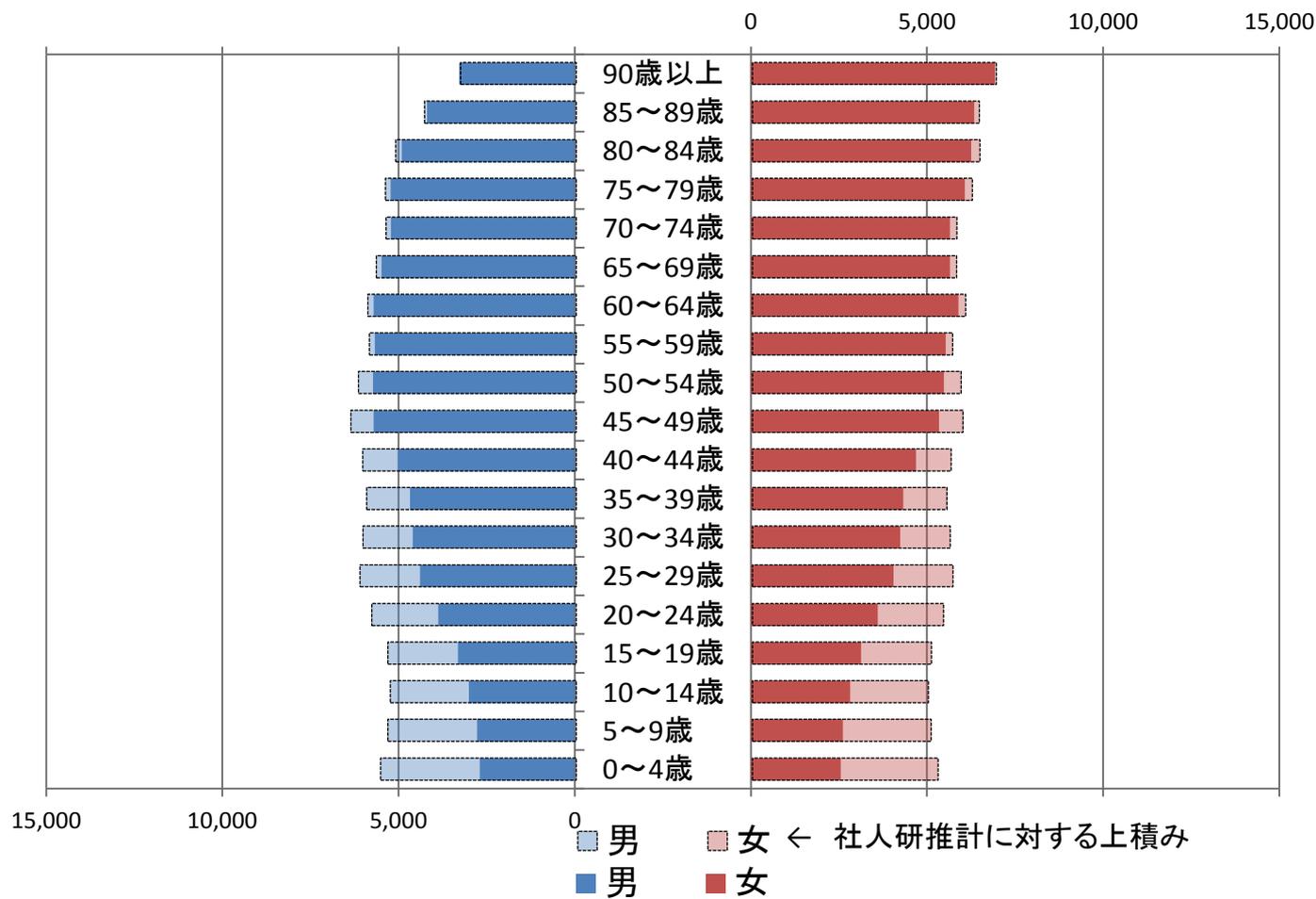
大和市の人口の長期的見通し



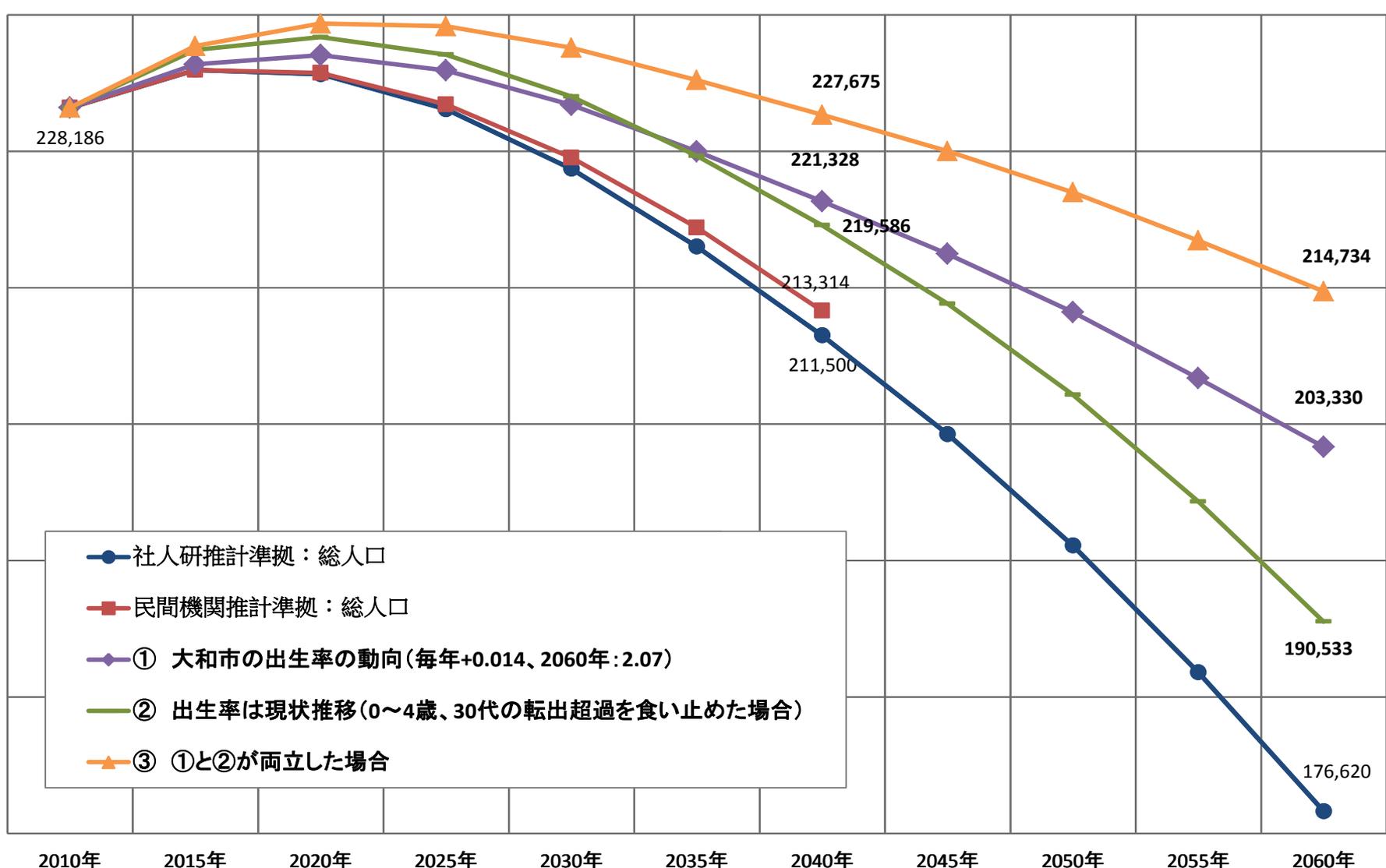
大和市の人口ピラミッドの推移(2010年:実績)



大和市の人口ピラミッドの推移(2060年:推計とパターン③の比較)



大和市の人口の長期的見通し



今後、さらなる分析等を進め、本市にとって
相応しいと考えられる人口の将来展望を定め
ていきます。